

官報

號外 昭和二十一年八月二十八日

○第九十回 貴族院議事速記録第二十四號

昭和二十一年八月二十七日(火曜日)午前
十時二十三分開議

議事日程 第二十四號

昭和二十一年八月二十七日

午前十時開議

第一 帝國憲法改正案(衆議院送付)

第二 電氣事業法の一部を改正する法律案(政府提出)

第三 所得税法の一部を改正する等の法律案(政府提出、衆議院送付)

第四 臨時租稅措置法を改正する法律案(政府提出、衆議院送付)

第五 地方税法及び地方分與税法の一部を改正する法律案(政府提出、衆議院送付)

第六 石炭及コークス配給統制法の一部を改正する法律案(政府提出)

第七 議會ノ續(委員長報告)

第八 議會ノ續(委員長報告)

第九 議會ノ續(委員長報告)

第十 議會ノ續(委員長報告)

第十一 議會ノ續(委員長報告)

第十二 議會ノ續(委員長報告)

第十三 議會ノ續(委員長報告)

第十四 議會ノ續(委員長報告)

第十五 議會ノ續(委員長報告)

第十六 議會ノ續(委員長報告)

第十七 議會ノ續(委員長報告)

第十八 議會ノ續(委員長報告)

第十九 議會ノ續(委員長報告)

第二十 議會ノ續(委員長報告)

第二十一 議會ノ續(委員長報告)

第二十二 議會ノ續(委員長報告)

第二十三 議會ノ續(委員長報告)

第二十四 議會ノ續(委員長報告)

第二十五 議會ノ續(委員長報告)

第二十六 議會ノ續(委員長報告)

〔參照〕

昨二十六日委員長ヨリ豫算委員第三分科豫算委員伯爵大木喜福君ヲ第五分科兼務委員ニ選定シタル旨ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
所得税法の一部を改正する等の法律案可決報告書

臨時租稅措置法を改正する法律案可決報告書

地方税法及び地方分與税法の一部を改正する法律案可決報告書

本日第七部ニ於テ豫算委員川村竹治君ノ補闕選舉ヲ行ヒシニ小山完吉君當選セリ

○議長(公爵徳川家正君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、帝國憲法改正案、衆議院送付、第一讀會、前會ノ續、是ヨリ昨日ニ引續キ質疑ヲ許可致シマス、南原繁君

〔南原繁君登壇〕

○南原繁君 今回ノ憲法改正事業ハ、祖國敗殘ノ後ヲ承ケマシテ、自ラノ過誤ヲ清算シテ、我が國ガ將來完全ナル獨立國トシテ立チ得ルヤ否ヤノ試金石デアルト考ヘルノデアリマス、是迄我

ガ國ノ歴史ニ於キマシテ、之ガ審議ニ當リマスル今期議會位重大ナル使命ヲ帶ビタモノハ曾テナカッタデアリマセウ、併シソレニモ勝ツテ、此ノ草案ノ作成ノ任ニ專ラ當リ來ツタ政府ノ責務ノ極メテ重大ナルヲ想フ者デアリマス、何故ナレバ今回ノ憲法改正事業ノ成否ハ、一ニ懸ツテ此ノ草案ノ作成ニアツタト考ヘルカラデアリマス、此ノ意味ニ於キマシテ、政府ガ憲法改正ニ際シテ當初カラ如何ナル根本方針ト態度ヲ以テ臨マレタカ、又此ノ草案ガ如何ナル成立過程ヲ辿ツタカト云フコトヲ、私ハ極メテ重大視スル者デアリマス、斯カル見地カラ私ハ草案自體ノ質疑ニ入ルニ先立チマシテ、先ヅ此ノ問題ニ付キマシテ、相關聯シタ數箇ノ點ニ付テ御尋ヲ申シタイノデアリマス、ソレ等ニ付キマシテハ前首相、幣原國務大臣並ニ吉田總理大臣カラソレモ、御答辭ヲ煩シタイノデアリマス、抑々日本ガ將來國際社會ニ伍シマシテ恥ツルナキ獨立國トナル爲ニハ、何ヨリモ正義ト、自由ガ人類ノ至寶デアルコトヲ改メテ認識致シマシテ、外ハ世界ニ向ツテ最早戰端ヲ開カズ、却テ人類ノ間ニ實現セラルベキ高貴ナル理想ヲ自

覺シタ平和的國家ノ建設デアリマス、又内ニ向ヒマシテハ、最早人ノ人ニ對スル壓迫ト隷屬ヲ知ラズ、再ビ大權ノ濫ニ隱レテ人間ノ自由ノ權利ヲ抑壓スル危險ノナイ國民共同ノ民主國家ノ建設デナケレバナリマセヌ、此ノ事ハ我が國ガ受諾致シマシタル「ボツダム」宣言ノ結果カラサウデアアルバカリデナクシテ、實ハ日本ガ自ラノ更生ノ爲ニ進シテ斷行シナケレバナラヌ所ノ問題デアリマス、而シテ其ノ事ハ外ナラヌ國家ノ基本法タル憲法ニ向ツテ、根本的ナ改革ヲ加ヘナケレバナラヌト云フ問題デアリマス、從ツテ之ガ解決ハ單ニ法律解釋論的ナ立場ニ因ハレルコトナク、世界ノ政治的動向ト、時代ノ意義ヲ能ク洞察致シマシテ、之ニ適應シタモノデナケレバナリマセヌ、然ルニ當時幣原首相ハ此ノ問題ニ關シマシテ、果シテ問題ノ重要性ヲ認識サレテ、之ニ相應シキ根本的ナ對策ヲ御持ニナツテ居ッタカドウカト云フコトヲ先ヅ第一ニ御伺ヒ致シタイノデアリマス、ト申シマスノハ、昨年十月松本國務相ヲ中心ト致シマシテ、憲法問題調査委員會ナルモノガ設立致サレマシタ、ケレドモ何故カ殆ド最後ニ至ル迄、同國務相ノ一ツノ試案トシテ之ヲ取扱ツテ、而モ其ノ内容ハ憲法一條カラ四條ニ至ル所謂天皇統治ノ大權ニ付テハ變更ノナイ旨ヲ、昨年十二月ノ衆議院ノ豫算總會ニ於テ當局ノ發表セラレタ答辭、又越エテ本年二月上旬新聞ニ發表セラレタ當局ノ

談話ニ依ツテ、我々ハ之ヲ知ルノデアリマス、心アル人々ハ斯様ナ政府ノ消極的デアリ、寧ロ現状維持的デアリ、而モ在昔時ヲ過シツ、アルコトヲ國家ノ爲ニ憂ヘ來ツタノデアリマス、然ルニ本年ノ三月六日突如トシテ現在ノ政府草案ノ要綱ガ發表サレタノデアリマス、此ノ日位大キナル衝動ヲ國民ニ與ヘタコトハ、昨年終戰ノ詔書頒發以來此ノ一年ナカッタコトデアルト申シテ差支ナイデアリマセウ、ソレハ其ノ内容ガソレ迄各政黨並ニ各種研究團體ノ發表致シマシタル各、ノ憲法改正案トモ根本的ナ懸隔ガアツタバカリデナシニ、何ヨリモ政府自ラガ調査シ審議シ來ツタコトハ殆ド二ツノ極ノ間ノ懸隔ガ其處ニ認めラレルカラデアリマス、茲ニ第二ニ御尋ヲ致シタイノハ、憲法改正ト云フ如キ重大ナル案件ニ付キマシテ、斯様ナ急激ナル變化、恐ラクハ同一政府ノ下デハ執リ得ベカラザル政策ノ根本的轉回デアリマス、ソレガドウシテ左様ニナツタカト云フコトデアリマス、國民ハ今日迄之ヲ不可解トシテ、尙疑惑ノ中ニアルノデアリマス、吉田總理大臣ハ之ヲ御説明ニナリマシテ、國際事情ノ急激ナル變化ニ基クと言ツテ居ラレマス、併シナガラ衆議院ニ於テ首相ノ左様ニ御答辭爲スツテ居ルガ如キモノト致シマスルナレバ、ソレハ豫見シ得ルコトデアアル、ソレヲモ考慮シテ、初メカラ政府ハ確

切ニ平和的國家ノ建設デアリマス、又内ニ向ヒマシテハ、最早人ノ人ニ對スル壓迫ト隷屬ヲ知ラズ、再ビ大權ノ濫ニ隱レテ人間ノ自由ノ權利ヲ抑壓スル危險ノナイ國民共同ノ民主國家ノ建設デナケレバナリマセヌ、此ノ事ハ我が國ガ受諾致シマシタル「ボツダム」宣言ノ結果カラサウデアアルバカリデナクシテ、實ハ日本ガ自ラノ更生ノ爲ニ進シテ斷行シナケレバナラヌ所ノ問題デアリマス、而シテ其ノ事ハ外ナラヌ國家ノ基本法タル憲法ニ向ツテ、根本的ナ改革ヲ加ヘナケレバナラヌト云フ問題デアリマス、從ツテ之ガ解決ハ單ニ法律解釋論的ナ立場ニ因ハレルコトナク、世界ノ政治的動向ト、時代ノ意義ヲ能ク洞察致シマシテ、之ニ適應シタモノデナケレバナリマセヌ、然ルニ當時幣原首相ハ此ノ問題ニ關シマシテ、果シテ問題ノ重要性ヲ認識サレテ、之ニ相應シキ根本的ナ對策ヲ御持ニナツテ居ッタカドウカト云フコトヲ先ヅ第一ニ御伺ヒ致シタイノデアリマス、ト申シマスノハ、昨年十月松本國務相ヲ中心ト致シマシテ、憲法問題調査委員會ナルモノガ設立致サレマシタ、ケレドモ何故カ殆ド最後ニ至ル迄、同國務相ノ一ツノ試案トシテ之ヲ取扱ツテ、而モ其ノ内容ハ憲法一條カラ四條ニ至ル所謂天皇統治ノ大權ニ付テハ變更ノナイ旨ヲ、昨年十二月ノ衆議院ノ豫算總會ニ於テ當局ノ發表セラレタ答辭、又越エテ本年二月上旬新聞ニ發表セラレタ當局ノ

談話ニ依ツテ、我々ハ之ヲ知ルノデアリマス、心アル人々ハ斯様ナ政府ノ消極的デアリ、寧ロ現状維持的デアリ、而モ在昔時ヲ過シツ、アルコトヲ國家ノ爲ニ憂ヘ來ツタノデアリマス、然ルニ本年ノ三月六日突如トシテ現在ノ政府草案ノ要綱ガ發表サレタノデアリマス、此ノ日位大キナル衝動ヲ國民ニ與ヘタコトハ、昨年終戰ノ詔書頒發以來此ノ一年ナカッタコトデアルト申シテ差支ナイデアリマセウ、ソレハ其ノ内容ガソレ迄各政黨並ニ各種研究團體ノ發表致シマシタル各、ノ憲法改正案トモ根本的ナ懸隔ガアツタバカリデナシニ、何ヨリモ政府自ラガ調査シ審議シ來ツタコトハ殆ド二ツノ極ノ間ノ懸隔ガ其處ニ認めラレルカラデアリマス、茲ニ第二ニ御尋ヲ致シタイノハ、憲法改正ト云フ如キ重大ナル案件ニ付キマシテ、斯様ナ急激ナル變化、恐ラクハ同一政府ノ下デハ執リ得ベカラザル政策ノ根本的轉回デアリマス、ソレガドウシテ左様ニナツタカト云フコトデアリマス、國民ハ今日迄之ヲ不可解トシテ、尙疑惑ノ中ニアルノデアリマス、吉田總理大臣ハ之ヲ御説明ニナリマシテ、國際事情ノ急激ナル變化ニ基クと言ツテ居ラレマス、併シナガラ衆議院ニ於テ首相ノ左様ニ御答辭爲スツテ居ルガ如キモノト致シマスルナレバ、ソレハ豫見シ得ルコトデアアル、ソレヲモ考慮シテ、初メカラ政府ハ確

官報號外 昭和二十一年八月二十八日

貴族院議事速記録第二十四號 議長ノ報告 會議 帝國憲法改正案 第一讀會(前會ノ續) 國務大臣ノ演說ニ對スル南原君ノ質疑

乎タル之ニ向ツテノ方策ヲ講ジテ居ルベキ筈ノモノデアリマス、ソレナニ、失禮ナガラ我が國外交界ノ二大長老デアラレル御兩相ガ此ノコトヲ認識サレナカッタ、而シテ事態茲ニ至ツタトスルナレバ、ソレハ事ヲ餘リニ安易ニ御考ニナツタ爲デ、端のニ申シマシテ、ソレハソレ迄ノ長イ間ノ政府ノ消極の現狀維持の態度ガ根本ノ原因ヲナシタノデハナイカト云フコトヲ、私ハ御尋ネ申シタイノデアリマス、ソコニハ實ハ政府ノ責任ノ問題モオアリニナツタノデハナイカト云フコトモ考ヘラレマス、是等ノ點ニ付キマシテ前首相幣原國務大臣ニ御辯明ヲ煩シタイノデゴザイマス、次ニ第三ニ、草案ノ内容ノ可否ハ姑ク別ト致シマシテ、該草案ノ制定方法ノ非民主的デアツタト云フコトニ付デアリマス、凡ソ新憲法ガ眞ニ民主的デアアルガ爲ニハ、獨リ其ノ内容ニ於テノミナラズ、其ノ制定方法ニ於テ、正ニソレニ相應シク民意ニ基イタ公明ナル、自由ノ討議ヲ前提トスベキデアリマス、サウシテ其ノコトハ獨リ議會ニ於ケル決定ニ於テノミナラズ、草案自體ノ作成ノ過程ニ於テ、正ニサウデナケレバナラスト存ズルノデアリマス、此ノ意味ニ於キマシテ、本來改正案自體ガ國民ノ選ンダ代表者タル議會ニ於テ作成サレルベキコトハ、一ツノ理想ト考ヘラレルノデアリマス、併シ政府ハ憲法ノ法的繼續性ヲ保ツガ爲ニ、現行憲法ノ七十三條ニ依ッ

テ此ノ度ノ改正ヲシテ居ラレマス、ソレハ私ハ認メマス、然ラバ妙クトモ斯ナル議會人ヲ中心ト致シマシテ、ソレニ學者、經驗家ヲ加ヘマシテ、日本ノ國ノ有ラユル角度カラノ意思ト睿智ヲ結集シタル憲法審議會ヲ作ラレルト云フコトハ、是迄ノ日本ノ重要ナル法案ニ付テサハ探ラレ來ツタ所ノ方法デアツタノデアリマス、然ルニ之ヲモセラレナイデ、國民ノ知ラナイ間ニ改正案ガ作成サレマシテ、ソレガニ政府ノ決定案トシテ御發表ニナツタト云フコトハ、ドウ云フ理由ニ基クノデアリマスルカ、ソレデハ如何ニモ獨斷のデ、又シテモ上ヨリ與ヘラレタル憲法ト云フ感ガアルノデアリマス、一體政府ハ本案通過ニ對シマシテ、何故左様ニ性急デアラレルノカ、此ノ問題ニ付キマシテハ昨日總理大臣カラノ御答辯ニ依リマシテ、内外ノ情勢上速カニ之ヲ作成スル必要ガアツタト云フコトヲ御述ニナリマシタ、私ハ其ノコトヲ了解致シマス、併シ妙クトモ、然ラバ今申上デマシタ憲法審議會ノ外ニ、今期ノ此ノ議會トハ別ニ、草案ニ對スル十分ノ審議、討議ヲ盡スガ爲ニ、此ノ秋アタリニ於テ特別ニ其ノ爲ノ憲法會議ヲ御開ニナル用意ハ何故ナカッタノデアアルカ、ソレサヘナカッタノデアアルカドウカ、現ニ六月下旬ニ召集サレマシタ今期議會ニ於テ、最初ハ會期僅カ四十日、其ノ間ニ諸法案斯クノ如ク錯綜シテ居リマスル中ニ憲法ヲ織込シデ、是

デ總テヲ議シシ去ラウトセラレタコトハ、ソレ程性急ナノハドウ云フ理由ニ依ルノデアアルカ、衆議院ノ憲法審議ノ期間ダケデモ二箇月ヲ要シマシタ、政府ハ一再ナラズ大幅ノ會期ヲ延長セザルヲ得ナクナツタト云フコト自體、ソコニ政府ノ何カノ艱難ハナカツタカ、サウ云フコトニ對シマシテ國民ヲ納得セシムルダケノ御答辯ヲ、吉田總理大臣ニ御願ヒ申上ゲタイノデアリマス、更ニ第四ハ、私ノ質疑ハ、三月六日彼ノ憲法草案要綱發表ノ際ニ、當時ノ幣原總理大臣ガ謹語ヲ發表サレマシタ其ノ中ニ、此ノ草案ハ聯合軍司令部トノ緊密ナル連絡ノ下ニ作成セラレタト云フコトヲ御發表ニナツタコトニ關シテデアリマス、此ノコトハ恰モ昨日同ジウ致シマシテ發表セラレマシタ聯合軍最高司令部ノ聲明ニ依リマシテ、ソレガ我が當局ト「聯合軍最高司令部關係當局ト」苦心ニ滿チタ研究ト、幾回トナキ會談」ニ依ツテ行ハレタモノデアルト云フコトヲ、我々ハ了解致スノデゴザイマス、我が國ノ運命ヲ決スル重大ナル憲法改正ノ起草ガ、最後ノ段階ニ至リマシテ斯クノ如キ結果ニナラザルヲ得ナカツタト云フコトニ對シマシテ、政府ハ如何様ニ御考ニナルノデアリマスルカ、其ノ間ニ於キマスル政府ノ御苦心ニ付キマシテハ十分察知ハ致シマスルケレドモ、私共ハ日本政府ガ此ノ憲法ノ改正ニ對シテ、最後迄自主自律のニ旨ヲ責任ヲ以テ之ヲ決行ス

ルコトノ出來ナカツタト云フコトヲ極メテ遺憾ニ感じ、國民ノ不幸、國民ノ恥辱トサヘ私共ハ感じテ居ルノデアリマス、斯クノ如ク致シマシテハ、憲法ハ獨リ上ヨリ與ヘラレタト云フダケデナシニ、或ハ外ヨリ與ヘラレタノデハナイカト云フ印象ヲ與ヘル危險ハナイカト云フコトデアリマス、現ニ巷間左様ナク臆說モ行ハレテ居ルト云フコトハ蔽フベカラザル事實デアリマス、若シ是ガ國民ノ相當ノ廣イ範圍ニ廣マルナレバ、是ハ大事ナ問題デアリマス、新憲法ノ安定性ノ上カラ申シテ極メテ憂慮スベキ問題ガアルト考ヘマスルガ、政府ノ御所感ハドウデデアリマスカ、又政府ハ斯カル印象ト臆測トヲ拂拭シ去ルガ爲ニ、如何ナル確信ト、又如何ナル方法トヲ以テ之ニ御臨ニナツテ居ルカト云フコトヲ、吉田總理大臣ニ御伺ヒ申上ゲタイノデアリマス、又他面斯クノ如キ結果ニナリマシタト云フコトニ付テ、聯合國ノ名譽ヲ傷ツケル虞ハナイカト云フコトヲ考ヘルノデアリマス、私共ハ「ボツダム」宣言附屬文書ニ依リマシテ、聯合軍ノ進駐シテ居ル期間、帝國政府ハ其ノ最高司令官ノ下ニ從屬シテ居ルト云フコトヲ承知シテ居リマス、又實際ソレニ依リマシテ幾多ノ良キ改革ガ、本來我々ノ手ニ依ツテ爲スベキ良キ改革ガナサレツ、アルコトモ存ジテ居リマス、併シナガラ此ノ同ジ文書ニ依リマシテ又私共ハ知ツテ居リマス、

即チ日本國ノ最終政治形態ハ、日本國民ノ自由ニ表明シタル意思ニ依ツテ決定スルト云フコトヲ書カレテアリマス、從ツテ少クトモ此ノ問題ニ關シマシテハ、政府ノ草案作成ニ當リマシテモ、右文書ノ趣旨ト精神ニ從ヒマシテ、假令國際情勢ガドウデアリマセウトモ、其ノ變化ノ一ツ々々ニ左右セラレ、コトナクシテ、日本トシマシテハ「ボツダム」宣言ノ要求ニ忠實ニシテ、初メカラ確乎タル方針ヲ以テ自主自律的ニ、政府ノ運命ヲ賭ケテモ之ヲ斷行スベキ筈デナカツタカト考ヘルノデアリマス、此ノ「ボツダム」附屬文書トノ關係ヲ如何ヤウニ御解釋ニナルノデアリマスカ、是ハ吉田總理大臣ニ御尋ネ申上ゲタイノデアリマス、或ハ言フカモ知レマセス、ソレハ單ナル一ツノ草案ニ過ギナイト、併シナガラ私ハ此ノ點ニ關シテ聯合軍最高司令官ニ懇ヘタイノデアリマス、斯クノ如クシテ作成サレ、而モ最高司令官ノ全面的支持ト承認ト下ニ發表サレタ草案ガドレダケ大ナル影響ト結果ヲ持ツテ居ルカト云フコトハ、「マッカーサー」元帥ノ御想像ニナラヌコトデアリマセウ、其ノコトハ彼ノ要綱ノ發表サレマシタ翌日カラ、ソレ迄ニ作成發表サレタ各政黨ノ草案ガ影ヲ潛メ去ツテ、各政黨舉ツテ此ノ原案ニ贊成スルニ至ツタト云フ事實ヲ見テモ分ルノデアリマス、斯様ナコトハ「アメリカ」ノヤウナ「デモクラシー」ノ發達シタ國デハ或ハナイカモ

知レマセケドモ、是ガ日本ノ現狀
デゴザイマス、我が國ハ今憲法改正ヲ
通シマシテ、民主主義ノ訓練ヲ受ケッ
ツアルノデアリマス、處ガ最近七月二
十一日、丁度此ノ議會ガ始マリマシタ
勢頭ニ當リマシテ、聯合軍最高司令官
ガ再ビ聲明ヲ發表セラレマシタ、其ノ
中ニ、斯カル憲章ノ採擇ガ日本國民ノ
自由ナ意思ノ表明タルヲ示スベキコト
ガ絕對ニ必要デアル、ソレヲ草案通リ
ニ採擇スルカ、修正ヲ加ヘルカ、或ハ
否決スルカ、即チ其ノ形式ト内容ヲ決
定スルノハ、一ニ日本國民ガ正當ニ選
出シタル議員ノ手ニ依ッテ行フベキデ
アルト發表セラレマシタ、是ハ正ニ斯
クアルベキコト存ジマス、然ルニ
丁度此ノ朝、當貴族院ニ於キマシテ吉
田總理大臣ハ、特ニ我々ノ注意ヲ喚起
サレマシテ、憲法草案ニ對スル論議ハ
自由デアルケレドモ、國際關係ヲ考慮
セヨト云フ要請ガアリマシタ、此ノコ
トハ今期ノ貴衆兩院ヲ通ジテノ憲法審
議ノ根本前提ニナツテ居ルコト思ヒ
マス、以上ノヤウナ首相ノ言明ハ、
「マッカーサー」元帥ノ聲明ノ趣旨ト背
反スルモノガアルノデハナイカ、寧ロ
日本ノ總理大臣ハ元帥ノ公明ナル態度
ニ應ヘラレテ、同ジヤウナコトヲ我々
議會ニ向ッテ要望シ激勵セラルベキ管
デハナカツタカト云フコトヲ御尋ネ申シ
タイノデアリマス、政府ノ隠レ場ハ又
シテモ國際情勢デアリマス、併シナガ
ラ日本ト致シマシテハ、「ボツダム」宣

言ト其ノ執行ニ當ッテ居ラレル最高司
令官ノ聲明トニ對シテ、更ニハ其ノ根
本ニ於テ自由ト眞理トニ對シテ忠實ナ
ル外ニ、何ヲ迷ヒ何ヲ疑フ必要ガアリ
マスルカ、我々ハ固ヨリ敗戰國ト致シ
マシテ、謙虛デアリマスルト同時ニ、
大膽ニ眞理ヲ眞理トシ、之ヲ自由ニ主
張シ、論議シ、懇ヘテ然ルベキデハア
リマセムカ、是ガ「デモクラシー」ノ根
本精神デモアリマス、聯合國
ガ日本ニ要求シテ居リマスルノ
ハ、實ニソレ以外ノモノデハナ
イ筈デアリマス、將來日本ガ
國際場裡ニ伍シテ、列國ノ信賴ヲ贏
テ、世界人類ニ寄與貢獻シ得ルノハ、斯
カル國民ニナツテ始メテ可能デアルト
私ハ考ヘルノデアリマス、憲法改正ニ
對スル政府ノ態度、方針ノ自主自律性
ヲ疑ハシムル尙一ツノ質疑ト致シマシ
テ私ノ問題ト致シタイノハ、草案全體
ヲ通ジマシテ、其ノ構造並ニ文體ニ關
シテデアリマス、是ハ草案ヲ一讀スル
者ハ何人モ、其ノ構造ニ於テ又表現形
式ニ於テ、是レ迄ニ我が國ノ立法例ニ
嘗テ見ラレナカツタ程ノ外國調ニ滿チ
テ居ルト云フコトヲ感ジナイ者ハゴザ
イマセス、現行憲法ハ周知ノヤウニ、
「プロシヤ」ニ其ノ範ヲ取ツテ居リマス
ルケレドモ、我々ノ先輩ハ之ヲ日本ノ
モノトスルガ爲ニ、ドレダケ努力ヲ拂
ヒマシタコトデアリマスルカ、此ノ度
敗戰ヲ轉機ト致シマシテ、今改メテ米
英ノ、殊ニ「アメリカ」ノ立法例乃至政

治文獻ヲ參照スルト云フコトハ想像サ
レ得マスルシ、又大イニ其ノ必要ハア
ルト考ヘル者デアリマス、併シナガラ
是ハ又恰モ何カノ都合デ初メ一先ヅ英
文デ纏メテ置イテ、ソレヲ日本文ニ譯
シタガ如キ印象ヲ與ヘルノデアリマ
ス、占領治下ノ暫定憲法ト云フナレバ
イザ知ラズ、之ヲ其ノ儘獨立國家タル
日本ノ憲法トシテ、我々が子孫後代ニ
傳ヘルニ足ル形式ヲ果シテ持ツテ居ル
カドウカ、我が國ノ立法技術者ニ果シ
テ其ノ人ガナカツタノカドウカ、之ニ
關シマシテ政府ノ御措置ニ大ナル遺憾
ハナカツタノカ、特ニ吉田總理大臣ニ
御説明ヲ願ヒタイノデアリマス、事ハ
獨リ文體ト其ノ構造ニ關スル問題ニ止
リマセス、ソレハ總テ精神ト内容ニ關
係シタ部分ガゴザイマス、是ヨリ草案
内容ニ關スル主要ナ問題ニ付キマシテ
質疑ヲ致シタイト存ジマス、改正草案
内容ニ付キマシテ私ノ質疑ノ第一項目
ハ、日本國家ノ所謂政治ノ基本性格ニ
關シテデゴザイマス、申ス迄モナク、
是ハ天皇制ヲ繞ル日本政治ノ民主化ノ
問題デゴザイマス、私ハ最初自分ノ主
觀ヲ混ヘズニ、法案ヲ客觀的ニ解釋ス
ルコトニ依リマシテ、ソレガ政府ノ言
明セラレテ居ル所ト問ニ大ナル顛
顛、或ハ矛盾ガナイカト云フコトヲ御
尋スル積リデアリマス、先ヅ第一點ハ
天皇制自體ニ付デアリマス、草案ニ
於キマシテハ、天皇ハ新ニ日本國、或
ハ日本國民統合ノ象徵トシテ書カレテ

居リマス、サウシテ政治ニ對スル權能
ハ全クゴザイマセス、單ニ儀禮的ナル
國事ノ事項ガソコニ規定サレテ居リマ
ス、之ヲ現行憲法ニ於キマシテ、天
皇ハ國ノ元首デアッテ統治權ヲ總攬ス
ルト云フアノ條文、ソレニ引續イテ廣
汎ナル大權事項ヲ記シテ居リマスルノ
トハ正ニ對蹠ノ位置ニアルト誰モ認メ
テ居ル譯デアリマス、元來此ノ度ノ改
正草案ニ於キマシテハ、從來我が法典
ニ於テ一度モ恐ラク使用サレタコトノ
ナイ、全ク新シイ概念ノ「象徵」ト云フ
言葉ガ用ヒラレテ居リマス、此ノ本來
詩的ナ、藝術的ナ言語ガ持ツテ居ル神
祕性ニ依リマシテ、天皇制ヲ潤色ハシ
テ居リマスルケレドモ、今ヤ所謂「象
徵」ト云フノ純粹ニ法律學的ニハ何
等ノ實體概念デモナケレバ、又機能ヲ
表ス概念デモゴザイマセス、即チ今
ヤ國會ガ國家ノ最高機關デアリ
マシテ、天皇ハ最早一ツノ機關
デモアリマセス、即チ國家ノ政
治的意思構成ニ對シマシテ、何ノ
關係、形式ノ關係ヲモ持タレナ
イ、即チ儀禮的、修飾的ナ天皇ト
ナツテ居ルノデアリマス、天皇制ト申
シマシテモ、今ヤ單ニ名稱ノモノモ
デアリマシテ、政治性トシテハ既ニ其
ノ意義ヲ消失シタモノト言ハナケレバ
ナリマセス、斯クノ如キハ、其ノ可否ハ
別トシマシテ、客觀的ニ解釋致シマシ
テ、日本國家ノ政治ノ基本性格ノ根本
的變革ト言ハナケレバナラヌト思フノ

デアリマス、吉田總理大臣ノ六月二十
四日ノ當貴族院ノ御答辯ハ、果シテソ
レデ宜シイノカドウカ、金森國務相ハ
其ノ限リニ於テハ變更ヲ認メラレテ居
リマス、其ノ間政府當局ノ間ニ御答辯
ニ矛盾ガナイカト云フコトヲ御尋ネ申
シタイノデアリマス、又終戰以來、歷代
ノ内閣、殊ニ幣原前首相ガ臣節ヲ盡シ
テ護持セムト傳ヘラレタ天皇制ノ内容
ハ果シテ斯クノ如キモノデアツタカド
ウカラ幣原國務大臣ニ御尋ネ申シタイ
ノデアリマス、憲法改正ノ一ツノ理由
ト致シマシテ、皇室ノ安泰ト云フコト
ヲ總理大臣ハ説明セラレマシタガ、斯
ク迄致シテ殘ルト云フコトガ果シテ皇
室ノ御名譽デアルカ、從ッテ國民ノ榮譽
デアルカト云フコトモ一ツノソコニ問
題ガアルト考ヘラレルノデゴザイマ
ス、政治ノ基本性格ニ關スル第二ノ點
ハ主權論、是ハ所謂國體ニ關聯シタ問
題デゴザイマス、現草案ノ前文及ビ第
一條ニ總テ返シ主張サレテアリマスルヤ
ウニ、國民ノ總意ガ至高デアルト云フ
コト、或ハ國政ハ崇高ナル國民ノ信託
ニ基クノデアツテ、其ノ權利ハ國民ニ
依賴スルト云フコト、或ハ天皇ノ地位
ハ國民ノ至高ナル總意ニ基クトナツタ
如キ、是等ハ今度ノ新憲法ノ新シイ案
デアリマス、是ハ紛フベクモナク、所
謂君主主權ニ對立スル人民主權ノ理論
デゴザイマス、斯ク解シテコソ初メテ
先程私ガ申上ゲマシタヤウニ、草案ニ
於キマシテ日本國家ノ意思構成カラ、

政治秩序其ノモノカラ天皇ヲ除外シタ
其ノ新シイ國家形態ノ基礎ツケトシテ
極メテ徹底シタル立場ト申スベキデア
リマス、之ヲ現在ノ憲法ニ見マスルノ
ニ、上諭ニ於キマシテ「國家統治ノ大
權ハ朕方之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ
傳フル」云々、又ソレヲ承ケマシテ、
第一條ニ於テ「大日本帝國ハ萬世一系
ノ天皇之ヲ統治ス」トアリマスルノト
較ベマスル時ニ、此處ニ根本的ノ相違
ヲ認メザルヲ得ナイノデアリマス、何
故ニ政府ハ率直ニ之ヲ承認シテ明言爲
サラナイカ、我が憲法解釋上ニ於キマ
シテ、國體ト相違シテ居リマスノハ、
實ハ斯カル成文法ノ斯カル條章ニ基イ
テ解釋サレテ居ルノガ通説デゴザ
イマス、又政府當局ノ強辯セラレテ居
ルニモ拘ラズ、國民一般ガ所謂國體ト
シテ考ヘテ居ルモノハ、斯カル政治ノ
基本性格ト無關係デハナイノデアリマ
シテ、寧ロ内的ナ關係ヲ持ツテ居ルノ
デアリマス、現ニ現在ノ憲法ノ發布ト
相前後シテ演發サレマシタ教育勅語
ニ於キマシテ、「我が國體ノ精華」ト宣
セラレテアリマスノモ、斯カル日本ノ
根本的政治性格ト關係ガアルノデアリ
マス、此ノ意味ニ於キマシテ、我が國
體觀念モ、草案ニ於テハ明カニ變更サ
レテ居ルト解釋スベキデアリマス、政
府ハ流石ニ斯カル變更ヲ蔽フ爲ニソレ
ヲ緩和致シマシテ、國民ノ中ニハ天皇
ヲ含ムト云フ、極メテ奇怪ナル解釋ヲ
案出サレタノデアリマス、加之初メノ

間ハ國民ノ總意ガ至高デアルト云フノ
ハ、必ズシモ主權ノ所在ヲ規定シテ居
ルノデハナイト云フ御説明デアリマシ
タ、併シナガラズ様ニ國民ノ中ニ天皇
ヲ含ムト云フ御解釋ハ是迄ノ日本ノ國
語並ニ法律用語トシテ嘗テナイト申シ
テ宜シイノデアリマス、且日本ノ政府
ガ發表サレマシタ英譯文ニ於キマシテ
ハ、明カニ「ソヴリンウィル・オブ・ザ・
ピープル」、「ソヴリンニティ・オブ・ザ・
ピープル・ウィル」トナツテ居ルノデア
リマス、殊ニ三月六日ノ聯合軍最高司
令官ノ聲明ニハ、「主權ハ今ヤ率直ニ
人民ノ手ニ置イテアル」ト宣言セラレ
テアルノデアリマス、斯ク迄明白ナ事
實ノ中ヲ抑切ツテ、敢テ人民主權デナ
イト主張セラレル態度ハ、所謂耳ヲ蔽
ウテ鈴ヲ盗ムノ類デハアリマセヌカ
(拍手)、現ニ今回ノ衆議院憲法委員會
ノ審議ニ於キマシテ、色々経緯ハアジ
タヤウデアリマスルケレドモ、私共ハ
何故カ其ノ理由ガ解シキイノデアリ
マスケレドモ、最後ノ段階ニ、却テ政
府與黨カラ主權在國民ノ提案ガアツ
テ、ソレガ途ニ今回衆議院ノ修正トナ
ツタ心得テ居リマス、政府ハ之ニ同
意セラレタ理由ハ何處ニアルノデアリ
マスカ、私共ノ解釋トシマシテハ、寧ロ現草
案ノ論理徹底シタモノ、即チ今ヤ純粹ノ
人民主權ヲ表シタモノ、殊ニ其ノ意味
ニ於テハ、英文ノ精神ニ於テハ、ヨリ
忠實ニナツタモノト私ハ考ヘルノデア
リマス、唯併シ此ノ場合ニモ依然トシ

テ國民ノ中ニハ天皇ヲ含ムト云フ解釋
ヲ殘スコトニ依リマシテ、一方ニハ是
迄主權在君說ヲ維持シテ來タ政黨ガ之
ニ轉換シマシテ、又他方ニハ他ノ政黨
ガ此ノ中ニハ新シキ人民主權ノ思想ヲ
織リ込シタモノトシテ之ヲ贊同スルト
云フ、極メテ奇態ナル現象ヲソコニ生
ジテ居ルノデアリマス、併シ議會ト
政府トガ如何様ニ妥協セラレ、解釋サ
レマシテモ、國民主權、或ハ人民主權
ト云フ、世界共通ノ政治學上ノ概念ガ
持ツテ居ル眞理性ハ之ヲ蔽フコトハ出
來ナイノデアリマス、從ツテ若シ之ヲ
以テ、我が在來ノ政治の基本性格乃至
又國體觀念ガ變更サレヌト御考ニナル
ナレバ、是ハ一ツノ自己満足、自己慰
安、敢テ申セバ一ツノ自己欺瞞ト申シ
テ宜シイと思フノデアリマス、(拍手)實
ニ今回ノ憲法改正ニ依リマシテ、天皇
制ト主權論ヲ繞ツテ、政府ノ否定的ナ
御答辯ニモ拘ラズ、私ガ純粹ニ、客觀
的ニ、論理的ニ解釋致シマシテ、華國
以來ノ大革命ガ進行シツ、アルノデア
リマス、私共ハ敢テ斯カル主義ノ革命
ヲ避クルモノデハアリマセヌ、唯問題
ハ國民ガソレヲ意識シ、自覺シ、ソレ
ヲ要望シテ居ルカドウカト云フコトニ
繫ルノデアリマス、政府ハ此ノ問題ヲ
如何様ニ御覽ニナツテ居ルノカ、昨日
モ金森國務相ノ説明、又嘗テノ機會ノ
總理大臣ノ御聲明ニ依リマシテモ、今
回政府ノ改正ノ一ツノ理由ハ國內情勢
ノ變化ヲモ考ヘテ居ルト云フ御話デゴ

ザイマス、ソレナラ一體彼ノ草案作成
ニ至ル迄、各種政黨、並ニ各種研究團
體ガ公表シタ憲法改正案ハ、サウ云フ
モノヲ果シテ政府ニ要求シタカドウ
カ、況ンヤ健全ナル大多數ノ國民ガ沈
默ヲ守ツテ居ルノデアリマス、何時デ
モ時代ノ勢力ニ迎合スル少數者ノ意見
ガ前面ニ出ルノガ我が國ノ國情デアリ
マス、私ハ斯カル狀態ヲ以チマシテ、
他日、十年或ハ二十年ノ後ニ國民ノ間
ニ大ナル反動ヲ起ス口實、或ハ名分ヲ
與ヘハシナイカヲ惧レルモノデアリマ
ス、此ノ點ニ關シマシテ、總理大臣ハ
如何ナル御認識ヲ持ツテ居ラレマス
カ、先程申述ベマシタ新憲法ノ安定性
ノ問題ト關聯シテ御答辯ヲ煩シタイノ
デアリマス、我々ハ今敢戰後滿一周
年、此ノ改正ノ事業ヲ通シマシテ、祖
國興廢ノ第二ノ關頭ニ謂ハバ立ツテ居
ルト申シテ宜シイノデアリマス、何故
ナレバ、敗戰ノ降伏トニ依ツテ日本ノ
國家ハ、國體ハ變更シタ譯デハアリマ
セヌ、「ボツダム」宣言ヲ受諾シタト云
フ瞬間ニ國民主權ガ日本ニ布カレタト
云フ譯デハ決シテナイノデアリマス、
政府ハ昨日ノ御答辯ニハ私ハ賛成スル
モノデアリマス、併シ今國民ノ自由ノ
意思ニ依ツテ、今期議會ニ於テ國家
ヲ、國體ヲ變更スルカセヌノカノ問題
デアリマス、此ノ秋ニ當リマシテ、聯
合軍最高司令官ノ先程申述ベタ第二ノ
聲明書ノ中ニ、政略上ノ信條ヤ、不當
ナル野心ヤ、利己的ナ陰謀ヲ拭ヒ去ツ

テ、眞ニ自分ノ國ト、其ノ國民ニ對ス
ル責任ニ於テ、尊嚴ト報智ト、而シテ
愛國心ヲ以テ今ヤ當ルベキデアリマ
ス、草案ガ餘リニモ外國ノ政治哲學カ
ラ借り來リマシテ、日本ノ傳統的思想
カラ遙カニ斷絶シテ居ルコトハ、今ヤ
外國ニ於テ公ノ輿論トナリツ、ゴザイ
マス、私共ハ今茲ニ新シイ善キモノハ
進ンデ、之ヲ採ツテ、改革ヲ斷行シマ
スト同時ニ、他方ニ、苟クモ國民ノ歷
史の本質ノ中ニ育成シテ來マシタモノ
ハ、之ヲ維持スルコトガ必要デゴザイ
マス、所謂憲法ノ法的繼續性ト申シマ
スルノモ、斯様ナ歴史的繼續性ニ裏
付ケラレテコソ始メテ具體的ノ意義ヲ
持ツノデアリマシテ、之ナクシテハ新
憲法ハ日本國民ノ血トナリ肉トナルコ
トハ出來ナイノデアリマス、斯様ナ見
地カラ、私ハ我が國ノ政治的基本構造
ニ關シマシテハ、所謂現狀維持のナ保
守主義デナク、又他方ニ現在ノ政府
ノ草案ニアルヤウナ、或意味ニ於テ
歷史ノ斷絶ヲ意味スル革命主義デモ
ナク、第三ノ途ヲ選ブ必要ガアツタ
ト考ヘルノデゴザイマスルガ、政府
當局ハソレヲ如何ニ御考ニナルカ、
現ニ此ノコトハ、各政黨並ニ有力ナル
諸研究團體ガ、是迄ニ公ニシマシタ改
正案ノ中ニ主權ノ所在ヲ以チマシテ、
或ハ日本國家ニ在リトシ、或ハ又天皇
ヲ含ンダ日本國民全體ニ在リトシ、或
ハ天皇ヲ首長トスル國民全體ニ在リト
シタコトハ、是ハ輿論ノ或一致點ヲ思ハ

シムルモノデアリマス、孰レモガ政府
案ニ比シマシテ、遙カニ日本ノ歴史ノ
上ニ立脚シテ或改革ヲ狙フテ居ルノデ
アリマス、況ンヤ今同案議院ニ於ケル
修正案ト違フテ、即チ修正案ノ如キ主
權在國民トハ本來根本的ニ異ツタ立場
ニ立ツテ居ツタ管デアリマス、私自身
豫テ民族共同體或ハ國民共同體、英語
ニ譯シマスレバ「ナショナル・コムニ
ティ」ト云フ考ヲ持ツテ居ルモノデゴ
ザイマス、是ハ一面我が國ノ歴史ニ於
キマシテ、所謂西歐ニ先進シタ、君主
主權ト人民主權トノ對立ヲ遙カニ越エ
テ、日本國民共同體ノ本質ヲ活カス所
以デアルト考ヘラレルノデアリマス、
同時ニ他面ニ於キマシテハ、御承知ノ
ヤウニ民主主義ハ何ト申シマシテモ個
人ト其ノ多數ニ基礎ヲ置イテ居ルノデ
アリマス、之ヲ新タニ國家ノ共同體ヲ
構成スル所ノ新タナ世界觀ヲ與ヘル、
ソレニ此ノ問題ガ重要ナル役割ヲ爲ス
ノデアリマス、丁度此ノコトハ十八九
世紀ノ所謂自由主義的民主主義カラ新
タニ今世紀ニ入リマシテ、共同體的民
主主義ヘノ發展ヲ意味スルモノデアリ
マス、サウシテ我が國ニ於キマシテ國
民ノ結合ヲ根源ニ於テ支ヘテ來タモノ
ガ皇室デアツタト云フコトハ、我が國
ノ是カラノ世界ニ普遍的ナ新シイ民主
主義ノ上ニ、是コソ我が國固有ノ一ツ
ノ意義ヲ加ヘルモノデアルト確信スル
モノデアリマス、政府當局ハ私共ノ言
ヒマス左様ナ國民共同體ト云フモノノ

概念ニ必ズシモ反對サレズ、或場合ニ
ハ之ヲ採ツテ御説明ニナツテ居ルヤウ
デアリマススケレドモ、單ニ國民ト云ツ
タヤウナ集合概念トハ違フテ、根本ノ
立場ニ立ツテ居ルノガ國民共同體、或ハ
民族共同體ノ考デアリマス、ソレナラ
バ寧ロ政府ハ進ンデ此ノ概念ヲ御採用
ニナツテ、之ヲ確立セラルベキデナカ
ツタカ、併シ其ノ場合ニハ此ノ新タナ
民族共同體若シクハ國民共同體ト申シ
マスノハ、最早古代のナ神權思想ヤ、
或ハ中世のナ封建思想ヤ、或ハ憧憬ノ
中心ト云フガ如キ、新シイ浪漫主義的
ナ神祕性ヲ排除致シマシテ、實ニ本年
初頭ノ詔書ニ示サレテ居ルヤウニ、人
間トシテノ天皇ヲ中核トシ、專ラ人ト
シテノ相互ノ信頼ト、尊敬ノ關係ニ置
キ換ヘテ、所謂倫理的、新シキ文化的
共同體ノ概念デゴザイマス、此ノ點ニ
於キマシテモ政府當局ハ嘗ニ我が國體
觀念ガ變ラナイト云フコトダケヲ辯明
セラレルノヲ御止メニナツテ、寧ロ國
體觀念ガ變化シ、時代ト共ニ進展スル
ト云フコトヲ御認ニナツテ、ソレヲ宣
明サレ、同時ニ我が國ノ政治的權威ハ
斯カル民族若シクハ國民共同體ニ淵源
スルコトヲ御宣明ニナルコトガ必要デ
アルト思フノデゴザイマス、ソレヲド
ウ御考ニナリマスルカ、唯其ノ場合大
事ナコトハ、國家ト申シマスノハ左様
ナ國民共同體ノ、正ニ最高ノ組織體デ
ゴザイマス、ソレ故ニ國民共同體ノ中
心デアリマスル天皇ハ、必ズソレニ相

應シイ地位ヲ、外ナラヌ此ノ國家ノ中
デ、當然御持ニナルト云フコトハ當然
ノ論結デアリマス、改正案ニ於キマシ
テハ御承知ノヤウニ議會、內閣、最高
裁判所、ソレレノ獨立ノ機能ヲ發揮
スルコトニ依リマシテ、三權分立ノ思
想ガ徹底シテ居リマス、是ハ宜シイコ
トデゴザイマス、併シナガラ其ノ代リ
ニ、其ノ間ノ法的政治的ノ統一ハ或點
ニ於テ空白ニ殘サレテ居ルノデアリマ
ス、然ルニ此ノ形式的ナ統一ヲ充スモ
ノコソハ、正ニ天皇ノ地位デアルト我
我ハ考ヘルノデアリマス、併シソレハ
單ナル最早象徴デアリマセヌ、所謂
國家ノ一ツノ機關、即チ國家統一性ヲ
保障スル機關トシテ、私ハ之ヲ日本
國家ノ統一意思ノ表現者デアルト云フ
コトガ適當デアルト思ハレルノデアリ
マスルケレドモ、サウ云フヤウナモノ
トシテ構成サレナケレバナラスト思フ
ノデアリマス、其ノ限リニ於キマシ
テ、最早天皇ノ行爲ハ單ナル儀禮的ナ
モノデハナクシテ、正ニ政治ニ關スル
一ツノ國務トシテソレニ相應シイ名分
ト形式ヲ備ヘナケレバナラスト云フコ
トガ當然デゴザイマス、サウシテ又此
ノコトハ從來我が國ノ天皇制ニ關スル
論議ノ中デ、左右ノ兩極端ヲ除イタ
外、有力ナル在野政黨ヲ初メ、又有力
ナル民間研究團體ニ於テモ一致シタ意
見デゴザイマス、私ノ主張シタイノ
モ正ニ其ノ一點デアリマス、ソレハ蓋
シ我が國家ノ統一的、政治法律秩序ノ

要請カラ來ル當然ノ論結デゴザイマ
ス、苟クモ天皇制ヲ存置スルカラニハ
ソレ以下ノモノデハナラヌ管デゴザイ
マス、同時ニ又私ノ主張シタイコト
ハ、ソレ以上デ政テアツテハナラ
スト云フコトデアリマス、即チ
現行法ノヤウニ、包括的ナ大權
事項、是ハ出來得ル限り限定スルト云
フコト、且又天皇ノ國務ニ關スル一切
ノ行爲ニ付キマシテハ、現案案ノ如ク
內閣ノ輔佐乃至同意ヲ必要トシ、內閣
ハ國會ニ對シテ責任ヲ負フ、サウ云フ
一ツノ議會政治ノ確立、是ハ正ニ草案
ノ如クデナケレバナラスト思フノデア
リマス、斯様ニテ天皇ト國民トノ間ニ
ハ、最早少數者ノ獨裁政治ノ介入スル
餘地ガナク、外ニ向ツテハ、戰爭ノ危
險ハ絕對ニナク、内ハ、最早天皇ノ名
ニ於テ人間ノ自由ヲ蹂躪スル危險ノナ
イ平和民主日本ノ實現ガ可能ナルデ
アリマセウ、サウシテ斯カル天皇制ト
民主主義トガ本來何等矛盾スルコトナ
ク相結ビテ、ソコニ日本の民主主義ノ
實現ガ可能ナルデアリマセウ、斯様
ニシテ全ク新ニセラレタ日本ノ新憲法
ハ、何故ニ聯合國ト世界ニ了解サレナ
イ管デアリマセウ、私ハ政府當局ガ草
案ヲ作成サレルニ當リマシテ、私ノ申
上ゲタ所謂第三ノ遺ニ付テ如何ナル努
力ヲ、國民ノ生命ヲ賭ケテモ此ノ努力
ヲ爲サレタカドウカト云フコトヲ御尋
ネ申上ゲタイノデアリマス、憲法ノ内
容ニ付キマシテ、以上御尋ネ申シマシ

タ所謂政治的基本性格ノ次ニ質疑致シ
タイコトハ、第二項目トシテ、所謂戰爭
放棄ノ條章ニ關係シテデゴザイマス、
是ハ新ニ更生シマシタ民主日本ガ、今
次ノ不法ナル戰爭ニ對スル贖罪トシテ
デバカリデナク、進ンデ世界ノ恆久平
和ヘノ日本民族ノ新ナ現代的努力ヲ捧
ゲル其ノ決意ヲ表明スルモノトシテ、
我々ノ贊同惜マザル點デゴザイマス、
殊ニ此ノコトハ、古來幾多ノ世界ノ哲
學者乃至宗教家ノ夢想シ、構想シテ參
ニ於テ是ガ實現サレルモノトシテ、世
界人類史上ニ新ナ意義ヲ持ツモノトシ
テ我々ハ之ヲ重大ニ考ヘルノデアリマ
ス、ソレデケニ問題ガアルコトヲ又私
共ハ考ヘナケレバナラストデアリマ
ス、理想ハ高ケレバ高イダケ、ソレデ
ケニ現實ノ狀態ヲ認識スルコトガ必要
デゴザイマス、サウデナケレバ、ソレ
ハ單ナル空想ニ終ルデゴザイマセウ、
本案ガ發表サレマシタ當時「アメリ
カ」ノ新聞ノ批評ノ中ニ、是ハ一個ノ
「ユートピア」ニ過ギナイト云フコトガ
アリマシタコトハ、兎角我々ノ反省ス
ベキ點デアルト思フノデゴザイマス、
戰爭アツテハナラヌ、是ハ誠ニ普遍的
ナル政治道徳ノ原理デアリマスケレド
モ、遺憾ナガラ人類種族ガ絶エナイ限
リ戰爭ガアルト云フノハ歴史ノ現實デ
アリマス、從ツテ私共ハ此ノ歴史ノ現
實ヲ直視シテ、少クトモ國家トシテノ
自衛權ト、ソレニ必要ナル最小限度ノ

兵備ヲ考ヘルト云フコトハ、是ハ當然ノコトデゴザイマス、吉田總理大臣ハ衆議院ニ於ケル御説明ニ於キマシテ、是迄自衛權ト云フ名ノ下ニ多クノ侵略戰爭ガ行ハレテ來タ、故ニ之ヲ一擲スルニ如カズト云フ御説明デアルヤウデアリマスガ、是ハ客觀的ニ其ノ正當性ガ認めラレタ場合デモ、尙且斯カル國家ノ自衛權ヲ放棄セムトセラレル御意思デアルノカ、即チ國際聯合ニ加入スル場合ヲ現在ノ草案ハ豫想シテ居ルコトト考ヘマスガ、其ノ國際聯合ノ意旨ノ中ニハ、斯カル意味ノ國家ノ自衛權ト云フコトハ承認サレテ居ルト存ジマス、尙又國際聯合ニ於キマス兵力ノ組織ハ、特別ノ獨立ノ組織ガアルト云フコトデナシニ、各加盟國ガソレノ之ヲ提供スルト云フ義務ヲ帶ビテ居ルノデアリマス、茲ニ御尋ネ致シタイノハ、將來日本ガ此ノ國際聯合ニ加入ヲ許サレル場合ニ、果シテ斯カル權利ト義務ヲモ放棄サレルト云フ御意思デアルノカ、斯クノ如ク致シマシテハ、日本ハ永久ニ唯他國ノ好意ト信義ニ委ネテ生キ延ビムトスル所ノ東洋的ナ諦メ、諦念主義ニ陥ル危險ハナイノカ、寧ろ進ンデ人類ノ自由ト正義ヲ擁護スルガ爲ニ、互ニ血ト汗ノ犠牲ヲ拂フコトニ依ツテ、相共ニ携ヘテ世界恆久平和ヲ確立スルト云フ積極的理想ハ却テ其ノ意義ヲ失ハレルノデハナイカト云フコトヲ憂フルノデアリマス、ソレノミナラズ現在ノ國際政治秩序ノ下ニ於テハ、

「アメリカ」國ノ或評論家ガ批評致シマシタヤウニ、苟クモ國家タル以上ハ、自分ノ國民ヲ防衛スルト云フノハ、又其ノ爲ノ設備ヲ持ツト云フコトハ、是ハ普遍的原理デアル、之ヲ憲法ニ於テ拋棄シテ無抵抗主義ヲ採用スル何等ノ道德的義務ハナイノデアリマス、又何レノ國家ニ於キマシテモ、國內ノ秩序ヲ維持スルガ爲ニハ、警察力ヲ維持ハ十分デアリマス、本來兵力ヲ維持スル一ツノ目的ハ、斯カル國內ノ治安ノ維持ト云フコトモ考ヘラレテ居ルノデアリマス、殊ニ日本ノ場合ニハ、將來ノ想像致シマスルト、國內ニ於キマスル狀態ノ不安、其ノ狀態ハ相當覺悟シテ居ラナケレバナラヌト思フノデアリマス、政府ハ近ク來タラムトスル講和會議ニ於テ、是等内外ヨリノ秩序ノ破壞ニ對スル最小限度ノ防衛ヲモ放棄サレルト云フコトヲ爲サラウトスルノデアリカ、此ノ點ヲ御尋ネ申上ゲタイノデアリマス、若シウレナラバ既ニ國家トシテノ自由ト獨立ヲ自ラ拋棄シタモノト選ブ所ハナイノデアリマス、國際聯合ハ決シテ國家ノ斯カル自主獨立性ヲ否定シテ居リマセス、寧ろソレヲ完全ナモノニスル爲ニ、互ニ聯合シテ、世界ニ普遍的ナ政治秩序ヲ作ラウト云フノガ其ノ理想デアリマス、尙且大事ナコトハ、斯カル新シイ國際運動ハ、結局ニ於テ、世界ハ一ツ、先程申シタ私ノ申上ゲマスル各國ノ民族共同體ヲ越エテ、ソコニ世界人類共同體ト云

フ理想ヲ目途トシテ居ルモノト我々ハ解釋スルノデアリマス、然ルニ此ノ世界共同體ノ理想ニ於キマシテハ、單ニ其處ニ與ヘラレテ居ル平和ヲ維持シ、唯國際ノ安寧ヲ維持スルト云フダケデヤナシニ、人種、言語ノ區別ヲ立テ越エテ、世界ニ普遍的ナル正義ヲ實現スルト云フ爲ニ各國間ノ協力ガ要請セラレルノデアリマス、其ノ爲ニ功利主義的ナ、單ニ現狀ヲ維持スルト云フダケデナシニ、政治經濟上ノヨリ正シキ秩序ヲ建設スル爲ニ絶エズ努力ガ各國民ニ依ツテ拂ハレナケレバナラヌノデアリマス、而モソレヲ武力ニ依ラナイデ、飽ク迄モ人類ノ理性ト良心ニ憑ヘ、平和的方法ニ依ツテ之ヲ達成シヨウトスル所ノ大ナル理想ガアルノデアリマス、日本ガ是迄ノ過誤ヲ清算致シマシタル以上ハ、將來世界ニ向ツテ單ニ戰爭ヲ拋棄スルト云フコトダケヲ宣言スルダケデナシニ、進ンデ世界共同體ノ間ニアリマシテ實現スベキ斯カル理想ヲ持ツコトガ必要デアリマス、ソレハ現ニ近ク來タラムトスル所ノ講和會議ニ對シテモ其ノ備ガアルベキ管ダト私ハ思フノデアリマス、今回衆議院ノ修正ニ於キマシテ「日本國民は、正義と秩序を基調とする國際平和を誠實に希求し」と云フ一句ガ當該條文ニ加ヘラレタノデアリマス、此ノコトハ私ノ以上説明シマシタヤウナ意味ニ於テ、頗ル重要ナ意味ヲ持ツテ居ルト私ハ思フノデアリマス、何故ナレバ、是

ハ單ニ戰爭ヲ拋棄スルト云フダケデハナシニ、進ンデ民族ノ平和ノ理想ヲ謳ツタモノデアリマス、ソレ以上ニ私ノ考ヘマスコトハ、單ナル平和ノ現狀ヲ維持スルト云フノデヤナシニ、飽ク迄モ國際正義ニ基イタ平和ヲ理想トスルト云フ所ニ重要ナル意義ガアルト思フノデアリマス、今回ノ衆議院ノ憲法修正ニ對シテ、修正ノ中ノ最重要ナ意義ヲ持ツテ居ルモノハ是デアルト私ハ叫ブ者デアリマス、政府ハ右修正案ニ對シマシテ、此ノ問題ヲ如何ヤウニ御考ニナツタカ、又此ノ問題ニ對シテ如何ナル御用意ガアルノカヲ吉田外務大臣ニ御尋ネ致シタイノデアリマス、又其ノ間ノ法理的ナ問題ニ付キマシテハ、金森國務相ニ御尋ネ致シタイノデアリマス、次ニ憲法内容質疑ノ第三項目ト致シマシテ、國民ノ社會經濟生活ニ關シテ御尋ネ致シタイノデアリマス、凡ソ民主政治ノ發達ハ國民ノ經濟的生活ノ民主化、其ノ經濟的基礎ノ確立ナクシテハ不可能デアリマス、處ガ此ノ問題ノ解決ニ關シマシテ、草案ノ第三章、「國民の權利及び義務」ノ規定ハ、果シテ十分ナル條件ヲ充シテ居ルカドウカト云フコトデアリマス、草案ガ一般ニ個人ノ自由及權利ニ關スル基本的ナ人權ヲ確立シタコトハ、後レ馳セナガラ我が國ニ於テ啓蒙思想ヲ完成シタモノトシマシテ、現行憲法ニ比シ重要ナル意義ヲ持ツテ居ルコトヲ私ハ認識シタイノデアリマス、併シナ

ガラ單ニ個人ノ所謂天賦人權思想ヲ以テマシテハ、政治的國家生活ノ問題ト同ジヤウニ、社會經濟生活ノ問題モ決シテ解決シ得ルモノデハゴザイマセヌ、此處ニモ先程申上ゲマシタ十八、九世紀ノ自由主義的ナ民主主義デナク、新タニ共同體的ナ民主主義ノ發展ガ生ジテ來ルノデアリマス、取分ク戰敗後ノ我が國ト致シマシテハ、國土資源ノ著シク少クナツタ此ノ我が國ニ於テ、今迄ノヤウニ、況ンヤ又「アメリカ」ノヤウナ先輩國ノ如ク、單ニ自利心ノ追求ト、ソレニ依ル個々ノ企業ノ發達競爭ト云フコトヨリモ、寧ろ全體ノ計畫經濟、新經濟秩序ノ樹立、ソレニ依ツテ國民全體ノ生活ノ安定保障ト云フコトガヨリ重要ナル意義ヲ持ツテ來ルト考ヘマスルガ、之ヲ如何様ニ政府ハ御考ニナツテ居ルカ、ソレハ個人ノ自由及權利ト云フ領域ヨリモ寧ろ社會的正義ノ問題デアリマスガ、戰爭拋棄ニ付キマシテ世界ニ理想ヲ宣言致シマシタ日本ガ、此ノ國內ニ於ケル社會的正義ノ實現ニ向ツテ同ジク劃期的ナル一ツノ立場、方向ヲ憲法ニ於テ宣示スルノ必要ガナカツタカト云フコトヲ御尋ネ致シタイノデアリマス、草案ニ於キマシテハ、或程個人ノ權利ハ濫用シテハナラヌ、之ヲ公共ノ福祉ニ利用スベキデアルト云フコトハ書イテアリマス、政府ハソレヲ手掛リト致シマシテ色々社會政策ヲ實施ナサル、又ソレガ或程度迄出來ルコト考ヘマス、

ケレドモソレニハ自ラ一定ノ限界ヲ出
テ來マス、若シソレヲ超エマスルト、
新憲法ニ於キマシテハ、最高裁判所ニ
依ツテソレガ憲法違反トシテ宣言サレ
ルコトハ、之ニ依リマシテ折角ノ政府
ノ計畫モ施設モ無効ニ終ルコトハナ
カ、ソレハ御承知ノ通り、最近「アメ
リカ」ニ於テモ苦イ經驗ヲ持ツタ問題
デゴザイマス、私ハ今茲ニ一ツノ例ヲ
取上ゲテ説明致シタウゴザイマス、草
案ニ於キマシテハ、總テノ國民ハ勤勞
ノ權利ヲ持ツテ居ルト云フコトガ書イ
テゴザイマス、之ヲ認メマシタ以上
ハ、國家トシテ之ヲ出來ル限リ社會ニ
獎勵シ、又自ラモ此ノ方向ニ嚮ツテ施
設シ、計畫シ、立法スルト云フコトハ
當然ノコトト考ヘマス、其ノ爲ニ政府
ハ場合ニ依ツテハ經濟ノ再編成ヲ爲ス
ト云フコトノ必要モ生ズルコトデゴザ
イマセウ、然ルニ現草案ニ於キマシテ
ハ、財産權ハ侵シテハナラヌト云フノ
ガ根本ノ建前デアリマス、私有財産、
是ハ必ズ正當ナル補償ヲ爲スノデナケ
レバ公共ノ爲ニ使用スルコトハ出來ヌ
トナツテ居リマス、特定ノ目的ノ爲ノ
公用徵收等ノ場合デアレバソレデモ宜
イカモ知レマセケレドモ、苟クモ國
家ガ廣汎ナル政策ト施設ヲ講ジヨウト
スル場合ニ、是デ果シテ出來ルモノカ
ドウカト云フ問題デアリマス、ソコデ
御尋ネ申上ゲタイコトハ、一體政府ハ
此ノ勤勞權ト云フモノヲ具體的ニ果シ
テ何處迄獎勵シ、又政府ガ之ニ向ツテ

計畫ヲ爲サラウトシテ居ルカト云フコ
トデアリマス、又之ヲ忠實ニ實行セムト
スル場合ニ、以上申上ゲタヤウナ點ニ
付テ憲法上支障ハナイノカ、是ハ寧ロ
實際ノ任ニ御當リニナツテ新シク經濟
政策ノ抱負ヲ持ツテヤツテイラツシヤ
ル厚生大臣ニ御説明ヲ承リタイノデア
リマス、尙國民生活保障ノ問題、所謂
生存權ノ問題デアリマス、此ノ度衆議
院ノ修正ニ於キマシテ、「すべて國民
ハ、健康で文化的な最低限度の生活を
営む權利を有する。」ト云フ一條ガ入リマ
シタ、是ハ先程申上ゲマシタ、新タニ
我が國ノ經濟政策ガ社會的正義ニ向ツ
タモノトシテ、私ハ喜ブベキ現象ト思
フノデアリマス、此ノ點ニ關シ一言御
尋ネ致シタイコトハ、政府當局ハ只今
ノ國民大衆ノ生活ヲ如何ニ御覽ニナツ
テ居ラレルカト云フコトデアリマス、
彼ノ過グル日ノ長期ノ間ノ主要食糧ノ
運配、ソレニ依リ大幅ノ結局繰延ヲシ
タト云フコト、此ノコトニ付テハ今此
處デ問ヒマセヌ、今ハ聯合軍ノ食糧放
出ニ依リマシテ、僅カニ都民ハ今日生
活ヲ支ヘテ來テ居リマス、ソレデモ明
白ナコトハ、政府ノ配給量ヲ以テシテ
ハ健康ナ生活ハオロカナコト、生命ヲ
維持スルコトモ絕對ニ不可能デアルト
云フ一事デアリマス、他方當局ノ否定
セラレテ居ルニ拘ラズ、「インフレ」ハ
益々昂進致シマシテ、物價ノ騰貴ハ止
マル所ヲ知りマセヌ、是デハ國民大衆
ニ於キマシテ文化生活ヲ享受スルト云

フコトハ思ヒモ及バヌ所デアリマス、
斯様ナ狀態ノ下ニ國民ノ生存權、生活
保障ト云フノハ意味ヲ爲サナイノデア
リマス、事態ノ困難性ハ誰ガ局ニ當リ
マシテモ深刻デアルト云フコトハ十分
了承致シマス、併シソレデハ餘リニモ
政治ガナイデハナナカ、總ジテ此ノ種
問題ニ付キマシテハ、如何ニ憲法ニ於
テ明文化サレマシテモ、立派ニナリマ
シテモ、政府ハ之ニ對スル熱意ト努力
ガナケレバ意味ヲ爲サヌモノナルノ
デアリマス、ソコデ私御尋ネ致シタイ
コトハ、憲法改正ニ當ツテ、殊ニ此ノ
度衆議院ノ修正ニ依ツテ國民ノ生活權
ヲ認メマシタ以上ハ、政府自體ガ現在
其ノ統制ヲシテ居ラレマスル國民生
活、其ノ新タナ標準ヲ何處ニ置カレル
カ、從ツテ特ニ食糧ノ問題カラ、之ニ
對シテドウ云フ具體的ナ政策ヲ新タニ
樹テヨウトシテ居ラレルカヲ農林大臣
ニ御説明ヲ承リタイノデアリマス、憲法
ノ内容ニ付テノ私ノ最後ノ第四項目ト
シテ御尋ネ致シタイノハ、教育及ビ文
化ノ問題デアリマス、凡ソ新憲法ノ制
定ニモ比スベキ今回ノ改正案ニ於キマ
シテハ、初メカラ偉大ナル一ツノ構
想、體系的ナ考ヲ持ツテ之ニ臨マナケ
レバナラヌト云フコトハ當然デアリマ
ス、然ルニ前申シマシタ經濟生活ノ問
題ニ付テモサウデゴザイマスルケレド
モ、此ノ教育問題ニ付キマシテモ、正
ニ其ノ前文ニ於テハ國家ノ文化的ナ使
命ニ付テ一言モ觸レル所ガアリマセ

ヌ、僅カニ第三章ノ國民ノ權利義務ノ
條下デ、二三ノ規定ガ散見スルニ過ギ
マセヌ、是ハ今世紀ニ於キマシテ新シ
ク出來マシタ外國ノ憲法ニ照ラシテ見
マスル時ニ、特ニ其ノ爲ニ章ヲ設ケタ
リ、少クトモ根本ノ規定ヲ憲法ニ書イ
テ居ルト云フコトハ、十分我が國ニ於
テモ參照スベキ必要ガアルノデハナカ
ツタカ、殊ニ今後ノ日本ニ取リマシテ
ハ、世界ニ向ツテ戰爭拋棄ヲスルト云
フコトダケデナシニ、世界人類ニ向ツ
テ我が國民ノ果スベキ文化國家トシテ
ノ使命ヲ自覺セシメル上カラモ、又内
ニ於キマシテハ先程申述ベタ新シキ民
主主義ノ實現ノ爲ニ、經濟的ナ民主化
ト云フコトト並シデ、或ハソレ以上ニ
教育ト知的ノ、之ガ基礎要件ヲナサネ
バナラヌト云フコトニ鑑ミマシテモ重
要デアツタと思フノデゴザイマス、政
府ガ説明セラレル所ニ依リマスルト、
教育法ノ如キモノヲ新タニ設ケラレマ
シテ、學校教育ニ關スル根本ノ問題ヲ
規定ナサラウトシテ居ルト云フヤウニ
承ツテ居リマスルガ、外ナラヌ憲法ニ
於キマシテ、其ノ教育ノ全般ニ通ジタ
根本方針針ニ國家ノ之ニ對スル任務ヲ
規定スル必要ハナカツタノカ、之ヲ先
ヅ御尋ネシタイノデアリマス、是ト關
聯致シマシテ、私ガ文部大臣ニ伺ヒタ
イノハ、文相ガ豫テ懷抱シ、又新聞ニ
モ傳ヘラレテ居リマスル、所謂教權確
立ト云フ問題ガ誤解ヲ起ス處ガナイカ
ドウカト云フコトニ付デアリマス、

ソレハ今後或意味ニ於テ盛ニナラムト
シマスル政黨ノ間ノ激烈ナル抗争、又
其ノ勢力ノ交互ヒノ交替、サウ云フモ
ノカラ獨立シテ教育ノ權威ヲ確立シヨ
ウト云フ所ニモ一ツノ狙ヒガアルト考
ヘラレマス、其ノ意味ニ於テハ正シキ
主張ヲ含ンデ居ルト思フノデゴザイマ
スケレドモ、又他面其ノ結果ハ國民ノ
政治的、社會的生活カラ遊離シテ、一
種ノ何カ教階的の制度、「ハイブラー
キー」ト申シマスカ、一種ノ文教官僚主
義ニ陥ル處ハナイカト云フコトデゴザ
イマス、殊ニ地方教育制度ニ付キマシ
テ、傳ヘラレマスルヤウニ、大學總長
ヲ長官トシタ學區廳ヲ全國ニ幾ツカ設
ケマシテ、ソレヲ文部省ノ直轄トス
ル、又其ノ下ニ、地方ノ府縣ニ文部省
ノ支廳ヲ設ケルト云ツタ如キ構想ハ、
所謂教育ノ民主化ニ對シテ寧ロ逆行ス
ルモノヲ含マレルノデハナナカ、是ハ
寧ロ今後新ニセラレマスル地方自治體
トノ連繫ニ於キマシテ、各層ノ教育化、
殊ニ國民公衆ノ中カラ選バレタ者ヲ以
テスル教育委員會ノ如キモノヲ以テ運
營セシメルコトヲ適當ト考ヘナイカド
ウカ、是ハ寧ロ教育ノ地方分權化ノ問
題デゴザイマス、米國教育使節團ノ報
告モ此ノ線ニ沿ウテアツタモノト私共
ハ了解スルノデアリマス、要スルニ國
民一般カラ分離スルコトニ依ツテ教育
ノ權威ヲ確立スルト云フノデナクシ
テ、國民ニ直結シテ、國民ノ自覺ト、
其ノ手ニ依ツテ教育ノ進歩ヲ圖ルト

云フコトガ眼目デナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、凡ソ教育理念ハ眞理トカ正義トカ云フ單ナル抽象性ニ止ツテ居ラナイ限リハ、必ズヤ其ノ時代ノ政治的、社會的精神ト分離シテ考ヘルコトノ出來ナイモノデアリマス、是ガ具體的ナ内容ハ、必ズヤ國民ノ左様ナ政治的、社會的現實生活カラ生ジテ來ルモノデアリマス、茲ニ必要ナコトハ、各政黨ノ世界觀の對立ヲ超エテ、苟クモ新憲法ハ如何ナル國民モ把握シナケレバナラス、サウ云フ國民的ナ世界觀、或ハ政治觀ト云フモノヲ作ツテ、公衆ノ識見ヲ高メルト云フコトガ極メテ重要ナコトニナルト思ヒマスル、蓋シ、近代民主主義ノ大キナ使命ハ、其處ニ實ハアルト考ヘルノデゴザイマス、此ノ意味ニ於キマシテ一般國民ノ政治教育ハ、今後極メテ重要ナ意味ヲ持ツテ來ルト思ヒマスルガ、政府當局ハ、之ニ對シテドウ云フ御方針、ドウ云フ御對策ヲ御持チニナツテ居ルカヲ伺ヒタイノデアリマス、尙其ノ場合、特ニ文部大臣ニ私ノ伺ヒタイノハ、文部大臣ハ、新憲法案ノ中デ、其ノ他ノ事ハ姑ク別ト致シマシテ、先程申上ゲマシタ我が國ノ所謂政治的基本性格ニ關シテドウ云フ御考ヲ持ツテ居ラレカ、本年一月ノ下旬デアリマシタカ、當時文部省學校教育局長兼東大教授デ在ラレタ文相ガ、朝日新聞紙上ニ「天皇制ノ聲明」ト云フ一文ヲ發表セラレマシタ、ソレ

ハ我が國ノ歴史的事實ト民族ノ固有性カラ天皇制ノ合理的根據ヲ認メラレテ、就中我が國ノ法的秩序ノ理念カラ、天皇制ノ必要アルコトヲ重要視セラレ、其ノ爲ニハ保守的ナ名稱スラモ必ズシモ厭ハズニ、普ク天下ニ向ツテ、之ガ同志ニ向ツテ呼ビ掛ケタ優レタ一文デアリマシタ、當時若キ學生徒ニ心アル人々ハ、如何ニモ之ニ共鳴シ、君ノ良心、所信ト其ノ勇氣ニ稱讃ヲ送ツタカ知レマセヌ、其ノ良心の態度ト努力ヲ以テシテモ、此ノ草案ヲ變更スルコトハ出來ナカッタカドウカ、ソレトモ其ノ所信ニ於テ、心境ニ於テ變化ガアツタノカドウカ、事ハ我が國ノ文教ノ根本ノ問題デアリマス、心アル多クノ人々ハ、文相ノ態度ヲ注目シテ待ツテ參リマシタ、私共ハ此ノ機會ニ文相ノ所見ト其ノ心境ヲ率直ニ茲御説明ニナラムコトヲ御願ヒスルノデアリマスル、以上質疑シテ參リマシタヤウニ、本草案ニ於ケル所謂天皇制ヲ繞ツテノ我が國民民主政治ノ在リ方、即チ基本的政治性格ノ問題ヲ初メトシテ、世界ニ類例ノナイ戰爭拋棄ノ問題、又今後我が國ニ於テ緊要スル社會經濟生活、又教育文化ノ問題ヲ初メ、多クノ問題ヲ内包シタ憲法デアリマス、ソレガ此ノ度衆議院ヲ通過可決シマシタ現段階ニ於キマシテ、今後ノ取扱ヲ如何ニスベキカト云フコトニ付キマシテ、政府當局ニ簡單ニ御伺ヒシタイノデアリマス、一ツハ貴族院トノ關係デ

アリマス、元來「ボツダム」宣言ノ附屬文書ニ依リマシテ御承知ノヤウニ、國民ノ自由ニ表明シタル意思ニ依ツテ決スルコト云フ以上ハ、國民ノ代表者タル衆議院ガ之ニ當ルト云フコトハ當然デゴザイマスル、貴族院ハ此ノ資格ハアリマセヌ、然ルニ政府ハ、今回ノ改正案ハ現行憲法ノ七十三條ニ依ツテ之ヲ御提出ナサレマシタ、ソレナレバ之ニ從ヒマシテ、貴族院ハ憲法草案ニ對シテ、全面的ニ其ノ見地カラハ修正ヲスル權限ガアル筈デアリマス、此ノ關係ヲ如何ニ了解シタラ宜イカ、是ハ私ハ法律問題デハナイト思フ、政治的問題トシテ其ノ解決ヲ圖ル以外ニ途ハナイト思フ、私一個ノ意見ト致シマシテハ、衆議院ノ院議ヲ尊重スル意味ニ於テ、貴族院トシテハ之ニ修正ヲ加ヘナイ、少クトモ政治的基本性格ニ關スル部分ハ、修正ヲ差控ヘルベキモノト私ハ考ヘルノデアリマス、貴族院トシマシテハ、何レ態度ヲ御決定ニナルコトト存ジマスルケレドモ、政府自身ハ本問題ヲ如何様ニ御考ニナルノデアアルカ、是ハ今回ノ貴族院ノ審議ノ根本前提トナルモノデアリマスルガ故ニ御尋ヲ申上ゲルノデアリマス、第二衆議院ガ正當ニ選舉サレマシタ國民ノ代表者トシテ、先ツ之ガ審議ニ當ルトハ當然デアリマス、ケレドモ事ハ結局國民自身ノ自由ニ表明スル意思ニ依ツテ決ルノデアリマス、其ノ意味ニ於キマシテハ、最後ニ國民投票ノ問題ガ必ズ

ヤ考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ハ政府ガ凡ソ「ボツダム」宣言ニ對シテ忠實デアラウト致シマスレバ執ルベキ態度デアッタト思フ、殊ニ又最近「フランス」或ハ「イタリー」ノ事例ヲ見マシテモサウデアリマスルシ、眞ニ民主主義ノ憲法ハ斯クノ如クニシテ制定サレルデアリマセウ、現ニ本草案ニ於キマシテモ、將來憲法ノ改正ノ場合ハ左様ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ將來ノ改正ヨリ今更ニ必要ナ此ノ制定ノ場合ニ於テ何故サウ云フ御手續ヲ御考ニナラナカッタカ、少クトモ現在ノ草案ノ附則ニ於キマシテ、議會ヲ通過シタル後、一定ノ期間ニ於テ國民ノ間ニ之ヲ問フコトヲ必要デアツタノデハナカッタカト云フコトヲ御尋申シタイノデアリマス、元來此ノ草案ニ於キマシテ一般ノ國民ニ提案シテ其ノ承認ヲ求メルト云フ場合ニハ、只今申シタ憲法改正ノ場合ヲ措イテハ外ニナイヤウデアリマス、處ガ草案ニ於キマシテ、議會絕對主義ト云フモノハ他ノ國ニ類例ノナイ程日本ニ於テハ今度ハ出來タノデアリマス、從ツテ議會ガ、殊ニ多數黨ガ專横ニ流レルト云フ場合ニ之ヲ防グ方法ハ何カ、唯一ニ其ノ背後ニアリマスル所ノ將來教養ヲ持ツテ自覺シタ國民公衆ノ意思決定ヨリ外ニナイノデアリマス、是亦先程申上ゲマシタ自由主義的ナ、代議民主政治トハ異ル所ノ共同體的ノ民主主義ノ主張デアリマス、故ニ極メテ重大

ナル一般問題ニ付キマシテハ、即チ「レフエレンダム」ノ制度ヲ御考ニナル必要ハナカッタカ、此ノコトハ元來ハ政治的基本性格ニ關スル重要ナル問題デアリマスルケレドモ、便宜茲ニ合セテ御質問シタイノデアリマス、以上ミマシテ、一言申上ゲルコトヲ御許シ願ヒタイ、今回ノ改正ハ祖國日本ヲ打換ヘテ、自由ト正義ノ完全ナ國ニ迄高メムトスルニアルモノト我々ハ考ヘマス、從ツテ此ノ出發點ニ於テ自由ト正義其ノモノガ護リ得ズ、其ノ基礎ノ上ニ國ヲ立テルコトガ出來ナカッタナレバ、祖國ノ獨立ハ不可能デアリマス、我々ノ建設ノ事業ハ何時カ又崩壊スルデアリマセウ、眞實ハ一時ノ間ハ掩ハルカモ知レマセヌケレドモ、歴史ハ何時カ之ヲ明白ナル白日ノ下ニ之ヲ照シ出スデアリマセウ、其ノコトヲ私共ハ今次ノ大戰ニ於テ身ヲ以テ經驗シタ筈デアリマス、其ノ意味ニ於テ私共ハ飽ク迄眞理ヲ眞理トシ、僞リヲ僞リトシテ、互ヒニ眞理ノ發見ニ協力スベキデアルト思フノデアリマス、祖國ノ運命ヲ決スベキ重大ナル改正草案ハ、今ヤ衆議院ヲ通過シテ本院ニ廻リマシタ、此ノ時ニ貴族院ト致シマシテハ、假ニ根本的ナコトハ何モ加ヘルコトハ出來ナイト致シマシテモ、之ヲ自由ニ批判シ、質疑シ、將來ノ改革ノ日ノ爲ニ國民ニ勸告スルコトガ出來マス、蓋シ貴族院ニ相應シイ最後ノ御奉公デアリ

マセウ、私ハ一議員トシ又一學究トシテ乏シキナガラ自己ノ良心ト理性ニ從ツテ責任ヲ以テ質疑ヲ致シタ積リデアリマス、故ニ關係各大臣ニ於カレマシテモ、國家更生ノ爲ニ良心的ナ責任アル御答辯ヲ願フテ此ノ機會ニ於キマシテ、何ヨリモ國民ノ前ニ眞實ヲ明カニサレムコトヲ希望致ス次第デアリマス、(拍手)

【國務大臣男爵幣原喜重郎君登壇】

○國務大臣(男爵幣原喜重郎君) 只今ノ南原博士ノ御質疑ニ御答ヘ申上ゲマス、御答ヘ申上ゲル上ニ於キマシテ吉田首相ニ對スル御質疑ノ點ニモ自然觸レル所ガアルカト思ヒマス、其ノ點ニ付キマシテハ私ノ申述ベルコトハ單ニ私個人ノ考ヘト、斯ウ云フ風ニ御聽取ヲ願ヒマス、前內閣ガ當初ヨリ憲法改正問題ニ關シテ如何ナル方針ヲ執ツテ居ッタカト云フコトデアリマス、先ヅ南原博士ノ御質問ノ第一點ハ、私等ハ當初ヨリ方針ヲ決メテ此ノ問題ノ調査ニ著手シタノデアリマセス、先ヅ調査ヲシテカラ方針ヲ決メタルコトニ致シタノデアリマス、從ツテ當初ノ構想トハ調査ノ進ムニ從ツテ、漸次變ツテ來ルト云フコトハ、是ハ當然デアラウト考ヘマス、御承知ノ通り前內閣時代ニハ松本博士ガ本問題ノ調査立案ヲ主宰セラレマシテ、日夜此ノ爲ニ肝膽ヲ碎レタノデアリマスルガ、私ハ何モ此ノ問題ニ専門ノ知識ヲ持ツテ居ル譯デモナク、唯同僚ノ一人トシテ其ノ議

ニ與ツタダケノコトデアリマスルケレドモ、只今御質疑ガアリマシタカラ、私ニ關スル範圍内ニ於テ私ガドウ云フ心持デ此ノ議ニ與ツタカト云フコトヲ大體先ヅ御話申上ゲタイト存ジマス、此ノ憲法改正案ノ第一條ノ規定ニ付キマシテ、天皇ハ日本國民統合ノ象徵デアラセラルコト云フ此ノ一句ニ御注意ヲ願ヒタイト存ジマス、象徵ト云フコトハ何ダカ神祕性ヲ帶ビテ居ルヤウニ仰セラレマシタガ、私ハ左様ニ考ヘテ居リマセス、是コソ常識的ナ現實ヲ示シタモノト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、天皇ノ御身ニ依ツテコソ日本國民ノ統合ガ表現シ得ラレルモノト私ハ信ジテ居リマス、天皇ノ御存在ヲ離レテハ日本國民ノ統合ハ考ヘラレマセス、日本國民ガ支離滅裂セル島合ノ衆ニナラナイノハ、天皇ガ自然ト國民ヲ中心點ニ惹キツケル力、即チ求心力トナツテ、イツモ國民ノ中樞ニアラセラルル爲デアリマス、其ノ求心力ト云フノハ權力デモナケレバ、政治機能デモアリマセス、天皇ノ御手ノ中ニ何等ノ權力モ、政治機能モナカッタ昔ノ武門時代、封建政治時代ニ於キマシテモ、國民ノ統合ノ中心點ハ儼然トシテ、天皇ノ御身ニ存シ、毫モ移動シナカッタノデアリマス、斯カル事實ハ我が國ノ歴史ヲ一貫シ、其ノ潜在意識ハ、今ヤ國民ノ信念トナツテ、人心ニ奥深く根ヲ下シテ居ルモノト認メラレマス、我が國ニ於テ、政體ハ變ツテモ、國體ハ變

ラナイト云フノニハ、種々ノ見方モアリマセウガ、其ノ一ツハ此ノ以上ノ事實ヲ指シモノデアラウト私ハ考ヘテ居リマス、現行憲法ニハ、天皇大權事項ガ相當廣範ニ互ツテ居リマス、之ニ乘ジテ一部ノ人々ガ、誤ツタル理念、盲目的ノ愛國心ニ依リ、濫リニ褒龍ノ袖ニ隱レテ、無謀ナル國際的冒險政策ヲ企テ、遂ニ我が國民ヲ血ヲ涙ノ深ミニ陥レタト云フコトハ、誠ニ痛恨ノ極ミデアリマス、之ガ爲、延イテ果テ皇室ニ迄及スコトナツタノデアリマス、憲法改正案第四條ニ、天皇ガ國政ニ關スル權能ヲ有セラレナイト云フコトガ規定サレテアリマスルノハ、畢竟一部ノ人ガ斯様ナ危険ナ策動ヲ未來永劫ニ封ゼムガ爲デアルト思ハレマス、天皇ノ大權ノ制限ハ、要スルニ皇室ノ御安泰ト、國民ノ幸福ト永遠ニ保障スルノ目的ニ外ナラヌノデアリマス、又改正案ノ第九條ニハ國際紛爭解決ノ手段トシテ、戰爭ニ訴ヘルコトヲ否認スル條項ガアリマス、「マッカーサー」元帥ハ本年四月五日對日理事會ニ於ケル演說中、此ノ第九條ノ規定ニ言及致シマシテ、世間ニハ戰爭拋棄ノ條項ニ往々皮肉ノ批評ヲ加ヘテ、日本ハ全ク夢ノヤウナ理想ニ子供ラシイ信賴ヲ置イテ居ルナドト冷笑スル者ガアリマス、今少シク思慮ノアル者ハ、近代科學ノ發達タル進步ノ勢ニ目ヲ著ケテ、破壊的武器ノ發明、發見ガ、此ノ勢ヲ以テ進ムナラバ、次同ノ世界戰爭ハ一舉ニシテ人

類ヲ木ツ葉微塵ニ粉碎スルニ至ルコトヲ豫想セザルヲ得ナイデアラウ、之ヲ豫想シナガラ我々ハ尙躊躇逡巡致シテ居ル、我ガ足下ニハ千仞ノ谷底ヲ見下シナガラ、尙既往ノ行懸リニ囚レテ、思切ツタ方向轉換ヲ決行スルコトガ出來ナイ、今後更ニ大戰爭ノ勃發スルヤウナコトガアツテモ過去ト同様人類ハ生殘ルコトガ出來サウナモノデアルト云フガ如キ、虫ノ良イコトヲ考ヘテ居ル、是コソ全ク夢ノヤウナ理想ニ子供ラシイ信賴ヲ置クモノデナクテ何デアラウカ、凡ソ文明ノ最大危機ハ、斯カル無責任ナ樂觀カラ起ルモノデアアル、是ガ「マッカーサー」元帥ガ痛論シタ趣旨デアリマス、實際此ノ改正案ノ第九條ハ戰爭ノ拋棄ヲ宣言シ、我が國ガ全世界中最モ徹底的ナ平和運動ノ先頭ニ立ツテ指導的地位ヲ占ムルコトヲ示スモノデアリマス、今日ノ時勢ニ尙國際關係ヲ律スル一ツノ原則トシテ、或範圍内ノ武力制裁ヲ合理化合法化セムトスルガ如キハ、過去ニ於ケル幾多ノ失敗ヲ繰返ス所以デアリマシテ、最早我が國ノ學ブベキコトデアリマセス、文明ト戰爭トハ結局兩立シ得ナイモノデアリマス、文明ガ速カニ戰爭ヲ全滅シナケレバ、戰爭ガ先ヅ文明ヲ全滅スルコトニナルデアリマセウ、私ハ斯様ナ信念ヲ持ツテ此ノ憲法改正案ノ起草ノ議ニ與ツタノデアリマス、次ニ第二點トシテ南原博士ハ、三月六日ノ憲法改正ニ關スル方針ガ激變シタ理由如何、斯ウ

云フコトヲ御聞ニナリマシタ、此ノコトニ付キマシテハ、私ハ冒頭ニ一言申上ゲテ置イタルデアリマスルガ、前內閣時代ニ確カニ松本博士ガ現行憲法ノ第一條乃至第四條ハ、自分ハ之ニ對シテ其ノ儘存置シテ置ク積リデアルト云フコトヲ一家ノ私案トシテ申サレマシタ、左様ニ私ハ記憶致シテ居リマス、是ハ實ハ此ノ第一條乃至第四條ダケデアリマセス、大體カラ申シマスレバ、現行憲法ハ頗ル彈力性ガアリマシテ、是ガ若シ正當ニ適用サレテ居リマスナラバ、憲法改正ノ問題ハ生ジテ居ナカッタと思フ、然ルニ遺憾ナルカナ、是ガ先刻モ申シマシタ通り歪曲セラレ、間違ツタル方向ニ適用セラレマシタガ爲ニ此ノ問題ガ起ツテ來タノデアリマス、斯様ニ考ヘマスルナラバ、最早我々ハ此ノ血ヲ涙ノ喰付イタル古イ着物ハ此ノ際締ニ投ゲ捨テテ全ク新シイ着物、斯様な記念ノ存シナイ着物、假令元ノ着物が如何ニ本質ガ良クテモ、其ノ地質ガ良クデモ之ヲ捨テテ新シイ衣替ヲスルト云フ氣持ニナラナケレバナラス、斯様ニ我々ハ考ヘタルデアリマス、即チ初メノ構想ト追々構想ガ變ツテ來タト先刻申シマシタルハ此ノ意味デアリマス、今日ノ時代ノ要求ヲ考ヘマスト云フト、斯ウ云ツヤウナ、モウ血ヲ涙ノ喰付イタル着物、古イ憲法ニ拘泥シテ居ル……其ノ憲法ニ何ニモ責任ハアリマセヌケレドモ、事實上サウ云フ歴史ガ喰付キマシ

タ以上ハ、是ハ取替ヘル、是ハ私ハ今日ノ時代ノ要求ニ適スルモノデアルト斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル、從ヒマシテ此ノ憲法改正ニ對スル方針ノ激變セル理由ト云フコトノ御質問ニ對シマシテハ確カニ激變シタノデアリマス、急變シタノデアリマス、急變シタノモ我々が國際内外ノ情勢ヲ考ヘテ、ドウシテモハ是デ進ンデ行ク方が宜イト云フ我々ハ信念ヲ以テ書イタノデアリマス、何モ我々が先刻南原博士ガ仰セラレマシタヤウニ、引摺ラレテ躊躇逡巡シテ愚圖々々長イ間ヲ經過シテ居ツタト云フヤウナ御非難ガアリマシタガ、私ハ左様ナ非難ハ當ラヌコトダト考ヘマス、尙其ノ他ノ諸點ニ付キマシテハ係ノ大臣カラ御答辭ニナルト考ヘマス、(拍手)

○議長(公爵徳川家正君) 内閣總理大臣

〔國務大臣吉田茂君登壇〕

○國務大臣(吉田茂君) 南原博士ニ御答ヲ致ス前ニ、昨日澤田君ノ御尋ニ對シテ、答辭ヲ保留致シテ置キマシタ衆議院ニ於ケル私ノ演說ニ付テノ文句ノ中ニ御答メノアリマシタコトニ付テ御答ヲ致シマス、私ノ致シマシタ衆議院ニ於ケル演說ハ、憲法ノ審議ヲ衆議院ガ終了致シマシテ、其ノ審議ノ御勞苦ニ對スル感謝ノ言葉ト致シタ演說デアリマスガ、先ヅ冒頭ニ於テ私ハ斯ウ申シタノデアリマス、本院ニ於テ憲法改正案ガ可決サレマシタ、是ハ衆議院ニ

於テデアリマス、又末段ニ於ケマシテ、本案ガ成立スル迄ニハ固ヨリ尙必要ナ手續ヲ殘シテ居ルノデアリマス、茲ニ諸君ノ努力ニ對シ感謝ノ意ヲ表シマス、「猶必要ナ手續ヲ殘ツテ居ル」、斯ウ申シタノデアリマス、尙之ガ成立スル迄ニハ猶必要ナ手續ヲ殘ツテ居ルト斯ウ申シタノデゴザイマス、之ニ依ツテ御答メノ點ハ明瞭ニナツタカト考ヘマス、次ニ南原博士ニ御答ヘ致シマスガ、此ノ憲法改正案ニ對シテハ、甚ダ早急ニ拵ヘ上ゲテ、爲ニ自主性ヲ失ツテ居ル、唯單ニ政府ノ本旨ハ國際關係ノミデアルト云フヤウナ御言葉ノヤウニ承知致シマシタガ、此ノ憲法改正案ノ成立ニ付キマシテノ來歴ハ、今一應幣原國務大臣カラ説明ガアリマシタガ、政府ト致シマシテハ終戦後直チニ此ノ問題ハ採上ゲテ居ルノデアリマス、東久邇宮内閣以來此ノ問題ハ採上ゲラレタ問題デアリマシテ、幣原内閣ニ至ツテ具體的ニ研究ヲ益々進メラレテ、ソシテ遂ニ成案ヲ得テ、而モ國民ノ意思、國民ノ之ニ對スル批評ヲ十分ニ聽カムト欲シテ、總選舉前ニ之ヲ發表スルノ必要ヲ感ジテ發表致シマシテ、總選舉ニ於テ憲法改正案ニ對シテ國民ノ意思ヲ問ハムト致シタ譯デアリマス、次ニ自主性ヲ缺イテ居ルト云フ御考ガアルカモ知レマセヌガ、政府ト致シマシテハ、國民ノ自主性、國民ノ要求ハ十分採入レタ考デアリマス、尙其ノ外ニ南原博士ノ御話ノ通り、現在ハ

華國以來ノ大變革ノ秋デアリマス、從ツテ又國際情勢ハ之ヲ心ノ中ニ入レザルヲ得ナイノデアリマス、ノミナラズ國際情勢ニ於ケマシテハ、時ト云フコトヲ十分ニ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、故ニ私ハ此ノ必要ヲ下ニ此ノ改正案ガ兩院ニ急速ニ提出ノ運ビガ出來ルヤウニ政府ト致シマシテハ十分努力ヲ致シタ譯デアリマス、又此ノ憲法草案ノ爲ニ特ニ議會ヲ召集シテ、特別ナ議會ニ掛ケルガ宜イカ惡イカト云フコトニ付テハ、政府ト致シマシテハ現在ノ議會ニ掛ケルコトガ宜イト、斯ウ考ヘマシタノデ、其ノ點ニ付テハ不幸ニシテ南原博士ト意見ヲ異ニ致シマス、又戰爭抛棄ニ付テ、將來國際聯合ニ入ル意思デアルカ、或ハ自主的、自衛的ノ戰爭ヲモ抛棄シタノデアルカト云フ御尋デアリマスガ、今日ハ日本ト致シマシテハ、先ヅ第一ニ國權ヲ回復シ、獨立ヲ回復スルコトガ差迫ツテノ問題デアリマス、此ノ國權ガ回復セラレ、サウシテ日本ガ再建セラレル此ノ目下ノ差迫ツタ問題ヲ政府ハ極力考ヘテ居ルノデアリマシテ、萬事ハ講和條約或ハ國家ノ態勢ガ整フト云フコトヲ、政府トシテ極力其ノ方向ニ向ツテ努力シテ居ル譯デアリマシテ、ソレ以上ノコトハ御答ヘ致スコトハ出來ナイノデアリマス、(拍手)

○國務大臣(金森徳次郎君登壇) 改正憲法案ノ中ニ於ケマスル政治的基本性格ニ關シマシテ南原君ノ御質問ニナリマシタ點ニ付テ御答ヲ致シタイト思ヒマス、南原君ノ御質疑ハ種々ナル角度カラ種々ナル要點ニ觸レテ御質疑ニナリマシタガ爲ニ、一々果シテ網羅的ニ御答シ得ルヤ否ヤト云フコトハ自ラ疑ツテ居リマスルガ、其ノ基本的ナル點ニ付テ申上ゲマシタナラバ、恐ラク御了解ヲ願ヒ得ルコトト思ツテ居リマス、御質疑ノ第一點ハ天皇制ヲ繞ル問題デアリ、第二點ハ主權論トモ謂フベキ事項ニ互ルモノデアリタト考ヘルノデアリマス、天皇制ヲ繞ル問題ニ付キマシテ色々ナ御意見ヲ御述ニナリマシタガ、ソレハ天皇制ニ關スル此ノ新シキ憲法案ノ取扱方ハ、現行憲法トハ對蹠的デアツテ、政治的ナル意思構成トシテハ殆ド無意義デアツテ、天皇制ヲ存置スルト云フコトハ實ハ制度ノ實體ニ加ヘタル粉飾ニ過ギナイノデハナイカ、斯ウ云フコトガ御議論ノ骨子トナツテ居ツタヤウニ思フノデアリマス、此ノコトハ日本國民ガ過去ノ長イ間、殊ニ明治憲法以來統治權ノ總攬者トシテ、而モ三ツノ權力ノ統括者トシテ、又其ノ中ニ於ケマシテモ強力ナル行政權ノ統括者トシテ天皇ノ御地位ガ定ツテ居ツタコトニ對シマシテ甚ダシク違ツテ居ルコトハ是ハ申ス迄モアリマセヌ、且又更ニ根本ニ於テ天皇ノ御性格ノ由ツテ起ル基礎タル理由ニ至リマシテモ、觀ヤウニ依ツテハ變ツテ居ルト云ハナケレバナリマセヌ、ソコデ私共此ノ憲法ノ草案ニ付テ考ヘマスル時ニ、實ニ

心ヲ甚ダシク傷マシタ問題デアルノデアリマス、我々ハ過去ノ戰爭ヲ通ジマシテ、又ソレヨリ前ノ經驗ヲ通ジマシテ、本當ニ眞理ヲ眞理トシテ觀ル力ヲ育成シタモノト思フノデアリマス、世界ノ知識ヲ吸收スルト同時ニ、我々ノ過去ヲ再檢討シテ、今迄蔽ハレテ居ツタモノヲ冷ヤカニ見透シテ、心ニ好マシク思フト否ト問ハズ赤裸々ニ事物ヲ判定スルコト云フ心持ニナツテ來タノデアリマシテ、其ノ根本ニ於テ一ツノ問題ハ、一體國家ノ意思ノ、即チ國家ノ活動力ノ源泉ヲ成シテ居ルモノハ何デアラウカト云フ點デアルノデアリマシテ、此處ニ日覺メマスルト、種々ナレバナラヌト思フノデアリマス、其ノ我々ノ國家活動ノ源泉トナルベキ力ハ何處ニアルカ、ソレハ先程南原君ガ仰セニナリマシタヤウニ、民族共同體デアルト答フルコトハ確カニ聰明ナル、恐ラクハ正シイ所ノ御考デアラウト思フノデアリマス、併シ憲法自身ハ學說ノ範圍ニ迄ハ互ツテ居リマセヌ、左様ナ學說ヲモ包容シ得ル立場ニ於ケマシテ、此ノ憲法ハ草案ニ於ケマシテハ、國ノ至高ノ意思ガ國民ニアルト云フ趣旨ノ言葉ヲ以テ言ヒ現シタノデアリマス、至高ノ意思ガ國民ノ總意ニ在ル、斯ウ云フ言ヒ現シ方ヲ以テシタノデアリマシテ、是ハ考ヘ方ニ依リマシテハ、實ニ過去ノ傳統ヲ甚ダシク破壊スル所ノモノデアルト思ヒマスルガ、南

原君が仰セニナリマシタヤウニ、十分根柢アル學理的ナル基礎ヲ有シ得ルモノト信ジテ居ルノデアリマス、其ノ前提ニ依リマシテ憲法ノ各條文ハ整理セラレテ居リマスルガ、主權ト云フ言葉ヲ何故使ハナカッタカト云フコトニ歸著シマス、政府ノ原案ニ於キマシテハ、主權ト云フ言葉ハ使ツテハ居リマスルケレドモ、今申シマシタ意味トハ全然別ノ所ニ使ツテ居リマシテ、謂ハバ國權ト國ノ直接ナル活動力ト云フヤウナ意味ノ所ニ使ツテ居リマシテ、國家ノ働ノ源泉タル意思ト云フヤウナ意味ニハ使ツテ居ナカッタノデアリマス、是ハ主權ト云フ言葉ガ、日本ノ現在ニ於キマシテモ、亦其ノ由ツテ來ツタ所ノ諸國ノ用ヒ方ニ於キマシテモ、種々ナル意味ヲ持ツテ居ル、多岐的デアリ、其ノ多岐的ナル言葉ヲ以テ此ノ大事ナ思想ヲ言ヒ現スコトハ、マダ熟シテ居ナクデハナイカ、斯ウ云フ前提ノ下ニ至高ノ意思ト云フ言葉ヲ以テ説明ヲシタノデアリマス、併シ其ノ意味ハ私ガ衆議院ニ於テ、明カニ説明ヲ致シマシタ通り、私ノ定義シタヤウナ意味ニ於キマシテハ、主權ハ國民ノ全體ニ在ルト云フコトニ歸著シテ居リマシタ、其ノ點ニ於キマシテ、政府ノ説明トシテハ、一點ノ曖昧サヲモ持ツテ居ル譯デハゴザイマセヌ、然ルニ衆議院ニ於キマシテハ、特ニ其ノ點ヲ一層明確ニスル爲ニ、主權ハ國民ニ在リト云フ言葉ニ修正ヲスルト云フ方向ヲ採ラレタ

ノデアリマシテ、是ハ私ノ説明ノ趣旨ト何等矛盾スル所ハゴザイマセヌ、唯多岐的ナル言葉ヲ輕々シク使フコトヲ避ケタ、其ノ心持ガ此處ニ於テ固成セラレタト云フコトニ歸著スル次第デアリマス、左様ニ主權ト云フモノガ、國民ノ全體ニ在ルト云フコトハ、即チ過去ノ日本ノ實情、本質ト違ツタモノデアルト云フ所ニ問題ガ起ツテ來ルト思ヒマス、昨日アタリカラノ、恐ラクハ南原君ノ御説ノ中ニモアツタノデハナイカト思ヒマスルガ、是レ即チ日本ノ謂ハバ革命トモ謂フベキモノデアルト云フ風ニ御説明、御主張ニナツテ居ル場面ガアリマス、私ハサウハ決シテ思ヒマセヌ、我々ノ過去ニ於キマシテハ、日本ノ本當ノ姿ガ、言葉ヲ以テ、力ヲ以テ、色々モノヲ以テ蔽ハレテ、十分ナル説明ヲ與ヘラレテ居ナカッタ、又之ニ應ジマシテ、國民全體ノ認識モ其處迄至ツテ居ナカッタ、併シ今日ニ於テ考ヘテ見マスレバ、國民ノ全體ノ意思ガ、日本國家ノ活動ノ源泉ヲ成シテ居ツタト云フコトハ、歴史ノ示ス所ニ依ツテ本格的ニ之ヲ類推スルコトガ出來ルノデアアル、是コソ認識ノ變化デアツテ、實體ノ變化デハナイ、私、昨日天動説、地動説ノ變化ノ誠ニ愚カナル例ヲ以テ申シマシタガ、誠ニ全ク此ノ例ハ當ツテ居ルト今モ尙信ジテ居ル次第デゴザイマス、斯様ニ考ヘテ來マスルト、天皇ノ御地位ハ如何ナルモノカト云フコトガ起ツテ來ルノデ

アリマスルガ、私ハ天皇ノ本當ノ御地位ハ我々ノ心ノ根柢トノ繫リニ於テアルモノデアアル、敢テ一片ノ法律ヲ以テ作り得ルモノデモナク、法律ヲ以テ消シ得ルモノデモナク、日本民族ノ熱烈ナル血液ガ流レテ居ル限り、我々ノ全精神トノ繫リニ於テ天皇ノ御地位ガハツキリト國民ノ心ノ中ニ在ルノデアリシ、又適ツテ見レバ歴史ノ中ニハツキリ現レテ居ル、其ノ基本ノ考ヲ捉ヘテ言ヘバ、是ガ即チ日本ノ本當ノ姿デハナイカ、ソレハ本當ノ姿ト言ヘバ、ソレハ即チ國體ト云フ言葉ヲ一ツノ意味トシテ言ヒ表シ得ルノデハナイカ、且又國民ガ常識的ニ國體ト言ツテ居ル其ノ姿デハナカラウカ、此ノ前提ノ下ニ此ノ國體ト云フモノハ日本國民ノ心ノ奥深く持ツテ居ル其ノ天皇トノ繫リト云フモノニ於テ日本民族ト云フモノハ結成セラレ、ソレニ基イテ國家ガ出來テ居ル、其ノ特色ヲ言フノデアアルト云フ説明ヲシテ居ツタノデアリマシテ、私ハ今日ニ於テ其ノ考ガ正シイノデアルト思ヒ、先程此ノ點デハナカッタカモ能ク存ジマセスガ、南原君ハ一種ノ自己欺瞞デアルト、此ノ點デハナカッタヲ申譯アリマセヌガ、一種ノ自己欺瞞デアルト仰セニナリマシタ、言葉ノ使ヒ方ハ別トシマシテ、私ハ全責任ヲ以テ自己欺瞞ト信ジテ居ナイト云フコトヲ明言致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ斯様な基礎ノ下ニ於キマシテ天皇ノ御地位

ハドウデアアルカト云フ道德的方面ニ於キマシテハ、國民ノ歴史ト心トノ中ニ宿ツテ居ル、而モ現實ノ政治ノ面、法律ノ面ニ運ビ來リマスル時ニ如何ニスルカト云フコトガ起ツテ來ル、是カラ憲法ノ問題トナツテ來ルノデアリマス、是以前ハ憲法ノ以前ノ問題デアリマス、其ノ本質ガ憲法ニ接觸シテ先ヅ現レマスル所ガ憲法ノ第一條デアリマス、「天皇ハ日本國の象徴であり日本國民統治の象徴」デアルト天皇ノ御地位ハ日本國民ノ總意、所謂國家活動ノ源泉トナル所ノ「日本國民の至高の總意に基ク」ト規定シテアルノデアリマシテ、茲ニハツキリ國家活動ノ源泉トナル國民ノ總意ニ基ク天皇ノ御地位ガ神秘的ナル考ノミニ基イテ是ガ説明セラレルノデハナク、確乎不動ノ歴史ト國民ノ心ノ中ニ根差シテ居ルト云フコトガハツキリシタノデアリマス、今迄ノ天皇ノ御地位ト云フモノハ、小學校ノ子供ト雖モ、疑フ差換メバ差換ミ得ルヤウナ神話ヲ基礎トシテ日本ノ基礎原理ヲ規定シタト云フコトハ、ドウシテサウ云フコトガヤレタカ今日デモ不思議ニ思ハレルノデアリマス、之ニ依ツテ愈々天皇ノ御地位ハ御安泰ト申スコトガ出來得タ次第デアリマス、斯様ニ天皇ノ御地位ガハツキリト國法上ニ認定シ得タコトハ、先程南原君ガ申サレマシタ通り、諸國ノ知識ヲ廣ク集メルト同時ニ、日本ノ中ニ備ツテ居ル美シイ特殊ナル傳統ヲ尊重シナケレバナ

ラスト云フ原理ニ當ルト思ヒマス、日本國民ノ心ノ中心トナツテオイデニナル方ガ國民ノ總意ニ依ツテ國民統合ノ象徴デアルト云フ風ニ定メルコトハ、實ニ適切デアルト考ヘテ居リマス、サウシテ國法上此ノ地位ガ定マリマスレバ、此ノ象徴タルコトト相繫ツテ適當ナル國家ノ働キニ關シマス御權能ガ之ニ附隨スベキコトハ勿論デアアルノデアリマス、憲法第六條、第七條ニ定ツテ居リマスル天皇ノ御權能ハ澤山之ニ崩シテ居リマス、即チ象徴タル地位ニ伴ツテ相應シク且多過ぎズ、少カラザルモノヲ特ニ留意シテ規定セラレタモノト考ヘテ居リマス、併シ此ノ限度ニ於キマシテハ色々ナ意見モ立ツコト思ヒマス、程度ノ問題ニナルヤウナコトガアリマスルガ、何レニ致シマシテモ是ハ本質的ニ儀禮ト云フ意味ヲ深ク持ツテハ居リマスルケレドモ、決シテ儀禮ノミニ止ツテ居ルモノデナイト云フコトハ、特ニ申上ゲナクテモ能ク御承認下サリ得ルコトト思フノデアリマス、一體天皇ノ御地位ニ多クノ權能ヲ認メテ、例ヘバ法律ノ裁可デアルトカ、條約ノ批准デアルトカ云フコトヲ認メマスルコトハ確カニ國民感情ノ一面ニ於テ大ニ適合スル面ガアラウトハ思ツテ居リマス、併シ我々ハキラビヤカナル飾リヲ以テ天皇ノ御地位ヲ考ヘヨウトスルヨリモ、素朴ナル我々ノ心ノ中ニ於テ、眞ニ國民敬愛ノ中心タル天皇ヲ見ルト云フ所ニ重點ヲ置キタ

イ、サウシテ天皇ニ付テ色々ナ紛糾セル責任ガ起ラズ、又皇位ハ世襲デアルト云フ原理ト、天皇ニハ政治的責任ガ起ラナイト云フ原理トヲ併セ考ヘマシテ、又過去ニ於キマシテ紛糾シタ此ノ政治ガ天皇ノ名ヲ傷ツケタト云フコトヲ避ケマスル爲ニハ、斯様ナ程度ニ六條七條ノ内容ヲ定ムルコトガ妥當ト思ツタ次第デアリマシマス、是ガ大體ニ於テ此ノ政治機構ニ關シ、政治的基本性格ニ關シマスル私ノ御答デアリマシマス、次ニ此ノ憲法ガ衆議院ヲ通過シテ貴族院ニ廻ツタ場合ニ、貴族院ハ如何ナル關係ヲ持ツベキモノデアリカト云フ御質疑デアリマシタ、是ハ昨日宮澤君ノ御質疑ニ對シマシテ此ノ改正憲法ガ現行憲法第七十三條ニ基イテ議會ノ議ニ付セラレテ居ルト云フコトヲ申上ゲ、其ノ關係ニ於テ説明ヲ申上ゲマシタ、即チ憲法ノ規定ニ依レバ、貴族院ハ明カニ第七十三條ノ示ス通りノ議決權ヲ行使セラル、モノデアリ、修正權等ニ付キマシテモ、衆議院ト異ル所ハナイト考ヘテ居ル譯デアリマス、併シテナガラ南原君ハソレヲ法律的ニ聽クノデハナイ、政治的ニ見テ貴族院ハ如何ニシテ宜シキカ、ド云フモノト政府ハ思ツテ居ルカト云フ御質疑デアリマスルガ、此ノ問題ハ私ガ特ニ申上グル必要モナイノデアツテ、賢明ナル貴族院ノ諸君方ガ十分聰明ニ御判斷ヲナスツテ下サリ得ルモノト思ヒマシテ、私ハ特別ナル御答ヲ申上ゲマセヌ、第

二「レフエレンダム」ノ問題デアリマス、此ノ憲法ハ國民ノ全意思ニ基キテ結成セラルベキモノデアリカラシテ、此ノ憲法ガ出來タナラバ、之ヲ國民投票ニ付スルト云フ方法ヲ執リ、少クトモサウ云フヤウナコトヲ此ノ憲法ノ中ニ規定ヲ置イテ、或期間ヲ經過シテ此ノ憲法ガ一應ノ效力ヲ持ツタ時ニ此ノ「レフエレンダム」ニ問ウタラ宜イデハナイカト云フ點ノ御質疑デゴザイマシタ、此ノ憲法ガ將來ノ改正手續ヲ定メテ居リマスル場合ニ「レフエレンダム」ノ制度ガアリマスル限り、此ノ憲法ノ改正ニ付キマシテモ、亦國民投票ニ訴フルト云フコトハ筋ノ通ル一ツノ論點デアリマス、併シナガラ之ニハ先ニ申シマシタヤウニ、現行ノ憲法トノ繋リニ於テ改正ガ行ハレマスルガ故ニ、即チ憲法第七十三條ガ國內法的ナ基本原理トナツテ居ルノデアリマス、從ツテ此ノ際即座ニ「レフエレンダム」ヲ行フコトハ許サレマセヌ、然ラバ後ニ其ノ「レフエレンダム」ヲヤツタラ宜イデハナイカト云フコトガ起リマスガ、ソレニハ少クトモ「レフエレンダム」ノ規定ダケハ先ヅ憲法上效力ヲ生ジテ、他ノ規定ハ效力ヲ生ジナイト云フ段階ヲ認メナケレバナリマセヌ、斯ウ云フコトヲ考ヘテ居リマスルト、憲法改正ノ手續ガ可ナリ煩雜ナモノニナリ、ソレモ構ハヌト致シマシテモ、大體此ノ憲法ハ先ニモ申上ゲマシタヤウニ、非常ニ急グト云フコトガ好マシイノデアリマ

シテ、此ノ際特ニ煩雜ナル手續ハ避ケ得ラルベクンバ避ケタ方ガ宜イと思ツテ居ル譯デアリマス、處ガ今回改正ノ道行ハ其ノ「レフエレンダム」ノ逆様ヲ行キマシテ、先ヅ憲法草案ヲ世ノ中ニ發表シテ、然ル後ニ衆議院ノ總選舉ヲ行ツテ、其ノ國民ハ憲法草案ヲ眼ニ視、色々ナ話ヲ耳ニ聽イテ、衆議院議員ノ選舉ヲシ、其ノ議員諸君ガ衆議院ニ集ツテ此ノ憲法ヲ審議セラレタノデアリマスカラシテ、自ラ御趣旨ノ内容ハ不十分ナガラ、實質的ニハ實現セラレテ居ルモノト考ヘテ居ル次第デアリマスルカラ、此ノ際改メテ「レフエレンダム」ヲスルコトハ得策デアナイと思ツテ居リマス、次ニ尙將來ハ法律ニ付テモ「レフエレンダム」ヲ行ツタハドウカト云フ御尋デアリマシタ、是ハ確カニサウ云フ考ヘ方モアリ得ルノデアリマスルガ、此ノ憲法ヲ考ヘマスル當時ノ議論ト致シマシテ、今日モ正シイト思ツテ居リマスル考ヘ方ハ、先ヅ議會政治ト云フモノヲ完備セシメマスル爲ニハ、議會ニ重點ヲ置キ、其ノ責任ヲ強化シナケレバナラスノデアアル「レフエレンダム」ハ其ノ議會ト云フモノノ價值ヲ減少シ、其ノ責任ヲ輕クスルモノデアアル、故ニ此ノ際ニ於キマシテハ「レフエレンダム」ニ進ムコトハ適當デアナイト云フ結論デアリマシテ、今日モ左様ニ考ヘテ居リマス

〔國務大臣河合良成君登壇〕

○國務大臣(河合良成君) 只今ノ南原博士ノ國民生活ノ保障、或ハ社會政策ノ實行、斯ウ云フ問題ガ此ノ憲法草案ノ通リデアレルカ、又ソレヲヤルトシタナラバドウ云フ風ニヤルカ、其ノ大體ノ構想ヲ話セト云フ御趣旨ノ御質問デアリマシタ、之ニ御答ヘ致シマスルガ、大體終戦後ノ國情ノ混亂モ段々落著イテ行クト云フ風ニ見テ居リマス、ソレヲ一方食糧問題ニ對スル不安モ大分解消スル見透シガ付イテ參リマシタト云フ風ニナリマシタノデ、此處デ矢張り積極的ニ色々國民生活保障、或ハ社會政策ノ實行ト云フ點ニ大膽率直ニヤツテ行カケレバナラス機會ニ達シタト云フ風ニ確信シテ居リマス、ソレヲ勿論此ノ議會ニモ生活保護法、或ハ失業對策ニ對スル各種ノ豫算ヲ提案シテ居リマスルガ、其ノ以外ノモノニ付キマシテハ、多分此ノ秋ニ開カルベキ議會及ビ此ノ暮ニ開カルベキ通常議會ニ出來ルダケ大部分ヲ提案スル見込デ居リマス、大體此ノ憲法ノ草案デサウ云フ目的ハ完全ニ達シテ行ケル、又此ノ憲法草案ハ其ノ意味ニ於テ非常ニ進歩的デアルト云フコトヲ信ジテ居リマス、先ヅ第一ノ御質疑ノ財產權ニ付テノ御疑問ニ對シテ御答ヘ致シマスガ、此ノ財產權ハハ申上テモナク憲法第十二條ニ生命、自由及ビ幸福ノ追求ハ最大ニ尊重スルコトガ必要ダト云フ規定ガアリマシテ、此ノ生命、自由及ビ幸福ノ追求ト云フコトニナリマスルト、申上テモナク財物ガ必要ニナツテ

來ルノデアリマス、ソレデ此ノ財物ト云フ問題ニ對シマシテ、或考ヘ方デハ之ヲ國有トカ公有トカ云フコトニ原則ヲ置ク考ヘ方モアリマスガ、我々ハハハ勿論私有ガ適當デアアル、私有財產ガ適當デアアル、是ハ色々ノ理由デ又私有財產制度ト云フモノヲ存置スルコトガ民族發展ノ爲ニモ宜イノダト云フ考ノ下ニ、勿論此ノ私有財產制ヲ前提トシテ參ル次第デアリマスルカラ、從ツテ財產權ハ侵シテハナラナイト云フ當然ノ規定ガ出テ來ル譯デアリマス、併シ言フ迄モナク民主國家ニ於キマシテハ、自分ノ權利ノ主張ト同時ニ他人ノ自由、權利モ勿論尊重シナクチヤナリマセヌカラ、コ、デ南原博士ノ共同民主主義的ノ考ハ勿論ハ非常ナ大切ナコトデアリマス、サウ云フ意味ニ於テ、矢張り一應認メタ私有財產權モ公共ノ福祉ニ適合スルヤウニヤラナクチヤナラズ、又正當ナル保障ノ下ニ之ヲ公共ノ爲ニ使用スルコト云フコトヲ明示シタ譯デアリマシテ、原則ハドウシテモ私有財產制ト云フモノニ置キマスレバ、例外トシテ斯ウ云フコトニ書タト云フコトハハ理ノ當然デアアル、是デ大丈夫目的ハ達スル、又ソレニ對シテ正當ノ保障ヲ拂フト云フコトハ、之ガ矢張り民主主義國家ノ理念デアアルト、私ハ斯ウ云フ風ニ解釋シテ居リマス、又勤勞權、或ハ生活保障ノコトニ付テノ御尋デアリマシタガ、是ハ憲法ノ草案ヲ法律的ニ申シマスレバ、第一

十五條ニ勤勞ノ權利ト義務トガアルコトガ書イテアリマシテ、又二十三條ニハ「健康で文化的な最低限度の生活を営む權利を有する。」是ハ衆議院ノ修正案デアリマスルガ、ト云フ風ニ規定サレテ居リマシテ、是ハ勤勞ノ權利デアリ、又最低生活ヲ營ム權利デアリマス、權利デアリマスカラ、是ハ政府其ノ他ノモノガ之ヲ妨害シテハイカヌノデアリマス、妨害シテハイカヌケレドモ、此ノ文字ヲ法律的ニ考ヘルナラバ、權利デアアルガ、國家ハ之ヲドウシテモ勤勞サセナクチャナラヌ、最低生活ヲ營マサセナケレバナラヌ義務ガ其ノ半面ニ在ルト云フ意味デアアリマセヌ、妨害シテハナラヌト云フ權利デアリマス、併シナガラ直チニ二十三條ノ第二項デ之ヲ承ケマシテ「國は、すべての生活部面について、社會福祉、社會保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」ト書イテ居リマス、是ハ國ノ義務デアリマス、從ツテ此ノ義務ニ對シテ政府ハ全責任ヲ持ツテ行カケレバナラヌカラ、今迄申シマシタ勤勞ノ權利トカ或ハ最低生活ノ保障ニモ、政治的ニハ是ハ全責任ヲ持ツテ行クト云フ結果ニナル、サウ云フ風ニ私ハ法律的ニ解釋シテ居リマス、ソレデハドウ云フ風ニ之ヲヤツテ行クカ、其ノ構想ハ如何ト云フ御尋デアリマシタガ、此ノ點ニ付キマシテハ、問題ヲ矢張り大體二ツニ分ケテ考ヘテ宜イカト思ヒマス、ソレハ一ツハ

社會保障制度ノ問題デアリマス、モウ一ツハ完全雇傭ノ問題デアリマス、社會保障制度ノ問題ノ第一ニ數ヘルノハ勞働問題デアリマス、勞働問題ニ付テハ申ス迄モナク、只今勞働組合法ガ實施サレテ居リマシテ、サウシテ此ノ議會ニハ勞働關係調整法ヲ提案シテ居リマス、次期議會ニハ勞働基準法ヲ提案スル積リデ居リマス、是ハ昨日ノ新聞ニ小委員會ノ案トシテ現レマシタ、アノ基準法デアリマス、此ノ三ツデ大體勞働問題ニ關スル建前ハ完了スル見込デ居リマス、ソレカラ第二番目ノ問題ハ、生活保障ノ問題ニ重大ナ關係ヲ持ツテ居リマスル問題デアリマスガ、是ハ建前ハ只今ノ生活保護法、衆議院ヲ通過致シマシテ、只今此ノ貴族院ニ於テ審議中ノ生活保護法、之ヲ根本的ノ建前ニ致シマシテ、ソレニ組合セマシテ、失業保險ノ制度及ビ國民養老年金、是ハ國民全部ヲ網羅シタ養老年金、此ノ制度ヲ具體的ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ國民ノ醫療ノ方面ニ關シマシテハ、國民健康保險制度ト云フモノガ只今アリマシタガ、三千萬人バカリガ入ツテ居リマスガ、之ヲ強化擴充シテ行ク積リデ居リマス、ソレカラ又醫療普及、病院ヲ増設シタリ、或ハ無醫村ノ村ガアリマス、斯ウ云フ所ニ醫療ヲ普及サセル、公衆衛生ヲ極力増進シテ行ク、斯ウ云フ點ニ付テ色々施策ヲヤリタイト思ツテ居リマス、ソレカラ第二ノ完全雇傭ノ問題デアリマスル

ガ、是ハナカノ日本ノ現狀ニ於テハヤレマセヌ、ト申スノハ日本ニ於キマスル工業ナリ農業ガ非常ニ發達シマシテ、所謂産業ガ興ツテ來マスルト、此ノ問題ハ容易ニ行ハレルノデアリマスガ、只今ノ情勢ニ於テハ其ノ面ニ沿ウテ完全雇傭ト云フコトハムツカシイカラ、是ハ失業救済ノ面ヲ出來ルダケ強化シテ、暫定的ニ處理シテ行ク、又一方ニ於テハ失業保險、國民養老年金等デ之ヲ助ケテ行クト云フ方法ヨリ採ルコトガ出來ヌト思ヒマス、ソレカラ一ツ言ヒ忘レマシタガ、社會保障制度ノ中ニ寡婦、孤兒、廢疾者、浮浪者、斯ウ云フヤウナ者ニ對スル社會政策ノ實行、是ハ思切ツテ劃期的ノ方法ヲ採ツテ行ク積リデ居リマス、サウ云フ風ニ致シマシテ、此ノ憲法決定ノ曉ニハ、其ノ線ニ沿ウタ趣旨ヲ十分實行シテ行クト云フ考デ居リマス

〔國務大臣和田博雄君登壇〕
○國務大臣(和田博雄君) 私ニ關シマスル南原先生ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、眞ノ民主主義ハ、私モ同様ニ、ソコニ力強い經濟ノ裏付ケガアリマセヌナラバ、又個々ノ國民ノ生活ノ内容ニ民主主義ノ精神ガ滲透致シマスルノデナイナラバ、是ハ單ナル空文ニ終ルト、斯様ニ考ヘテ居リマス、憲法ノ上ニ現レマシタ健康ナ、サウシテ文化的ノ最低生活ノ保障、確保ノ問題ニ付キマシテハ、此ノ最低限度ノ生活其ノモノハ、是ハ我が國ガ今後ニ於キマスル經濟ノ力ノ發展ニ依リマシテ、變化スルト思フノデアリマスガ、差當リ、問題ト致シマシテハ、何ト申シマシテモ、最低限度ノ生活ヲ確保致シマスル上ニ於キマシテハ、食生活ニ付キマシテ國民ニ安定感ヲ與ヘルト云フコトデアアルト思フノデアリマス、現在ノ食糧事情ハ甚ダ殘念ナガラ、是ハ二合一ト云フ極メテ貧弱ナ配給シカ出來ナイ狀態デゴザイマス、之ヲ以テマシテ我々ハ十分國民生活ガ、國民ノ食生活ガ安定スルトハ考ヘテ居リマセヌ、幸ニ今年ハ米作、其ノ他甘藷ノ豐作ヲ期待セラレルノデゴザイマシテ、來食糧年度ニ於キマシテハ此ノ點ニ十分思ヒヲ致シマシテ、國民ガ少クトモ關買ヲシナクテモ宜イ程度ニ配給ノ基準量モ上ゲマシテ、國民ノ食糧生活ノ安定感ヲ是非確保致シタイト努力致シテ居ル次第デゴザイマス、併シ根本ハ何ト申シマシテモ、是ハ國民ノ食糧ヲ供給致シマスル責務ヲ持ツテ居リマスル日本ノ農業ノ生産力ヲ高メマシテ、サウシテ一面ニ於キマシテ農業ニ從事致シテ居リマスル所ノ農民ノ生活及ビ文化ノ水準ヲ上ゲテ行ク、ソコニ餘裕ヲ與ヘマスルト共ニ、又一般ノ國民ニ豐富ナル食糧ヲ供給シ得ルヤウニ致シマシテ、國民ノ食生活ノ根本ヲ培ツテ行クコトダト、斯様ニ考ヘルノデアリマス、從ヒマシテ政府トシマシテハ、今回農地制度ノ第二次改革ヲ提案致シマ

シテ、日本ノ農業ノ生産力ヲ高メ、又農村ヲ民主化シマスルニ付キマシテノ方途ヲ講ジマシテ、只今私が申シマシタヤウナ目的ヲ達成スル爲ノ一ツノ手段ヲ講ズルコトト致シタノデゴザイマス、簡單デゴザイマスガ、私ノ答辭ヲ終リマス
〔國務大臣田中耕太郎君登壇〕
○國務大臣(田中耕太郎君) 南原君ノ三點ニ關スル御質問ニ御答ヘ申上ゲマス、先ヅ第一ニ教權ノ確立ニ付テノ御質問デゴザイマス、現狀迄ノ制度ニ於キマシテハ、實際第一線ノ教育界ガ、或ハ官僚的ノ勢力ニ依リ、或ハ地方的或ハ中央的政治的ノ權力ニ依ツテ至メラレテ參ツタノデアリマス、其ノコトハ我々特ニ戰時中ニ於テ痛感致シタ所デアリマス、デ是ガ詰リ教育ノ一主義、又教育界カラ發刺タル精神ヲ奪ツテシマツタト云フヤウナ譯デゴザイマス、從ツテ今後ニ於キマシテハ第一線ノ教育界ヲ、官僚主義又政治的ノ干渉カラ確保シナケレバナラナイト云フコトハ、是ハ一般ニ教育界ノミナラズ、一般ノ輿論トナツテ居ルト申シテモ宜イト思フノデゴザイマス、是ハ丁度大學ニ付テ認メラレテ居リマス所ノ自治程度ハ或ハ全ク同ジデハナイカモ知レマセヌケレドモ、同ジ精神カラ出テ居ルモノデゴザイマス、又司法權ニ付テ制度化シテ認メラレテ居ルヤウナ、サウ云フ趣旨ト其ノ精神ニ於テ共通ナモノガアル譯デアリマス

サウ云フ意味ヲ以テマシテ、昨年ノ秋以來文部省ト致シマシテハ此ノ問題ヲ非常ニ慎重ニ審議シテ參ツテ居リマス、或ハ外國ノ制度ヲ參考ニシ、外國ト申シマシテモ必ズシモ米國バカリデハナイ、他ノ國々ノ制度ヲモ及バズナガラ參考ニシテ檢討シテ參ツテ居ルノデアリマス、先程御指摘ニナリマシタヤウナ學制、其ノ頭ニ大學ノ總長ヲ持ツテ來ルト云フヤウナコトハ、是モ「フランス」ニゴザイマスノデ、本來ノ趣旨ハ、詰リ決シテ他ノ省ニ屬シテ居ル教育ニ關スル權限ヲ文部省ガ取ツテシマフト云フヤウナ、或ハ地方的ノモノヲ中央ニ收メヨウトカト云フヤウナ、サウ云フ官僚主義的ナ、繩張主義的ナ考ハ全クナイノデアリマス、若シサウ云フ風ニ御解シニナツテ居ルトスルナラバ、我々ノ眞意ガマダ十分理解サレテナイト云フ風ニ存ズル次第デゴザイマス、我々ノ目途ト致シマス所ハ全ク、詰リ地方ノ教育界ニ、教育的活動ノ主ナル部分ヲ委ネル、中央ノ文部省ニ於キマシテハ、出來ルダケ大幅ニ教育ノ實質ニ關スル權限ヲ縮小致シマシテサウシテ地方ニ委ネル、文部省ハ單ナル教育界ノ連絡、世話役、マア併シ、教科書ノ編纂トカ云フヤウナ、紙ノ不足ノ際、今日ハ已マ得ナイ次第デゴザイマス、又或意味ノ民主主義的ノ教育原理ヲ徹底サセル意味ニ於テハ已ムヲ得ナイモノト存ズルノデアリマスガ、サウ云フ方面ヲヤリマシテ、ア

トハ地方ノ實際ノ教育家ニ委セル、ソレニ付テハ地方ノ一般行政ニ屬シテ居ツタ所ノ、詰リ地方ノ官僚ニ屬シテ居ツタ權限ノ一部分モ、其ノ地方ノ教育界ニ委ネルト云フヤウナ構想ヲ以テ研究致シテ居ル次第デゴザイマスガ、マダ成案ヲ得テ譯デハゴザイマセヌカラ、此處デ現在ノ狀態ヲ申上ゲル譯ニハ參ラナイ次第デアリマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ、先程御話ニナリマシタ教育ノ地方分權ト云フ精神ハ、我々ノ考ヘテ居ル精神デモアルノデゴザイマス、ソレカラ第二點デゴザイマスガ、今後ノ政治教育ヲドウシタラ宜イカト云フ問題デゴザイマスガ、先程御話ガアリマシタヤウニ、詰リ各箇ノ政黨政派ヲ超越スル所ノ共通ノ再教育ヲ通ジ世界觀ニ立脚シテラナレバナラヌデヤナイカ、是ハ全クサウ云フ考デ以テラナレバナラヌト思フノデゴザイマス、詰リ憲法ノ改正案ノ前文ニ謳ハレテ居リマスヤウナ、云フヤウナ精神、又ソレ以外ニ補ハナレバナラナイ點モ多アルト思フノデゴザイマスガ、詰リ政治的ノ色々カ立場ノ最大公約數的ノモノガアルト思フノデゴザイマス、ソレヲ詰リ今後學校教育ナリ或ハ社會教育ノ方面ニ於テ徹底シナケレバナラナイト云フ風ニ存ジテ居リマス、其ノ方法ハ、或ハ教科書ヲ通ジ、或ハ先生ノ再教育ヲ通ジ、或ハ大學ノ專門學校ノ教授ノ方々ニ御協力ヲ願ツテラナレバナラナイコトモゴザイマセウシ、色々「プラン」ヲ文部省ト致シ

マシテハ立テテ居ル次第デゴザイマス、ソレカラ第三ノ點ノ、私自身ガ數箇月前ニ天皇制ノ辯明ニ付キマシテ、小サナ短イ文章ヲ新聞ニ載セマシタ、ソレヲ書イタ氣持ト、現在憲法改正案ガ現内閣ニ依ツテ上程セラレタ其ノ閣僚ノ一員トシテ持ツテ居ル感想如何ト云フ御質問デゴザイマス、私ハ其ノ文章ヲ書キマシタ時今日ト、天皇制ト云フモノニ付テノ、持ツテ居リマス所ノ考ハ全ク變ラナイノデゴザイマス、私ハ其ノ文章ヲ書キマシタ時持ツテ居ツタ考ハ、日本ガ詰リ共和國、大統領ヲ頭トスル所ノ共和國ニナツテハナラナイ、サウデナイナラバ日本ハ「ラテンアメリカ」諸國ノヤウニ「アナーキー」ニナツテシマフ、革命トソレカラ獨裁制ト云フモノガ交替ニ日本ヲ見舞ツテ來ルダラウ、日本ガ秩序ヲ維持スルノハ、天皇ヲ中心トシテ統合サレテ居ル以外ニハナインダト云フ氣持カラデアリマス、從ツテ天皇ノ御權限ノ範圍ノ廣狹如何、或ハ御地位ニ付キマシテノ法律上ノ學者ノ加ヘル所ノ解釋如何ト云フヤウナコトニハ關係ナイノデアリマシテ、天皇ハ御存在ニ自身、天皇ノ地位ニアラレルコト自身ガ、我ガ國民ノ爲ニ必要ナノデアリマス、詰リ天皇ハ我ガ國ノ秩序ノ象徵ト申上ゲテモ宜イト思フノデアリマス、其ノ天皇ハ憲法改正案ニ於キマシテ天皇タル地位ニ御出デニナルノデアリマスカラ、從ツテ私自身心境ニ於テ何等變化ハア

リマセヌ、確信ニ於テモ何等變リハナイコトヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス(拍手)
○議長(公爵徳川家正君) 休憩ヲ致シマス、午後ハ一時四十五分ヨリ開會致シマス
午後零時四十九分休憩
午後一時五十二分開議
○議長(公爵徳川家正君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス、休憩中内閣總理大臣ヨリ、九月二十七日迄三千日間帝國議會ノ會期ヲ延長ヲ命ゼラル、旨ノ詔書ガ傳達セラレマシタ
○議長(公爵徳川家正君) 南原君
〔南原繁君登壇〕
○南原繁君 先程私ノ質疑ニ對シマジテ、厚生大臣、農林大臣、文部大臣カラソレレ、御答辯ガアリマシタ、ソレニ依リマシテ私ノ了解致シタ點モゴザイマスルシ、尙御尋ネ致シタイコトモゴザイマスケレドモ、是ハ又他ノ適當ナ機會ニ讓リタイト存ジマス、ソレカラ幣原國務大臣ニ對シテ御尋ネ申上ゲタコトニ付テモ御説明ヲ戴キマシタ、率直ニ申上ゲマシテ、私ハ之ニ對シテ満足ヲ致シマセヌ、是ハ國務大臣ハ現在ノ憲法ノ運用宜シキヲ得レバ必ズシモ改正ノ必要ガナイト云フ御認識カラ抑、出發セラレタト云フコトデアリマシテ、其ノ御認識自身ヲ私ハ初メカラ問題ニシテ居ルノデアリマシテ、サウ

云フ面ガアリマスルト同時ニ、如何ニアノ時代ニ良キ憲法デアツタトハ申セ、憲法自身ニ又遺憾ナガラ根本ノ問題ガ一面ニアルノデアリマス、サウ云フ御認識ヲ以テ、此ノ國家轉換ノ大時代ニ政治家トシテ初メカラ此ノ問題ニ臨マルルト云フコトガ私ハ無理デアツタト御尋ネシタノデアリマシテ、ソレニ其ノ後松本國務相ダケニ御委ネナツテ、其ノ一試案トシテノ憲法改正案ヲ殆ド最後迄御使ニナツテ、サウ云フ政府御自身ノ御作ニナツタ調査委員會、ソレト最後ノ段階ニ於ケルアノ結末ト云フモノトハドウ云フ關係ニアツタカト云フ風ナコトニ付テ御尋ネシタノデアリマスケレドモ、私ハ此ノ問題ニ付テ十分了承ハ致シマセヌケレドモ、是レ以上御尋ネ申上ゲルコトハ最早止メマス、唯吉田總理大臣ニ對シテ御尋ネ致シタイノデアリマスケレドモ、其ノ爲ニ御出席ヲ要求シテ置キマシタガ、萬已ムヲ得ナイ御理由デ出テ居ラレマセヌト云フコトデアリマス、是ハドウカ後デ速記録ヲ御覽戴キマシテ、何カノ機會ニ御答ヲ願ヒタイト思フノデス、ソレハ一ツハ今申上ゲマシタヤウナ次第デ、最後ニ三月六日政府發表ノ通リノ結末ニナリマシタ、其ノコトト「ボツダム」宣言ニ規定セラレテアリマスル日本ノ自主的ナ態度ニ依ツテ、少クトモ最高形態ハ決メテ宜シイト云フコトハ、純粹ニ客觀的ニ見マシテドウ云フソコニ解釋ガ執ラレルノカ、其ノ

コトヲ御聴キシタノデアリマシテ、此ノ重要ナル問題ガ御答ヘ洩レデアリマシタカラ、是ハ大事ナ問題ト存ジマスノデ、御尋ネ申シテ置キマス、モウ一ツ大事ナ問題ト致シマシテハ、新憲法ノ安定性ノコトヲ御尋ネ致シタ積リデアリマス、是ハ事實我々ガ耳ニスル限リニ於キマシテハ、先程申上ゲタヤウナ意味ノ不幸ニシテ臆測ガ、或ハ印象ガアルノデアリマス、之ニ我々ハ耳ト眼ヲ蔽フコトハ出来マセヌ、私ハ新憲法ヲシテ眞ニ日本ノモノタラシメルガ故ニ、此ノ事實ヲ極メテ重大ニ考ヘルノデアリマス、今日政府ガドウ云フ風ニ御認識ニナツテ、之ニ對スル對策ヲドウ御講ニナツテ居ルカ、是ハ政府トシテハ何ヨリモ既ニ爲シテ居ルベキ、又今後モ計畫ヲ持ツテ爲サナケレバナラヌコトデアルト思ヒマス、サウデナケレバ、新憲法安定性ノ上ニ於テ重大ナル危懼ガアルノデアリマス、此ノコトヲ政府ハドウ云フ風ニ御考ニナツテ居ラレルカ、對策ヲセラレルカ、篤ト御考ヘノ上、御答辯ヲ願ツテ置キタイト存ジマス、一ツ先程承ツテ居リマシテ、伺ヒタイ重要ナ問題ト思ヒマスノハ、金森國務相ノ御答辯ニ付テデアリマス、日本ノ主權或ハ國體ノ問題ニ付キマシテハ、是レ以上才互ニ質議致シマシテモ、是ハ無用デアリマス、失禮ナガラ私共ガ此ノ問題ニ付テ衆議院並ニ貴族院ニ於テ是迄關ハサレマシタ経過ヲ見テ居リマシテ、今ヤ問題ノ所在

ハ極メテ明瞭デアリマス、即チ此ノ問題ニ關シテハ金森國務相ガ主トナリ、先程來御説明ノアリマシタヤウナ解釋ヲシテ居ラレルノデアリマス、殊ニ著シイノハ國民主權、主權在國民ト申シテモ、其ノ國民ノ中ニハ天皇ヲ含ンデ居ル、ソレ故ニ從來ノ日本ノ根本ノナ性格、或ハ或意味ニ於テ國體トハ變リハナイノダト、此ノ御説明ハ金森國務相ノ御意見トシテ繰返シ拜聴致シマタ、ソレハ獨リ政府トシテハ同國務相ケデハナク、恐ラク政府全體ノ御意見ト承知シテ居ルノデアリマス、ケレドモ、問題ハ、私ノ御尋ネシタイノハ、ソレハ政府ノ意見、少クトモ之ニ協賛ヲ與ヘマスル議會ノ意見デアリマス、ケレドモ、今後はハ應ニ新憲法トナツテ確定シマシテ國內ニモ國外ニモ是ガ應ニ公布サレタ場合ニ於キマシテ、其ノ解釋ガ何處迄維持セラレルカ、政府ハソレニ對シテドウ云フ態度ヲ御執ニナルカ、明治憲法ニ付キマシテハ、伊藤公ノ憲法義解ナルモノガアリマス、政府デソレニ似タ有權ノ解釋書ヲ作リマシテモ、ソレガ如何程ノ權威ヲ持チマスカ、殊ニ學問ト言論ノ自由ノ新シイ時代ニ於キマシテハ、政府ガ一定ノ決メタ新憲法ニ於テハ、斯クノ如ク國體ハ解スベキモノダ、或ハ主權概念ハ斯クノ如クスベキダト御解シナツテ、ソレヲ宣傳サレマシテモ、其ノ通りソレガ擴ガリ、ソレガ受入レラレルトハ決シテ限ラナイノデアリマス、眞理ガ

最後ノ勝利ヲ得ルノデアリマス、私ハ大學ニ關係スル一人トシテ申上ゲマス、少クトモ是ガ世界ニ普遍的ナル國民主權乃至人民主權ト違ツテ、我が國特有ノ今迄ノ考ヘ方ト變ツテ居ナイ、君主モ含メテノ國民主權ダト云フコトヲ仰シヤツテモ、其ノ議論ハ今ノ教養ノアル者ニハ通りマセヌ、恐ラクハ憲法ヲ擔當シテ居ル教官、行政法、政治學、法律學ノ初歩ヲ研究シタ者デモ、其ノ議論ヲ受入レラレルトハ、決シテ私ハ請合フコトガ出来ナイノデアリマス、左様ナ次第デアリマシテ、眞理ガ遂ニ擴ガツテ、政府ノ現在御探ニナツテ居ル解釋ト違ツタモノガ、ソレガ普及シテ、ソレガ勝利ヲ得ルト云フコトニナツタ場合ニ於テドウナルカ、即チ私ノ御尋ネシタイノハ、其ノ爲ニ政府ハドウ云フ方策ヲ御探ニナルカ、サウ云フ場合ヲ豫想シマシテ……、從來ト違ツテ言論ノ制限ヲスルコトハ出来マセヌ、憲法學說ヲ一定ノ枠ニ當嵌メルコトモ出来マセヌデセウ、此ノ時ニ之ニ對抗シテ、政府ハドウ云フ態度ヲ御執ニナルカ、是ハ眞面目ナ問題トシテ考ヘマス、之ニ依リマシテスツカリ變ヘルノダ、今迄ノ國體觀念モ變ヘルノダ、主權概念モ變ヘルノダト云フコトヲ明カニ仰シヤツテ、國民ニソレヲ覺悟サシテヤルナラ、是ハ別デアリマス、ケレドモ、是ダケノ根本ノナ改革ガ加ツテ居ツテ、而モ尙且變ラナイモノデアルト云フ屬性ヲ仰シヤル爲

ニハ、一體ドウ云フ方法ヲ御執ニナラレルカ、ドウ云フ對策ヲ持ツテ居ラレルカ、之ヲ金森國務相ニ御尋ネシテ置キマス、ソレガ萬一……萬一ト云フヨリモ、私ハ火ヲ賭ルヨリモ明カダト思ツテ居リマス、ソレガ世間ガ之ヲ受入レナイ時ハ、國民ガ之ヲ受入レヌ場合ニハ、我々學者ガ考ヘルヤウニ、是ガ完全ナル世界共通ノ普遍的ノ人民主權ノ問題ニナツテ、之ニ大ナル變革ガアツタト云フコトニナリマシタ場合ニ、此ノ草案作成ニ當ツタ政府ノ命令ヲ賭ケテ此ノ作成ニ當ツタ政府ガドウ云フ責任ヲ御取リニナルカ、是ハ悔イテモ及バヌコトガ起ルカモ存ジマセヌ、ソレハ總理大臣ニ於テ政府ヲ代表セラレテ御答辯ヲ他ノ機會ニ戴キタイト思フノデアリマス、之ヲ以テ私ノ質疑ヲ終リマス

〔國務大臣男爵幣原喜重郎君登壇〕
○國務大臣(男爵幣原喜重郎君) 只今私が御答申上ゲタコトガ、南原博士ニ御不満デアツタヤウデアリマス、是ハ私ノ言ヒ現シ方ガ甚ダ宜シクナカツタノデアリマセウカラ、是ハ致シ方モアリマセヌガ、只今仰セラレタ中ニ一言申上ゲテ置ク必要ガアリマス、ソレハ私ガ初メカラ、此ノ憲法ハ運用宜シキヲ得レバ改正スルノ必要ナイト云フ、其ノ見地カラ出發シテ此ノ問題ニ進ンデ行ツタノデアルト云フヤウナ御話ガアリマシタ、絕對ニサウ云フコトハアリマセヌ、私ハサウ云ツタヤウナ見地ガ……サウ云フ風ナ見方モアルカモ知レヌケレドモ、此ノ際ハ總テ古イ著物ハ投ガ棄テテ、新シイ見地ヨリ出發シナケレバイケナインダ、内外ノ情勢ニ徴シテ見レバ、サウ云ツタヤウナ見地ニ拘泥スベキモノデナイト云ツタヤウニ私ハ説明シタ積リデアリマス、若シサウ云ツタヤウナ見地カラ出發シマスナラバ、何ノ必要ガアツテ調査會ヲ設ケマセウ、松本博士ヲ主任トシタ調査會ヲ設ケマシタノハ、改正スルノ必要ガアルト認メタカラデアリマス、從ツテ改正スルノ必要ナシト認メテ調査ニ著手シタト仰セラレラバ、事實誤リデアリマスカラ、此ノ點ヲ申上ゲテ置キマス

〔國務大臣金森德次郎君登壇〕
○國務大臣(金森德次郎君) 只今南原君ヨリ、私ノ機、申上ゲマシタ點ニ付テ反對ノ御意見ヲ御示ニナリマシタ、多分其ノ重點ハ、私ハ曾テ申上ゲマシタ、天皇ハ國民ノ中ニ在ル、其ノ國民ノ全體ニ主權ガアルト、此ノ點デアラウト思ヒマシタガ、ソレニ付キマシテ、政府ハ左様ニ答辯スル、併シ眞理ハ最後ノ勝利者デアアル、斯ウ云フ風ニ仰シヤツテ、ソレニ對シテ如何ニ對抗スルカト云フ御質問デアリマシタ、私モ亦眞理ハ最後ノ勝利者デアルト云フ風ニ考ヘテ居リマスカラ、之ニ別ニ對抗スル考ハ今持ツテ居リマセヌノデアリマス

○南原繁君 是デ質疑ヲ終リマス

○議長(公爵德川家正君) 牧野英一君

〔牧野英一君登壇〕

○牧野英一君 此ノ憲法修正案ニ對シ、私ハ唯極小サ、狭イ、サウシテ細カイ立場カラ政府ノ御考ヲ伺ヒタイト思ヒマス、私ハ自分ガ專門トシテ年來御奉公ヲ致シマス學問ノ立場カラ、基本的人權ニ關スル部分ニ付テ質疑ヲ提出スル譯デアリマス、併シナガラ憲法ノ構成ハ、其ノ一半ガ國家機關ノ構成及ビ權限デアリマシテ、其ノ他ノ一半ガ國民ノ權利義務ニナル譯デアリマス、サウシテ此ノ兩者ガ互ニ關聯ヲ致シテ居リマスルノデ、憲法ノ一部分タル基本的人權ニ關シテ質疑ヲ申出マサルコトハ、自ラ憲法改正案全體ノ精神ニ互ニ質疑ニナルノデアリマス、即チ私ノ質疑ト致シマスル要點ハ、此ノ修正案ノ中ニ現レテ居ル國家理念ガ果シテドウ云フモノデアアルカト云フ點ニアリデアリマス、私ハ唯此ノ修正案ノ第三章、即チ第十條以下ノ中デモ、其ノ一部分ニ對シテ疑ガ出ルノデアリマスルガ、サウシテ又之ヲ所謂公法上ノ見地カラデナク、民法及ビ刑法ノ立場カラ質疑ヲ提出スルダケノコトデアリマスルケレドモ、併シ其ノ立場カラ伺フノハ、國家理念其ノモノデアリマス、從來ノ憲法ニ於キマシテハ、我ガ現行憲法ヲ初メト致シマシテ、十九世紀ノ諸國ノ憲法ニ於テハ、其ノ國家理念、即チ不干渉主義、放任主義、「レッセフェール」ノ原則ノ結果トシテ、民

法、刑法ニ付テハ關聯スル所ガ先ツナカッタデアリマス、併シナガラ此ノ新シイ憲法ノ修正案ニ依ツテ、我々ガ今構成セムトスル所ノ國家理論ニ於テハ、憲法ハ民法、刑法ト相交渉スル所ガ甚ダ密接ナリデアリマス、從來ノ憲法ハ謂ハバ唯政治ノ法律デアアルニ過ギナイノデアリマスルガ、此ノ憲法修正案ハ更ニ大イニ日常生活ノ法律デアアルコトニナツテ居リマス、從來ノ憲法ニ於テハ所有權不可侵ノ原則、現行憲法ノ二十七條、又罪刑法定主義ノ原則、現行憲法ノ二十三條、此ノ二ツノ簡單ナ規定ガアルニ止ルノデアリマスルケレドモ、今憲法ヲ新タニセネバナラヌト云フコトニナツテ見マスルト云フト、此ノ二ツノ從來ノ規定、而モ此ノ從來ノ規定ト云フノハ、所謂立法事項ヲ規定シタモノデアリマシテ、法律ヲ以テ民法及ビ刑法ノ内容ヲ如何ヤウニトモ規定スルコトノ出來ルモノデアリマスルカラ、憲法ソレ自體ハ謂ハバ民法ニ付テ、刑法ニ付テ、直接ニ何事ヲモ規定シテ居ラヌト云フテ宜イ位ノモノデアリマス、併シナガラ此ノ新シイ憲法修正案ニ於テハ、最早此ノ我々ノ基本的人權ノコトヲ立法事項トシテ法律ニ讓ツテ居ルノデアリマセヌ、憲法其ノモノガ此ノ日常生活ノ原則ヲ規定シテ、之ヲ以テ將來ノ立法ヲ羈束シテ居ル譯デアリマス、サウ云フ譯デアリマスルカラ、此ノ新シク成立スベキ憲法ハ公法バカリデナイ、私法ノ要素ヲモ大

イニ含ンデ居ルト云フコトヲ考ヘテ戴キ、私法トシテノ憲法ノ意味及ビ解釋ト云フコトガ、是カラ我々ノ大キナ問題ニナルモノト云ハネバナリマセヌ、サウシテ若シ立法權ガ將來ノ民法、將來ノ刑法ニ於テ、此ノ新シイ憲法ノ精神ニ適合シナイ規定ヲ設ケルナラバ、其ノ時ニ於テ最高裁判所ハソレヲ憲法違反ナリト宣言セネバナラヌコトニナツテ居ル譯デアリマス、是ガ此ノ新シイ憲法ノ特色デアリマス、私共ノ考デハ從來ノ憲法ハ公法學者ノ取扱フモノトサレタノデアリマスルガ、無論依然トシテ憲法ハ公法學者ノモノデアリマス、併シナガラ同時ニ我々民法、刑法ノ學問ニ從事シテ居ル者モ、此ノ憲法ニ付テハ大イニ發言スル權利ヲ持ツテ居ル、斯ウ云フ風ニ私ハ考ヘマス、ソコニ新シイ國家理念ガ盛ラレテ居ルモノト考ヘタイノデアリマシテ、斯様ニ憲法ヲ以テ公法デアアルト同時ニ、又私法デアアルト、斯ウ云フ私ノ見解ガ、果シテ政府ノ御承認ニナル所デゴザリマセウカ、ソレヲ第一ニ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス、ソレガ質疑ノ第一點、此ノヤウナ考ヲ若シ御容レ下サルコトガ出來ルモノデアアルト致シマスルナラバ、其ノ立場カラシテ憲法ノ此ノ修正案ノ第三章ヲ讀直シテ見タイ、斯ウ思フノデアリマス、サウ云フ積リデ繰返シテ此ノ規定ヲ見マシタガ、ドウモ此ノ規定ノ形式ガ從來ノ憲法其ノ儘ノ甚ダ傳統ナリヲ出デナイモノニナ

ツテ居ルヤウニ思ハレマス、抑々基本的人權ト云フ考ヘ方ハ「アメリカ」諸國ノ權利章典カラ始ツテ、「フランス」ノ人權宣言ニ入リ、斯ウシテ十九世紀ノ諸國ノ憲法ニ擴ガツタモノデアリマス、ソレハ所謂十九世紀式ノ法治國思想ニ屬スルモノデアリマシテ、國家ハ國民ノ一定ノ權利自由ニ對シ、之ニ干渉シナイト云フ消極的ナ義務ヲ持ツテ居ルト云フ趣旨ノモノデアリマス、是ハ十九世紀ノ個人主義、自由主義トシテ成立シタモノデアリ、之ニ依ツテ固ヨリ一方ニハ自由競争ノ原則ガ確カメラレ、他方ニ於テハ國家ガ無暗ニ個人ノ生活ニ干渉シナイト云フ放任主義ガ樹立セラレマシタノデ、所謂十九世紀ノ繁榮ト云フモノガ出來上ツタ譯デアリマス、併シナガラ此ノ十九世紀ノ繁榮ト云フモノハ、其ノ結果トシテ社會問題ト云フモノヲ惹起スルコトニナリマシタ、此ノ社會問題ヲ適當ニ解決スル爲メ國家ハ新タニ自己ノ義務ヲ感じナケレバナラヌコトニナリマシタ、斯様ナ立場カラ考ヘマス、今日ノ國家ハ十九世紀ノ國家カラ更ニ發展シテ、二十世紀ノ法治國ニナラネバナリマセヌ、此ノ二十世紀ノ法治國ト云フモノヲ我々ハ文化國ト名付ケテ居リマス、文化國ト云フ考ヘ方ハ特ニ今日ノ特別ナ國際情勢ノ爲メ、我々ガ已ムヲ得ズ引込マレタ考ヘ方デハナイノデアリマシテ、實ニ十九世紀ノ終リカラト申シマセウカ、

二十世紀ノ初メカラト申シマセウカ、就中第一次ノ世界戦争後カラ著シク世界ヲ通ジテノ最近ノ普遍的ナ國家理念ニナツテ居ルノデアリマス、斯様ナ立場カラ考ヘテ見マスルト云フト、憲法修正案ノ第三章ノ規定ハ全體トシテ眺メタ時ニ、應之ヲ虚心平氣ニ讀ンダ時ニ、ソレハ單ニ國民ノ人權ヲ尊重シ、國家ノ不干渉ノ消極的ナ義務ヲ規定シタニ過ギナイ、即チ十九世紀ノ憲法ノ形式ヲ出デナイノデアアルト云フ印象ヲ受ケルノデアリマス、此ノコトハ現ニ此ノ政府原案デ申シマスレバ、第十一條ノ人權ハ國民各自ガ其ノ不斷ノ努力ニ依ツテ自ラ擴充シナケレバナラヌモノデアアル、ト斯ウ言ツテ居ルノデアリマシテ、國家ガ國民ノ權利、國民ノ自由ノ内容ヲ擴充シテヤルト云フコトニ付テノ積極的ナ義務ニ付テハ必ズシモ明カニナツテ居ナイノデアリマス、ソレハ從來ノ所謂「レッセフェール」ノ原則デアリマス、併シ二十世紀ノ今日ニ於テハ、文化國トシテ國民各自ガソレハ十分ニ努力ヲ重ネネバナラヌト云フコトハ當然ナコトデアリマスガ、併シナガラソレニ加ヘテ國家ノ方面ニ於ケル文化的ノ工作、即チ積極的ニ國家ガ總テノモノヲ擴充シ、總テノモノヲ促進スルト云フコトニ付テノ義務ヲ重ク考ヘテ行ク譯ニナルノデアリマス、私ハ此ノ憲法修正案ヲ通讀致シマシテ、是ガ必ズシモ放任主義ニ終始シテ居ルモノトハ思ヒマセヌ、併シナガラ全體ノ形式ト

シテ總テ「アメリカ」ノ權利章典ヲ出
ヅルコト幾何ゾヤ、「フランス」ノ人權
宣言ヲ出ヅルコト幾何ゾヤ、斯様ニ考
ヘザルヲ得マセヌ、又斯様ニ考ヘルコ
トハ、昨日來ノ方々ノ御説ノ中ニモ見
エテ居リマスシ、又現ニ世ノ中ニ公ニ
サレテ居ル色々ノ人ノ批評ニモ見エテ
居ル所デアリマス、固ヨリ我が國ハマ
ダ所謂封建制度ノ殘リ滓ヲ免カレナイ
モノガ澤山アルノデ、斯様ニシテ今世
界ノ輿論カラ深刻ナ批評ヲ受ケネバナ
ラヌコトニナリマシタノデ、此ノ憲法
改正案ニ於テモ、基本的人權ニ關スル
規定ガ、其ノヤウナ封建性ヲ振拾テヤ
ウト云フ所ニ大イニ眼目ヲ置イテ居ル
ト云フコトハ、成程程十分理解ヲ持ツ
テ考ヘネバナラヌノデゴザイマセウ、
併シナガラソレダケデハ十九世紀ノ國
家ニナルダケト云フコトデアリマス、
二十世紀ニ於ケル世界ノ國家理念ナル
モノガドウ云フモノデアアルカト云フコ
トヲ考ヘ、世界の趨勢ニ副ウテ、列
國ニ對シ其ノ「フロント」ヲ一様ニシヨ
ウト云フ立場カラハ、甚ダ満足ノ出來
ナイモノデアアルト考ヘタイノデアリマ
ス、政府ハ或ハ是デ十分我々ノ所謂文
化國家ノ理想ヲ明カニシタモノデアアル
ト斯ウ仰セラレカモ知レマセヌ、サ
ウ云フコトニナリマスレバ、固ヨリ見
解ノ相違デ致シ方ガナイコトニモナリ
マセウガ、併シ各位ニ於テモ能ク此ノ
憲法ノ改正案ヲ通覽シテ戴キタイ、全
體トシテ此ノ心持ガ甚ダ十九世紀式ノ

モノヲ免カレナイト思フノデアリマ
ス、政府原案ノ第十一條ハ國民ノ權利
及自由ガ國民自身ノ不斷ノ努力ニ依
ツテ保持セラレネバナラヌト云フコト
ヲ明カニシ、ソレニ引續イテ第十二條
ニ、國民ノ權利ハ立法其ノ他國政ノ上
デ最大ノ尊重ヲ必要トスルシテ居ル
ノデアリマス、此ノ位ナ程度、先ヅ此
ノ第三章ヲ十條カラ讀ミ下シマス此
ノ位ナ程度デアリマス、斯様ナ程度デ
ハ所謂幸福追求ノ權利ニ對スル各自ノ
何ト申シマスカ、自由競争ニ付テ、此
ノ世ノ中ノ自由競争ニ對シ其ノ公正ヲ
維持スルコト云フ、謂ハバ警察ノ任務ヲ
國家ガ持ツテ居ルト云フダケノモノデ
アリマシテ、國家ガ進ンデ國民ノ總テ
ノ者ニ對シ其ノ生存權ノ充實ニ付テ積
極的ナ義務ヲ負フコト云フ意味ガ十分デ
ナイ、私ハ第三章ノ初ノ所、劈頭第一
ニ、國家ノ文化的任務ト云フモノガ明
ラカニセラレテ欲シイト思フノデアリ
マス、若シ私ノ今印象ト致シテ居リマ
スルヤウニ、此ノ改正案ガ其ノ大體ト
シテ、基本的人權ニ對シテハ單ニ消極
的ナ意味ノモノデアアルニ過ギナイト致
シマスルナラバ、ソレハ政治ノ出發點
トシテ、最小限度トシテ成程程ト云フ
ダケノモノデアリマス、將來ニ互リ我
ガ國ノ憲法トシテ國家發展ノ原則、生
生ノ原理ヲ据附ケタモノト云フ譯ニハ
ナリマセヌ、憲法トシテ國民ノ經典ト
ナリ、國民ノ教科書トナルニハ程遠イ
古イ形式ノモノト云ハナケレバナリマ

スマイ、憲法ハ國民生活ノ出發點トシ
テ最小限度ノモノトシテ止ルベキモ
ノデハゴザリマセヌ、國民生活ノ全體
ニ互ル發展ノ基本原則ヲ示サネバナリ
マセヌ、サウシテ民法及刑法ニ關シ
テ、其ノ積極的ナ原理ヲ憲法ノ上ニモ
ツト鮮カニ、鮮明ニ示サレテ欲シイ
ト、斯ウ云フ風ニ私ハ考ヘル次第デア
リマス、斯様ナ所カラ暫ク、民法及刑
法ニ對シテ此ノ憲法ノ適用ガドウ云
フ風ニナルデアアラウカト云フコトヲ
考ヘテミタイモノト思ヒマス、一體此
ノ十九世紀ノ諸國ノ憲法ハ比較法學的
ニ考ヘマシテ、三ツノ原則ヲ基本ト致
シテ居リマス、ソレハ第一ニ人權宣言
ノ第一條ニ見エテ居リマス自由平等
ノ原則デアリマスルシ、第二ニ、人權
宣言ノ第八條ニ見エテ居リマス罪刑
法定主義デアリマスルシ、サウシテ第
三ハ、其ノ第十七條ニ現レテ居ル所
有權不可侵ノ原則デアリマス、
此ノ三種ノ憲法上ノ原則カラ出發致シ
マシテ、十九世紀ノ諸國ノ民法及刑
法ノ各種ノ規定ガ導キ出サレテ居ルノ
デアリマス、併シ今日ニ於テハ此ノ三
ツノ原則ハ批評ヲ免レナイコトニナツ
テ居リマス、固ヨリ此ノ三ツヲ排斥ス
ルト云フノデアアリマセヌ、ソレヲ含
ミナガラ、包含シツ、併シナガラ更
ニソレ以上ニ展開スル所謂「オーダー」
ノ一ツ高イモノニナラネバナラヌ譯デ
アリマス、斯様ニシテ私共ハ新シイ憲
法ノ原則トシテ三ツノモノヲ要求致シ

マス、第一ハ生存權ノ原則デアリマ
ス、第二ハ改善刑、刑ハ犯人ノ改善ヲ
目的トスルコト云フ改善刑ノ原則デア
リ、サウシテ其ノ第三ハ所有權ヲ以
テ、私有財產權デハアルガ、同時ニ公
共性ヲ持ツモノデアリ、ソレハ義務ヲ
包含スルモノデアアルト云フ原則デアリ
マス、固ヨリ今日ノ憲法ノ下ニ於テデ
モ此ノ三ツノ原則ハ既ニ注意スベキ發
達ヲ致シテ居リマス、從ツテ之ヲ以テ
新シイ原則トスル程ノコトデハナイノ
デゴザイマスルケレドモ、兎ニ角ハ
十九世紀ノ百年ヲ經テ、二十世紀ノ初
頭ニ至ツテカラ、漸次形ヲ成スニ至ツ
タ所ノ三種ノ原則デアリマス、此ノ憲
法改正案ニ付テ事ヲ考ヘマシテモ、我
我ガ法律ノ解釋家トシテ解釋上工夫ヲ
凝ラスニ於テハ、固ヨリ此ノ新シイ憲
法カラ三ツノモノヲ導キ出スコトガ出
來マス、ケレドモ、出來ルナラバ折角
ト云フ此ノ憲法ニ於テハ、是等ノ原則
ガモツト率直ニ、モツト簡明ニ、モツ
ト斯ウ總テ誰ニデモ擧メルヤウニ、浮
キ出デルヤウナ鮮カナモノヲ拵ヘテ戴
キタイモノト考ヘルノデアリマス、私
ハ斯様ナ立場カラ、暫ク此ノ憲法ノ改
正案ノ解釋トシテ、四ツノ原則ヲ提
出シテ見マシタ、我々ガ二十世紀ノ憲
法ノ三大原則トシテ居ルモノヲ此ノ改
正案ニ付テ探シテ見ルト云フト、四ツ
ノ形ニナツテ現レテ居ルカト思ヒマ
ス、第一ニ權利ハ濫用サレテハナラヌ

ト云フコトニナツテ居リマス、第二ニ
權利ハ公共ノ福祉ノ爲ニ利用セラレネ
バナラヌト云フコトニナツテ居リマ
ス、第三ハ個人人格ノ尊重デアリ、サ
ウシテ第四ニハ男女兩性ノ平等ト云フ
コトニナツテ居リマス、之ヲ綜合シテ
考ヘマスルコト云フト、民法、刑法ノ範
圍内ニ於テハ、從來ノ自由競争ノ原則
ニ代ヘテ、新シキ信義誠實ノ原則ト云
フコトニナル譯デアリマス、信義誠實
ノ原則ト云フ言葉ハ、是ハ申ス迄モナ
ク「ローマ」法以來ノ法律ノ言葉デアリ
マス、初メハ債權關係ヲ律スル所ノ原
則トシテ設ケラレタモノデアリマスル
ガ、ソレガ債權關係ヲ超エ、民法ヲ超
エ、商法ヲ超エ、今日デハ刑法ニ入り、
ソレヲ超エ行政法ニ入り、ソレヲ超
エ、全法律ニ互ツテ、總テ國家ト國民
トノ關係ニ付テ適用セラルベキ憲法上
ノ原則ニナツテ居ル譯デアリマス、是
ハ一方ニハ比較法的ノモノデアリマス
ルガ、他方ニ於テハ此ノ憲法改正案ニ
於ケル四ツノ原則トシテ、茲ニ規定サ
レテ居ルモノト考ヘルコトガ出來マセ
ウ、斯様ナ立場カラ致シマシテ、民法
上、商法上ノ問題ヲ一ツ二ツ數ヘテ見
タイト思ヒマス、何ト申シマシテモ問
題ノ第一ハ所有權デアリマス、憲法改
正案ハ政府原案ノ二十七條ヲ見マスル
ト云フト、深ク所有權ト云フ言葉ヲ拾
テテ居リマス、固ヨリ現行憲法ノ二十
七條ノ解釋ト致シマシテモ「日本臣民
ハ其ノ所有權ヲ侵サルコトナシ」ト

アル、其ノ所有權ト云フ言葉ハ、單ニ廣ク財產權ト云フ意味ニ解スベキデア
ルト云フ學說ガアルノデアリマスルケ
レドモ、併シ其ノ由來スル所ハ人權宣
言ノ第十七條ニアルノデアリマシテ、
ソレガ所有權ノ絕對性ト云フコトヲ基
本トシテ居ルモノデアルト云フコトハ
疑ヒアリマセヌ、所有權ノ絕對性ト云
フコトガ、中世ノ封建制度ヲ打テ破ツ
テ十九世紀ノ民主主義ヲ生ミ出ス所ノ
第一ノ原則デアツタ譯デアリマス、斯
様ナ次第デ、千八百四年ニ「ナポレオ
ン」ガ「フランス」民法ヲ制定致シマシ
タ時ニ、「疑ハシキハ所有權ニ從フ」ト
云フ原則ヲ豫定シテ居タツト云フコト
ニナツテ居リマス、併シ今憲法改正案
ハ所有權ノ斯様ナ絕對性ヲモウ認メル
コトナク、財產權ヲ一律ニ相對的性質
ノモノトシテ規定スルコトニナツタノ
デアリマス、政府原案ノ二十七條第一
項ニハ私有權ノ不可侵ヲ規定シテ居リ
マスルシ、ソレヲ受ケテ第二項ニ「財
產權の内容は、公共の福祉に適合する
やうに、法律でこれを定める。」斯ウ
アルノガソレデアリマス、サウ
シテソレガ政府原案ノ第十一條
ニ依ツテ統制ヲ受ケル譯ニナリマス
ルノデ、獨リ財產權ノミナラズ、
改正案ノ第十一條ニ依リマスルト云フ
ト、權利一般ニ付テ「國民は、これを
濫用してはならぬのであつて、常に公
共の福祉のためにこれを利用する責任
を負ふ。」ト、斯ウ云フコトニナツテ參

ツタ譯デアリマス、ソコデ此ノ規定ニ
對シテ私ハ第一ノ註文ト致シマシテ、
斯様ニ先ヅ第一ニ財產權ノ不可侵ガ規
定セラレ、次ニ財產權ノ相對性ガ規定
セラレタノハ結構デアリマスルガ、其
ノ財產權ニハ同時ニ義務ガ喰付イテ居
ルモノデアアル、所有權ハ義務ヲ伴フ
云フ言葉ガアリマスルガ、同時ニ其ノ
權利ニハ義務ガ伴フテ居ルモノデア
ルト云フコトヲ、明カニ規定サレテ欲シ
イモノト思フノデアリマス、固ヨリ政
府原案ノ二十七條ニ於キマシテモ、第
二項ニ於テ、財產權ノ内容ガ相對的ナ
モノデアアルバカリデナク、第三項ニ參
リマスルト云フト、公共ノ爲ニ用ヒラ
レルモノデアルト云フコトガ書イテア
リマス、相當ノ賠償ヲ以テ公共ノ爲ニ
用ヒラレルト云フコトガ書イテアリマ
ス、其ノ外ニ「政府原案ノ第十一條ニ
ハ、先程モ申上ゲマシタ通り、「公共
の福祉」ト云フコトガ謳ツテアリマス
ルノデ、ソレデ一應ノ埒ハアイテ居
コトニナツテ居リマスルガ、併シ私
シテハ、私有財產權ハ更ニ廣ク義務ヲ
負擔スルモノデアルト云フコトヲ、モ
ツト率直ニ明カニシテ戴イタラドウ云
フモノデアラウカト思フノデス、例ヘ
バ茲デ一ツ諸君ニ御相談ヲ申上ゲタイ、
農地調整法ト云フモノガ先年出來、改
正サレ、又更ニ一層之ヲ改正シヨウト
云フコトニナツテ居リマスガ、農地調
整法ニ依ル所有權ノ制限ト云フモノ
ハ、現行憲法ノ下ニ於テハ適法ノモノ

デゴザイマセウ、二十七條ノ第二項ニ、
公益上必要ナルコトハ法律ノ定ムル所
ニ依ルトアルノデアリマス、併シナガ
ラ此ノ改正案ノ下ニ農地調整法ヲ處置
セバナラヌト云フコトニナリマスル
ト云フト、或ハ私ハ憲法違反ト云フ宣
言ヲ受ケネバナラヌコトニナリハシナ
イカト、私カニ憂ヘテ居ルノデアリマ
ス、何トナレバ、改正案ノ二十七條ノ
第三項ハ、適當ナル賠償ノ下ニ公共ノ爲
ニ用ヒラレルト云フコトシカ書イテア
リマセヌ、又改正案ノ第十一條ハ、權
利ハ公共ノ福祉ノ爲ニ利用セラレネバ
ナラヌト書イテアルダケデアリマス、
權利ガ公共ノ爲ニ取リ上ゲラレル、ト
言ツテハ言葉ガ少シ荒イデセウ、併シ
ナガラ公共ノ爲ニ著シイ制限ヲ受ケル
ト云フコトニナル場合ニ於テハ、改正
案ノ下デハ、或ハ私ガ誤解ヲ致シテ居
ルノカモ知レマセヌガ、文字ガ少シ足
リマセヌ、尤モ現行憲法ノ下ニ於テハ
「公益ノ爲ニ必要ナル處分」ト云フコト
ニナツテ居リマシテ、「必要」ト云フ非常
ニ嚴格ナ文字ガ使ツテアルニ拘ラズ、
實際土地收用法ヲ見マスルト云フト、
有用ト云フ程度デ、此ノ憲法第二項ガ
動イテ居リマス、是ハ我が國バカリノ
コトデハゴザリマセヌノデ、外國ニ於
テモ憲法上必要ト規定シテアルモノヲ
行政法規ニ於テ、有用ナルコトニ付所
有權ヲ制限シテ居ルト云フコトニナツ
テ居ルノハドウ云フモノカト云フ議論
ガ随分アルノデアリマス、ケレドモ其

ノ點ハ暫ク除外致シマシテモ、兎ニ角
現行憲法ノ下ニ於テハ農地調整法ガ法
律トシテ成立スルト云フコトニ付テ
ハ、先ヅ異論ナキモノト云フコト宜イデ
セウ、併シナガラ改正案ノ下ニ於テ
ハ、公共ノ爲ニ用ヒラレルダケ、土地
ノ所有者ハ公共ノ爲ニ所有權ヲ行使ス
ル、十一條ニ、又公共ノ爲ニ保障ヲ
與ヘテ、サウシテ國家ガ「公共ノ爲
ニ用ひる」、「用ひる」ト云フ字ガ用
ヒテアルノデアリマス、御參考ノ
爲ニ、ト云ツテ申上ゲル迄モナク、改
正案ノ勤勞ノ件ニ關スル規定、第二十
五條ノ邊リデス、此ノ修正案ノ第二十
五條ノ第一項ハ、勤勞ニ付テ修正ヲ致
シマシテ、「勤勞ノ權利を有し、義務
を負ふ」ト云フコトニナツテ居リマ
ス、私ハ後デモ一言又繰返シテ申上ゲ
タイト思ヒマスガ、此ノ勤勞ノ義務ト
云フコトヲ、ドウ云フ意味合デ衆議院
ガ附加ヘタカ、非常ニ重イ重大ナ意味
ガソコニ湧出ルモノト考ヘルノデアリ
マスガ、ソレハ又後ノ御話ト致シマシ
テ、兎ニ角所有權、其ノ他ノ財產權一
般ニ付テモソレガ一定ノ、何ト申シマ
スカ、財產權ヲシイ、公共ノ爲ノ義務
ヲ持タネバナラヌト云フコトヲ、モツ
ト概括的ニ書イテ欲シイモノト思フノ
デアリマス、扱、斯様ニ考ヘマススト云
フト、サウ云フヤウナ考ヘ方ガ民法、
商法ニ互ツテ、重大ナ影響ヲ與ヘルモ
ト考ヘラレルノデアリマス、恐ラク
ハ我が民法、商法ハ全面的ナ改正ヲシ

ナケレバナラヌコトニナルノデアアリ
マスマイカ、固ヨリ民法ハ「ローマ」法
以來發達シタル其ノ技術的規定ニ於
テ、又商法ハ近代ノ商業生活ニ我々ニ
示シタ技術的ナ組織ニ依ツテ、其ノ細
カイ點ニ付テハ其ノ儘デ宜イデセウ、
併シ民法ノ、商法ノ基本的ナ原則トセ
ラレマシタ所有權及ビ契約ノ自由ト云
フモノガ捨テラレルノデアアリマセ
ヌ、ソレヲ含ミナガラ、併シナガラソ
レヲ超エテ、「オーダー」ノ一ツ高イモ
ノ、即チ先ヅ權利濫用ノ原則トシテ出
來上リマセウ、更ニ信義誠實ノ原則ト
云フコトニナリマセウ、權利ノ濫用及
ビ信義誠實ノ原則ト云フコトハ、不幸
ニシテ我が國ノ法律ニハ見エテ居リマ
セヌ、最近ニ大審院ノ判例ガ段々、ソ
レヲ受入レテ、法律ノ運用ヲ進メテ居
リマスルガ、斯ウナツテ見ルト云フ
ト、此ノ改正案、殊ニ其ノ第十一條ノ
規定カラ導イテ、此ノ二ツノ原則ガ民
法、商法ノ劈頭ニモツト明カニセラレ
ル筈デアラウト思ヒマス、實ハ此ノ憲
法第十一條ノ規定ト云フモノハ、失禮
ナガラ私カラ申シマスルト云フト、言
葉ハ生温イ、モウ少シ率直ニ、明白
ニ、例ヘバ例ヲ以テ言ヘバ、「ソゾイ
エト」民法ノ第一條ノ如ク、或ハ「ス
イス」民法第二條ノ如ク、モツト明白
ニ民法ノ劈頭ニ「民法バカリデハア
リマセヌ、憲法ノ上ニ表サレルト云フ
コトヲ希望スルノデアリマスガ、暫ク
憲法ノ改正案ノ第十一條ノ規定ヲ修正

スルトカ修正シナイト云フコトハ先
ヅ委員會ニ讓ルト致シマシテ、民法、
商法ノ全體ニ向ツテ此ノ二ツノ原則ヲ
明カニスルト云フ必要ガアルト考ヘマ
ス、政府ハ果シテ、近々進メラルベキ
民法、商法ノ改正事業ノ劈頭ニ於テ、
此ノ新シイ原則ヲ掲ゲルダケノ御積リ
ガ御アリニナルカ無イカ、既ニ此ノ二
ツノ原則ハ學說ノ上デモ廣ク認メラレ
ルコトニナリ、判例ノ上デモ或程度迄
大審院ノ運用シテ居ル所デハアリマ
スルケレドモ、併シナガラ今日尙其ノ影
ガ薄イト云ツテモ宜イデセウ、殊ニ學
說上若干ノ反對ガアリ、數年前迄ハ若
干ドコロデハアリマセヌ、相當ニ強イ
反對ガアツテ、我々信義誠實ノ原則ト
云フコトヲ考ヘテ居ル者ハ、餘程骨ヲ
折ツテソレト爭ハネバナラヌ狀況デ
アツタノデアリマス、判例ニ於テモ、
其ノ發達ハ大正ノ後期ヨリ始リ、昭和
ノ年代ニ至ツテ大イニ見ルベキモノガ
アルコトニナリマシタケレドモ、尙希
望スベキ所ニハ遠イノデアリマス、政
府ハ此ノ二ツノ原則ガ學說ノ上ニ於テ
爭ヒガアルト云フコトヲ理由トシテ之
ヲ明白ニスルコトヲ躊躇セラレ
ルデアリマセウカ、或ハ又憲法
ガ新タニセラレル今日ニ於テ
ハ、此ノ學說ノ爭ヒト云フモノニ
對シテ、法律自ラガ率直ニ、簡明ニ裁
斷ヲ下シテ、之ヲ民法ノ劈頭ニ規定ス
ルノガ然ルベキト御考ニナルモノデ
ゴザイマセウカ、民法、商法ノ改正ハ

此ノ次ノ議會ノモノデ、後日ノ問題デ
アルナゾト御逃ゲニナツテハ困ル、私
ハ憲法上ノ問題トシテ、今日其ノ點ヲ
政府ガドウ云フ風ニ御考ニナツテ御ア
リニナルカト云フコトヲ明カニツツ伺
ツテ置キタイモノト考ヘルノデアリマ
ス、扱、次ノ問題ニ移リマスルガ、斯
様ナ所有權ノ原則ハ二ツノ方面カラ、
十九世紀百年ノ間、二十世紀ノ約五十
年ニ互ツテ、自ラ著シイ制限ヲ受ケル
コトニナリマシタ、其ノ一ツハ企業、
「エンタープライズ」、企業ノ方面カラ
ノ制限デアリマスルシ、其ノ二ツハ勞
働ノ方面カラノ制限デアリマス、一體
憲法ノ改正案ハ、所有權ガ企業及ビ勞
働ノ二ツノ方面カラ制限セラレテ居ル
ト云フ現象ヲドウ云フ風ニ取扱ツテ居
ルモノト理解シテ然ルベキモノデゴザ
イマセウカ、先ヅ企業ト所有權トノ關
係ニ付テ申シマセウ、是ハ法人、特ニ
商法ニ於ケル會社ノ性質、就中株式會
社：會社ノ性質如何ト云フコトニナ
ル譯デアリマス、從來ハ會社ハ其ノ所
有關係ガ基本ヲ成スモノトシテ考ヘラ
レテ居リマシタノデ、謂ハバ所有者タ
ル株主ガ、株主總會トシテ會社ニ對シ
最高權ヲ持ツテ居ル仕組ニナツテ居リ
マス、今日ニ於テハ會社ノ所有關係
ト、會社ノ經營關係トハ段々ニ區別シ
テ考ヘラレルコトニナリマシタノデ、
既ニ昭和十三年ニ出來マシタ新商法ニ
於テハ、所有關係ト經營關係トノ分離
ノ趣旨ガ著シク現レテ居ルモノト云フ

コトガ出來マセウ、併シナガラ全體ト
シテハ矢張り依然トシテ、株主總會ガ
最高權ヲ持ツモノト云フコトニナツテ
居ル譯デアリマス、併シナガラ一方ニ
於テハ、所有權ノ社會的使命ト云フモ
ノガ、ドウアルベキデアアルカト云フコ
トヲ考ヘ、他方ニ於テハ、會社ノ企業
其ノモノニ對シ、株主ノ外ニ色々ノ利
害關係人ガアルト云フコトヲ考ヘネバ
ナリマセヌ、先ヅ第一ニ其ノ多數ノ使
用人デアリマス、多數ノ使用人ハ株主
朝ニ買ツテタニ賣ルト云フヤウナ株主
ヨリモ、モット、寧ロ一生ヲ會社ニ捧
ゲテ居ル者デアリマス、其ノ次ニ多數
ノ社債權者ト云フ大キナ社會問題ガア
リマス、サウシテ更ニ最後ニハ、其ノ
企業ヲ利用スル所ノ社會一般ト云フモ
ノガアル譯デアリマス、是等ノ總テノ
方面ガ會社其ノモノニ對シテドウ云フ
利害關係ヲ持ツテ居ルカト云フコトヲ
考ヘ合シテ見マスト云フト、産業民主
化ノ原則ガ、茲ニ微妙ニ働イテ來ネバ
ナラヌ譯デアリマセウ、斯様ニシテ
此ノ頃デハ學說上企業ソレ自體ノ原則
ト云フコトガ唱ヘラレテ居ル譯デアリ
マス、企業ソレ自體ノ原則ト云フノハ、
謂ハバ企業ハ一方ニ於テハ株主ノモノ
デアアルガ、使用人ノモノデモアリ、社
債權者ノモノデモアリ、更ニ社會一般
ノモノデモアル、併シナガラ他ノ方面
カラ考ヘテ見ルト、株主ノモノニアラ
ズ、使用人ノモノニアラズ、社債權者
ノモノニアラズ、社會ソレ自體ノモノ

ニモアラズ、企業ソレ自體ト云フコト
ヲ原則トシテ考ヘネバナラヌト云フ學
說デアリマス、斯様ナ學說ノ意味、價
値ト云フモノヲ考ヘテ見マスト云フト、
會社法ノ組織ト云フモノガ、全面的ニ
考ヘ直サレバナラヌト云フコトニナ
ルノデアリマス、憲法改正案
ハ直接ニ企業ト云フモノヲ取扱ツテ居
リマセヌ、併シ政府原案ノ、財產權ニ
關スル規定カラ考ヘマスレバ、ソレガ
一ツノ財產權、企業ハ財產權ノ一ツ
ノ形態デアルトシテ考ヘラレ得ルモ
ノデアリマセウ、併シ會社ト云フ組
織ノ下ニ財產權ガ、今日ノ經濟組織
ニ於テ、企業ト云フ一ツノ形ヲ持ツ
コトニナリマスルコト云フト、一般財產
權トハ離レテ、特別ニ企業ト云フ一種
ノモノニナルモノト考ヘネバナリマ
セヌ、私ハ斯様ナ立場カラ企業ノ
國家的、社會的性質乃至使命ニ關スル規
定ガ憲法ノ上ニ鮮カニセラレルコトヲ
必要ト考ヘテ居ルノデアリマスルガ、
假ニ其ノ點ヲ別ニ致シマシテ、商法一
般、取分ケテ會社ニ對シ商法ノ改正ヲ
政府ハトウ云フ風ニ御考ニナツテ居ル
カト云フコトヲ伺ツテ置キタイ、例ヘ
バ手近ク、企業ノ管理ト經營トガ株主
總會ヲ越エテ、如何ニ廣ク利害關係人
一般、又特ニ國家ノ立場カラ考ヘ直サ
レバナラヌト云フコトハ、十分憲法上
ノ問題トスルニ値スルモノト考ヘマ
ス、企業ハ最早十九世紀ニ理解セラレ
タヤウナ、所謂經濟人、「ホモ・エコノ

ミ・カス」ノ營利的ナ手段トシテノミ
考ヘラルベキモノデハゴザリマセヌ、
從ツテ商法ハ最早單純ナ、技術的ナ法
律トシテ論ジテ去ラルベキ性質ノモノデ
ハアリマセヌ、企業ノ社會的、國家的性
質乃至使命ニ關聯シテ、新シク倫理的
意義ヲ深イモノトシテ、總テノモノガ
取扱ハレバナラヌコトト考ヘマス、
サウシテ此ノ新シイ憲法ニ於テハ、是
非共ソレガ特筆大書サレテ然ルベキト
考ヘネバナリマセヌ、併シ固ヨリ此ノ
點ニ於テモ學說上爭ガアリマス、能ク
政府ノ當局カラ色々ナコトデ伺ヒマス
ルト云フト、學說上爭ノアル所ハサウ
無暗ニ氣短カニ法規ノ上ニ表スコトガ
出來ヌト云フ御話デゴザリマシテ、固
ヨリ其ノ御心持ニ付テハ理解ヲ惜シム
積リデハゴザリマセヌ、併シナガラ今
憲法ガ改正セラレルノデアリマス、如
何ナル精神ニ基イテ憲法ガ新タニセラ
レルカト云フコトヲ考ヘマスルコト云フ
ト、商法ニ於ケル企業ソレ自體ノ原則
ト云フモノハ、獨リ商法改正ノ問題デ
アルニ止ラナイノデアリマス、世ノ中
ニ財團解體ト云フ問題ガアリマス、法
律論トシテ考ヘマスレバ、持株會社整
理委員會ト云フ制度ガ設ケラレテアリ
マスガ、此ノ委員會ノ性質、乃至働キ
ト云フモノガ大イニ問題トセラルベキ
モノデアリマス、ソレト憲法改正案ト
ノ關係ガ果シテドウナルモノデゴザリ
マセウカ、憲法ハ一般財產原則ト共
ニ、併シ一般財產權トハ離レテ、獨立

シテ企業其ノモノノ性質ヲ明カニシ、企業ソレ自體ノ原則ヲ商法ニ適當ニ織込シテ戴キタイト思ヒマス、若シ是モ明文ガナイ場合ニ於テハ、我々ハ解釋家ノ仕事トシテ之ヲ此ノ新憲法カラ引出スコトガ出來ナイトハ申シマセヌ、併シナガラ解釋ノ廻リ遠イ途ヲ通ラナイデ、此ノ時勢ニ於テ、學說ノ爭ニ對シ、政府ハ勇敢ナ裁斷ヲ鈍ヲ揮ハレムコトヲ希望シタイモノト考ヘルノデアリマス、我々ニ勞働ノ方ニ移リマス、所有權ハ一方企業ニ依ツテ制限サレル譯デアリマスルガ、他方ニ於テハ勞働カラ重大ナル制限ヲ受ケル譯デアリマス、憲法改正案ハ之ニ付テ二種ノ規定ヲ設ケテ居リマス、其ノ一ツハ勤勞ノ權利ニ關スル政府原案第二十五條ノ規定デアリマスルシ、其ノ二ハ團結權ニ關スル政府原案第二十六條ノ規定デアリマス、此ノ二ツノ規定ハ、勤勞ヲ民法上ノ雇傭關係ノ問題ニ放任シナイデ、國家ノ特別ナル保護ト干涉トノ下ニ置カムトスルモノデアリマス、是ハ明カニ十九世紀式ノ法治國のナモノヨリ、二十世紀式ノ文化國のナモノニ移ツタモノデアルト云フコトヲ示スモノデアリマスルガ、併シ其ノ用ヒラレテ居ル所ノ言葉ト其ノ規定ノ内容トニ付テハ聊カ疑ガアル次第デゴザイマス、先ツ勤勞ノ權利ト云フ言葉デアリマス、先程厚生大臣ノ説明ヲ伺ヒマスト云フト、是ハ勤勞ヲスル自由ト云フ意味ダ、一ツノ自由權ノ一面デアルト云

フコトデアツタカト心得マス、併シナガラ我々ハ學問上從來勞働權利ト云フ言葉ヲ用ヒテ居リマスガ、此ノ勞働權利ト云フ學問上ノ言葉ト、改正案ノ勤勞ノ權利ト云フ言葉トハ、何カ一ツ連絡ヲ付ケテ考ヘテ戴ク譯ニハ行キマス、マイカ、勞働權利ト云フ我々ノ用語ハ固ヨリ翻譯デアリマスルノデ、言葉トシテ甚ダ熟シテハ居リマセヌケレドモ、ソレガ翻譯トシテ認メラレテ居ル關係上、沿革的ニモ、理論的ニモ「ヨローロッパ」ノ用語ニ於ケル一種ノ意味ヲ持ツテ居ルモノトシテ、學界ニハ認メラレテ居ルモノデアリマス、ソレハ勞働ノ自由自由デアリマセヌ、其ノ自由ノ權利ニ止ラナイデ、勞働ヲ欲スル者ガ勞働ノ機會ヲ國家ニ要求シ、國家ガソレニ對シテ十分ノ責務ヲ負フト云フ關係ヲ意味スル所ノモノデアリマス、ソレデ勞働ノ關係ニ於キマシテハ、國家ハ勞働者ノ自由ナル行動ヲ尊重スルト云フダケノ消極的ナ立場ニ立ツモノデハゴザイマセヌ、勞働ニ從事セムコトヲ欲スル者ニ對シ、國家ハ其ノ希望ヲ尊重シ、ソレニ對シ希望ヲ達成セシメルヤウニ十分ニ活躍セネバナラヌコトニナルノデアリマス、其ノ此ノ勞働ニ對スル最近ノ國家ノ文化的意味ガ成立シテ居ル譯デアリマス、併シ成程先程ノ厚生大臣ノ御説明ノヤウニ、此ノ改正案ニ付テ勤勞ノ權利ト云フ言葉ヲ素直ニ眺メマス時、ソレハ學界デ所謂勞働權利ト稱スルモノヲ想ヒ起スノニハ、少

シ困難ナコトデアラウカトモ考ヘマラス、ケレドモソレハ政府原案第二十五條ノ第二項ニ「勤勞條件ニ關する基準ハ、法律でこれを定める」或ハ政府原案ノ第二十六條ニ參リマス、團體行動ヲ爲スノ權利ヲ保障スルトアリマシテ、此ノ二ツノ規定ガ全體トシテ甚ダ消極的ナ不徹底ナ形ニナツテ居ルカラデアリマス、要スルニ政府原案ノ趣旨ハ第十一條ニ所謂自由及び權利ハ、國民の不斷の努力によつて、これを保持しなければならぬ。此ノ一種ノ考カラ來テ居ル、從ツテ勞働關係ニ付テモ、事業家ト勞働者トノ間ノ駈引、「バーゲン」即チ自由競争ニ付テ、成ルベクソレヲ公正ニ「フェア・プレー」ニ總テテ保ツヤウニ保障スルト云フダケノ意味ノモノデアラウカト察スル、察スルノデハゴザイマセヌ、厚生大臣ハサウ云フ風ニ先程御説明ニナリマシタ、即チ勞働ノ保全ト勞働ノ促進トニ關スル國家ノ積極的任務ト云フモノハ、其處ニハ考ヘラレテ居ナイヤウナ形ニナツテ居ルノデアリマス、固ヨリ自由權トシテノ勤勞權ハ、ソレ自體トシテ既ニ十分尊重ヲサレネバナラヌモノデアリマスルケレドモ、併シ今、我々ハ勞働ト所有權ト適當ニ結合シ配合シテ、産業ノ發展、充實ト云フモノヲ圖ラネバナラヌ立場ニアルノデアリマス、其ノ立場カラ考ヘマスト右ノ二種ノ規定ハ甚ダ微温的ナモノデアルト云フコトニナルモノデアリマス、マイ

カ、憲法ハ新シイ憲法トシテ制定セラレ、以上、勞働ニ對シテ單ニ其ノ自由ヲ保障スルト云フ止マルベキデアハアリマセヌ

〔議長退席、副議長著席〕

進シテ積極的ニ勞働ノ國家的保護ニ關シ、基本トナルベキ原則ヲ明カニセネバナラヌ譯デアリマス、既ニ若干ノ勞働法規ガ成立致シマシタ、又此ノ議會ニモ若干ノモノガ審議中デアリマス、此ノ次ノ議會ニ更ニ新シイ案ナルモノガ提出セラレベキ管ト厚生大臣ガ明言セラレテ居リマス、此ノ點ニ關スル政府ノ熱意ハ十分私共トシテ理解致シマス、併シ憲法其ノモノノ規定トシテハ、斯様ナ法律ノ發展ヲ指導、促進スル所ノ原理ヲ示スモノトシテハ甚ダ物足りナイ感ガアルモノトシナケレバナリマセヌ、尙序ナガラ修正案ノ第二十七條ニ付テ一言致シテ置キタイ、上ニモ一言致シマシタヤウニ、此ノ改正案ノ第二十七條ニハ、「勤勞ノ權利を有し、義務を負ふ。」ト云フコトニナツテ、新タニ義務ヲ負フト云フ言葉ガ附加ヘラレテ居リマス、先程モ申上ゲマシタ通り私ハ是ニハ重大ナル意味ガアルモノト考ヘテ居リマス、此ノ勞働者ノ方ニ於テハ非常ニ大キナ義務ヲ持ツテ居ルト云フコト、單ニ勤勞ヲスル自由ヲ持ツテ居ルバカリデハナイ、勤勞ヲシナケレバナラヌ義務ヲ持ツテ居ルト云フコトニ依ツテ、財産權ト勞働トノ適當ナ結合、按排ト云フコトガ是カラ促

進サレル譯デアリマス、此ノ義務ニ付テノ規定ハ、立法上、行政上濫用セラレテハナリマス、先頃ノ非常時ニ於ケル徵用ノヤウナモノニナツテハナリマス、併シ義務ヲ負フト規定シテアリマシテ、我々ガ現在ノ産業關係ヲ見渡シマシタ時ニ、聊カ想像シテ見タダケデモ此ノ義務ヲ負フト云フ規定ハ、將來ノ立法上、行政上非常ニ大キナ勤勞ヲ持ツモノデアルト考ヘマス、私ハ財産權ニ關スル規定ニ於テ、農地調整法ガ、憲法ガ新タニナツタ曉ニ於テ、最高裁判所ガ如何ナル宣言ヲ受ケネバナラヌカト云フコトヲ考ヘテ見テ下スツテモ宜イノデアリナイカト私カニ思ツテ居ル次第デアリマス、又此ノ勞働ノ義務ノ規定ガ將來ノ産業關係ニ付テ、ドウ云フ風ニ擴張セラレテ行クカト云フコトハ、餘程關心ヲ以テ考ヘテ置カネバナラヌ重大ナ問題デアルト思ヒマス、斯様ニ考ヘテ參リマスルト結局所有權ト云フ問題カラ、更ニ此ノ生存權ト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌコトニナル譯デアリマス、政府原案ニハ生存權ニ付テノ規定ガナイトハ申シマセヌガ、例ニ依ツテ明白デアリマセヌ、併シ修正案ニ於テハ新タニ一種ノモノガ設ケラレルコトニナリマシテ、先程南原君カラソレニ付テノ説明ガアリマシタ、修正案第二十五條ノ第一項デアリマス、結局我々ノ意味スル所ニ於テノ勞働權利ト云フモノヲ擴張シテ考ヘマス

ト云フト、更ニソレガ生存權ト云フ理論一般ニ及バネバナラヌ譯デアリマス、私ハ政府原案ヲ勉強致シテ居リマスル時ニ、此ノ點ニ付テ特ニ政府ニ付テ伺ヒタイト思ツテ居タノデアリマスルガ、既ニ衆議院ノ修正ヲ經テ新シイ規定ガ出來マシタ、其ノ規定ノ文句ニ付テハ、相當ニ私トシテ曰クガアリマス、曰ク健康、曰ク文化的、健康ト文化的ト二ツダケ宜イカ、恐クハ有形無形ニ生活ヲ充實シロト云フ意味ニ違ヒゴザリマセヌガ、用ヒラレテ居ル言葉トシテハ其ノ規定ノ形ニ私トシテハマダノ御考慮ヲ仰ガネバナラヌ餘地ガ多イト思ヒマス、併シナガラ信義誠實ノ原則ガ憲法上ノ問題トシテ國家ト個人トノ關係ニ適用セラレタ時ニ、國家ハ其ノ全力ヲ擧ゲテ生存權ノ保持ニ努メナケレバナラヌト云フコトガ斯様ニ認メラレコトニナリマスル以上ハ、此ノ點ニ付テノ稍、詳シイ質疑ノコトハ此處デハ省キマセウ、唯政府原案ノ第二十三條ニ「法律は、すべての生活部面について、社會の福祉、生活の保障及び公衆衛生の向上及び増進のために立案されなければならない。」ト云フ規定ガ既ニ政府原案ノ中ニアツタト云フコトダケハ私モ忘レテ居ル譯デハナイト云フコトヲ申上ゲテ置タニ止メマセウ、極ク序ノコトデゴザイマスルガ、此處ノ規定ニ今讀上ゲマシタ通り、「法律は、すべての生活部面について、」云々ノヤウニ立案セラレネバ

ナラヌト云フ、「は」ト云フ言葉ガ私ニハ甚ダ氣ニナルノデス、ソレデ配付セラレマシタ英譯ヲ見マスルト云フト、稍、様子ガ違ツテ居リマス、英譯ニ付テ私ガ理解シタ所デハ、生活保障等ノ爲ニ法律ガ立案セラレネバナラヌト云フ、斯ウ云フ意味ニナツテ居ルト心得マス、サウスルト云フト生存權ノ保障ニ對スル憲法改正案ノ趣旨ガ餘程斯ウナダラカニ、穩カニ響イテ來ルヤウニ思ヒマスルガ、兎ニ角修正案デ全然是ガ書直サレタノデアリマスルカラ、此ノ點ヲヤカマシク議論スル必要ハアリマス、私ハ今生活保護法案ト云フモノガ當貴族院ニ於テ審議サレテ居リマスルノデ、政府ノ此ノ點ニ對スルナント言ヒマスカ、一ツノ覺悟、ソレヲ疑フ積リデハアリマセウ、唯憲法上此ノ點ガ明カニサレテ欲シイモノト思フ、ソレガ満足ノ程度デハアリマセウケレドモ、稍、承知出來ル程度ニ於テ衆議院ノ修正ヲ見ルコトニナツタ譯デアリマス、扱、私ハ再ビ民法ニ立返ツテ親族法、相續法ノコトニ付テ諸君ノ御考ヲ一ツ伺ヒ、同時ニ政府ノ所見如何ト質疑ヲ提出シタイト思ヒマス、政府原案ノ第二十二條ガ、御承知ノ通り婚姻ニ付テハ、男女兩性ノ合意ノミニ基クト、英譯ニ依ルト云フト、「オンリー」ト云フ字ガ其處ニ書イテアリマス、サウシテ其ノ言ヲ探シテ見ルト、合意ニ依ル夫婦ノコトハ書イテアリマスルケレドモ、親子ノコトハ一ツモ見エテ居

ラヌ、此ノコトハ昨日來各位ノ既ニ論ゼラレタ處、私ガ新タニ申出ル迄モナイ所デアリマスルケレドモ、ドウモ寂シイ、新シイ憲法ガ夫婦ダケヲ書イテ、而モ我々ノ家ト云フモノヲ除外シタノハドウ云フモノデアリマセウカ、(拍手)今更私ガ之ヲ特ニ議論スルノデモゴザリマセウ、ケレドモ我々ノ家ト云フモノハ、モウ少シ法律學ノ連中ノ用ヒテ居ル言葉デ申シマスレバ、家族協同體ト云フモノハ我々ノ生活ノ現實デアリマス、我々ハ今サウ云フモノヲ新タニ持込マウツテ居リ、現在ノ我々ノ生活ニ於テサウ云フ一ツノ家族協同體ヲ持ツテ居リマスルガ、併シソレハ放ツテ置ケバ今日ノ産業關係ノ結果トシテドウ云フ運命ニ接スルカモ知レナイ狀況ニアルノデス、ソレデ矢張り夫婦ト云フモノヲ法律上ナントカシテ置カネバナラヌト云フコトデアルナラバ、矢張り此ノ家族協同體ト云フコトヲ少クトモソレト同等ニ憲法上明カニシテ置イテ然ルベキコトデハナイカト思フノデアリマス、固ヨリ我ガ民法ニ現ニ規定セラレテ居ル所ノ家及ビ戸主權ノ制度ト云フモノハドウモマズイ、民法ハ明治三十一年カラ實施セラレマシタガ、明治三十四年ニ於テ既ニ大審院ガ戸主權ノ統制ニ關スル一種ノ判例ヲ示シテ居ルノデアリマス、戸主權ト云フモノハ實施日ナラズシテ既ニ破綻ヲ來シテ居ル、

判例ニ於テ斯様ニ戸主權ガ統制ヲ受ケタバカリデハナク、最近ノ非常時法ニ於テハ重大ナ制限ヲ受ケルコトニナリマシタノデ、今現ニ形式上民法ニ於テ規定セラレテ居ル戸主權ノ制度ヲ維持シナケレバナラヌト云フノデアリマセウ、況ンヤ此ノ憲法改正案ノ上カラ考ヘマスルト、色々ナ言葉ニ民主主義ト云フ字ヲ、政治上ノ民主主義、産業上ノ民主主義ト云フ風ニ附加ヘテ、或ハ家族制度ニ於ケル民主主義トデモ申シマセウカ、斯様ナ民主主義ノ結果、從來ノ戸主權ノ制度ト云フモノハ餘程改メナケレバナラヌモノニ違ヒアリマセウ

〔副議長退席議長著席〕
ノミナラズ先年來、大正ノ初メカラ、我ガ國古來ノ淳風美俗ト稱スル一派ノ議論ガアリマシタガ、其ノ議論ノコトハ姑ク別ニ致シマシテ、兎ニ角從來ノ戸主權ハ此ノ際廢止セラル、ニシテモ、我々ノ現實ニ營ンデ居ル家族協同體ノ生活ヲ基本トシテ、此ノ家族協同體ト云フモノヲ法律上適當ニ保護シ、獎勵シ、其ノ發展ヲ促進スルト云フコトハ、矢張り憲法上ノ問題トシテモ重要ナコトデアラウト思ヒマス、一體家族協同體バカリデナク、婚姻關係ニシテモ、是ハ法律ヲ超エタ道德上ノ問題デアリマス、併シ道德上ノ問題ナガラ婚姻關係ニ付テ或規定ノアル方ガ結構デアルヤウニ、矢張り主トシテ道德ノ方面カラ取扱ハレネバナラヌ所ノ家族

○牧野英一君 斯様ヲ譯デ私ハ封建的
色彩ヲ拭ヒ去ツタ所ノ家族協同體ノ原
則ト云フモノガ、原則其ノモノガ、簡
明ナ言葉ヲ以テ先ヅ憲法ニ掲ゲラレ、
其ノ適用ガ新シク修正、改正セラルベ
キ民法ニ若干規定セラレテ然ルベキモ
ノ思ヒマス、例ヘバ今差當リ私ガ考ヘ
テ居リマス所ダケデモ、家族協同體
ニ於テハ、其ノ家ノ氏ヲ稱スルト云フ
コトガ權利デモアルシ、義務デモアル
トシナケレバナリマスマイ、家族協同
體ノ間ニ於ケル扶養義務ト云フモノ
ハ、單ニ一般ノ扶養義務ノヤウナ金錢
給付ノ義務ニ止ラナイデ、矢張り夫婦
ト同様ナ實體的ノ協力義務デアツテ然
ルベキモノト思ヒマス、サウシテ婚姻
ニ對スル戸主ノ同意ト云フヤウナコト
ガ從來問題ニナツテ居リマス、今日デ
ハ最早此ノ憲法改正案ノ適用トシテ
ハ、其ノ同意ハ必要デアリマセヌケレ
ドモ、併シ苟クモ婚姻ヲスル以上ハ、
家族協同體ニ對シテ適當ナ理解ヲ得ル
ノ途ヲ履ムト云フコトダケハ義務トシ
テ然ルベキデゴザリマセウ、其ノ適當
ナ理解ヲ得ナイデモ婚姻ハ出來マスル
ガ、若シ婚姻ヲシタナラバ、家族協同
體ニ對シテ自分ハドウ云フ責任ヲ覺
悟セバナラヌカト云フ位ハ考ヘテ然
ルベキデアリマセウ、住所、居所ト云
フヤウナ問題デモ同ジヤウニ考ヘルコ
トガ出來マス、サウ云フ所カラ問題
ハ、家族協同體ニ於ケル協力ノ義務ヲ

超エテ更ニ相續ノ問題ニモ影響ガ及ビ
得ルモノト思ヒマス、相續法ノ上デモ
ウ家督相續ト云フモノハ止メラレルコ
トニナリマセウ、併シナガラ相續ノ制
度ヲ、遺產相續一本建ト致シマシテ
モ、家族協同體ニ於ケル統合責任者ト
然ラザル者トノ間ニ區別ヲ認メルト
云フコトハ然ルベキコトデアリマス
マイカ、又家族協同體ノ一員タル者
ト、既ニ外ヘ出タ者トノ間ニハ、矢張
リ區別ガアツテ然ルベキモノト云フコ
トニハナリマスマイカ、斯様ニシテ民
法上色々適用ヲ考ヘルコトガ出來マ
ス、是ハ技術上相當ニ骨ノ折レルコト
デハアルト思ヒマスルケレドモ、先ヅ
憲法ニ於テ原則ヲ明カニシ、民法ニ於
テソレヲ適用ヲ規定スルト云フコ
トガ然ルベキコトデハナイカト私ハ考
ヘテ居リマス、尙此ノ序ニ更ニ申上ゲ
テ見タイノハ、一體此ノ親族法全體ニ
付テ、モウ少シ倫理的ナ、社會的ナ原
則ヲ叩カニスルコトガドウ云フモノデ
アラウカ、我々ノ家族關係ト云フモノ
ハ、主トシテ道德的ノ關係デアアルニモ
拘ラズ、法律ノ上ニ規定セラレテ居ル
所ノ關係ハ、皆權利ト義務トノ、何ト
申シマスカ、誠ニ情ケナイ潤ヒノナイ
モノニナツテ居ルノデアリマス、併シ
所有權及ビ契約ノ關係ニ於テモ、既ニ
信義誠實ノ原則ト云フモノヲ明カニセ
ネバナラヌト云フコトニナリマスレ
バ、況ンヤ親族關係ニ於テヤ、人事
調停法第一條ハ、人事調停ノ目的ヲ規

定シマシテ、道義ニ基ク温情ヲ以テ事
件ヲ解決スルト云フコトニ致シテ居リ
マスルガ、親族法其ノモノガ正ニサウ
云フ譯ノモノデナケレバナリマセヌ
デ、斯ウ云フコトガ民法ノ上デ出來ナ
ケレバナラヌ、憲法ノ上デ考ヘラレテ
然ルベキデアリマスマイカ、法律ノ
倫理化、「モラリゼーション」・オヴ・
ロート云フコトガ一ツノ大キナ問題ニ
ナツテ居リマス、法律ノ倫理化ト云フ
コトハ、先ヅ親族法カラ始ル譯デアリ
マス、是ハ思想問題デアリマスルガ、
同時ニ法律問題デアリマス、親族法ノ
規定ガ、乾カラビタ河原ノ小石ノ積ミ
重ネノヤウニナツテ居ルト云フコト
ハ、法律ヲ讀ミナガラ誠ニ我々ノ忍ビ
ザル所デアリ、又憲法改正案ノ精神ト
ハ凡ソソグハナナ性質ノモノデハナイ
カト考ヘルノデアリマス、(拍手)斯様
ナ所カラ更ニ進ンデ相續法ト云フコト
ガ問題ニナリマス、此ノ憲法改正案ノ
結果トシテ、相續法ハ非常ニ大キナ影
響ヲ受ケルコトニナリマス、即チ家督
相續ト云フコトガナクナリマス、或ハ
民法ノ改正ニ於テハ總テ均分相續ト云
フヤウナコトニナリマセウガ、斯様ニシテ
所有權ガ零細化スルト云フ社會問題ハ、
既ニ均分相續制ヲ採ツテ居ル諸國ニ於
テ皆問題ニシテ居ル所デアリマス、先ヅ
例ヘバ農村ニ於テ經濟上ドウ云フ打撃
ヲ受ケルデアラウカト云フコトガ考ヘ
ラレル譯デアリマス、此ノ點ニ付テハ
「アメリカ」ニ於テモ亦「ヨーロッパ」ニ

於テモ、既ニ政治家ノ骨ヲ折ツテ居ル
所デ、此ノ民主主義的先進諸國ニ於ケ
ル立法例トシテ參酌スベキモノハ色々
アルノデアリマス、事ヲ單純ナ分割相
續ニ委セテ、例ヘバ土地ガバラノニ
ナル、零細化スル結果、農村トシテノ
能率ヲ擧ゲルコトノ出來ナイヤウニナ
ルト云フコトヲ防グニハドウ云フ風ニ
シタラ宜イデセウカ、所有權ハ義務ヲ
伴フト云フ原則ガ相續法ニ於テハ餘程
大キナ適用ヲ見ナケレバナラヌコトデ
アリマス、是モ後日ノ民法改正ニ關ル
ト云フ問題デハナイ、憲法ノ改正ノ間
題トシテ矢張り私共ハ提出シタイト思
ヒマス、産業民主主義、經濟民主主義
ノ適用トシテ農地調整法ト云フモノガ
既ニ出來上リ、改正セラレ、更ニ改正
セラレムトシツ、アルト云フコトヲ既
ニ一言致シマシタ、斯様ニ農地調整法
ガ實施セラレル結果トシテ、自作農ト
云フモノガ段々發達スルコトハ誠ニ喜
バシイコトデハゴザリマスルガ、併シ
ナガラ自作農ハ發達シタケレドモ、農村
ノ生産力ガ全體トシテ低トシタト云フ
ノデハ、角ヲ矯メムトシテ牛ヲ殺スヤ
ウナコトニナルノデアリマス、此處ニ
大キナ問題ガアリマスルノデ、農地調
整法ヲ越エテ更ニ農村法ト云フモノガ
發達スル譯デアリマス、丁度商法ヲ離
レテ企業法ト云フモノガ發達シツ、
アルヤウニ、今迄ノ民法ヲ離レテ新シ
イ農村法ト云フモノガ考ヘラレツ、ア
ル譯デアリマスルガ、此ノ農村法ニ於

テ相續法ガ又大キナ關係ヲ持ツト云フ
コトニナル譯デアリマス、併シ農村法
ニ止リマセヌノデ、家族協同體其ノモ
ノニハ協力ノ義務ガアルト云フコトニ
ナリマスルト、其ノ協力ノ爲ニ資產ノ
零細化ト云フコトヲ何トカ防グト云フ
コトモ一ツノ問題トシテ考ヘラレテ然
ルベキデゴザリマセウ、從ツテ資本或
ハ財產ガ餘リニ小サク分割セラレルコ
トヲ避ケ、ソレガ資產トシテ適當ナ能
率ヲ發揮スルヤウニナルガ爲ニハ、例
ヘバ有價證券ト云フヤウナモノデゴザ
リマスルナラバ、ソレハソレデ易ク分
割モ出來マセウガ、サウデナイ色々
財產ニハ分割ヲスルコトヲ厭フモノガ
隨分アル譯デアリマス、例ヘバ單純ニ
不動産ノ問題ニ付キマシテモ、ソレヲ
分割スル時ニハ換貨處分ニ附シテ金デ
分割スルト云フコトニナルカモ知レマ
セヌガ、何レニシテモ、均分相續ニ依
ツテ財產ガ零細化サレル他方財產ガ、
所有權ガ零細化サレマシテモ、所有權
ノ社會的作用ト云フモノガ常ニ其ノ效
果ヲ保ツヤウニ考ヘルト云フコトガ一
ツノ大キイ問題デアリマス、差當リ其
ノ問題ヲ法律上技術的ニドウ云フ風ニ
作り出スカト云フコトハマダノ是カ
ラノ問題デアリマス、ソレデ今ノ問題
トシテハ出來ルナラバ或原則ヲ憲法上
掲ゲ得ルコトニナリマス外、多クノ教
育問題ニ委セルト云フコトハ已ムヲ得
ナイコトデゴザリマセウ、ソコデ家族
協同體ノ倫理ト云フモノヲ尊重シテ民

法ノ上デハ如何ニ分割相續、均分相續ニナツテモ皆ガ協力ヲシテ家族協同體ヲ組織スル、維持スル、發展セシメル、ト云フコトヲ教育上明カニスルト云フコトニスルニ付テハ憲法ガ獨リ婚姻ニ付テ規定ヲ爲スニ止リ家族協同體ニ付テ何等ノ規定ヲ設ケテ居ラヌト、其處ニ世ノ中ノ誤解ヲ生ズル虞ガアリマスマイカ、(拍手)先達テ内閣ノ法制調査會ガ發表致シマシタ刑法ノ改正要綱ノ中ニ、「姦通罪ノ規定ハ之ヲ削除スルコト」、「ト云フ一項ガアリマス、サウ云フ積リテ議決シタ譯デハナカッタト私ハ思ツテ居ルノデスガ、結局サウ云フ形デ發表サレマシタ處ガ、若イ人ガ是カラ姦通ハ自由勝手ダト云フコトデゴザイマス、斯ウ云フ質問ヲ致シタ人ガアリマス、私共ノ積リハ姦通罪ニ對スル制裁ハ男女同性平等トシ、之ヲ民法ニ專ラ委ネルコト、斯ウ云フ形デ議決シタ積リデアルノデス、ソレヲ刑法ノ改正要綱デアルカラ、刑法ダケ書ケバ宜イノデアルカラ、ソコデ「姦通罪ノ規定ヲ削除スルコト」斯ウヤッタモノデスカラ、ドウモ世ノ中ノ誤解ヲ招イタコトニナリマスガ、家族問題ニ付キマシテモ憲法上若シ片手落ニナツテ居ルト云フコトガ言ヒ得ラレマスナラバ、此ノ片手落ノ規定ガ矢張り風教ノ上ニ、教育ノ上ニ、遺憾ナル影響ヲ及スコトニナリハシナイカト云フコトヲ考ヘテモ、マンザラ無理ナコトデハナイノデハアリマスマイカ、(拍手)私ハ

家族協同體ノ理念ト云フコトニ付テ法律論者ガ今ノ所デハ之ヲ精密ニ規定スルコトガ出來ヌ、サウ云フ人ガアルノデス、ソレハ一ツ考ヘテ見ナケレバナリマセヌガ、併シ假ニ不幸ニソレヲ規定スルコトガ出來ナイトシタ時ニ、是ハ一ツ教育問題デ、倫理ノ問題デアルト致シマスナラバ、一體此ノ憲法ノ下デドウ云フ風ニ此ノ問題ヲ取扱フベキカ、教育ノ當局トシテドウ云フ一體覺悟ヲ御持ニナツテ居ルカト云フコトヲ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス、姦通罪ノ削除ニ關スルアノ要綱ノ如キハ早速抗議ヲ申込シテ置キマシタ、是ハ刑法ニ關スルコトデゴザイマスカラ、抗議ヲ申込シテ置キマシテ、修正案ヲ出セト云フコトデゴザイマスカラ、若シ許サレルナラバ、先程申シタヤウナ趣旨デ修正案ヲ出シタイト思ヒマスガ、サウ云フ心持デ私ハ家族問題ニ付テ規定ノナイ憲法改正案ニ對シ一抹ノ寂サヲ感ゼザルヲ得ナイ譯デアリマス、(拍手)段々長クナリマシタケレドモ御容赦ヲ願ヒマス、是カラ漸ク刑法ノ方ニ入リマス、(散會)ト呼フ者アリ)段々御迷惑デゴザイマセウ、實ハ民法ト刑法ト一人デアルコトハ無理ナコトデゴザイマスノデ、誰カ片方ニ分擔ヲ願ヒタイト思ヒマシタケレドモ、サウ云フ風ニイカヌノデ私ガ一人デ罷リ出マシタ、是ハ一體二人デアルノデスカラ、明日ニ瓦ツテ更ニ申上ゲルノガ本

當カモ知レマセヌ、(サウ願ヒマス)ト呼フ者アリ、議長ガ御許シ下サレバ私ハ喜ンデ刑法以下ノコトヲ明日勤メマス、如何ナモノデゴザイマセウカ、是ハドウ云フ形式デ……手續議長ニ御願ヒシタラ宜シウゴザイマセウカ
○議長(公爵德川家正君) 御繼續ヲ願ヒマス
○牧野英一君 ソレデハ誠ニ長ク申上ゲテ済ミマセヌデシタ、刑法以上ノコトハ明日更ニ引續キ御願ヒスルコトニ願ヒマス
○議長(公爵德川家正君) 其ノ儘御繼續ヲ願ヒマス
○牧野英一君 失禮致シマシタ、議長ハ此ノ儘繼續ヲシロト云フ仰セデゴザイマスカラ、誠ニ恐レ入リマスケレドモ、モウ少シ申上ゲルコトニ致シマス、(拍手)改正案ハ刑事訴訟法ニ付テハ非常ニ細カイ規定ヲ設ケテ居ルノデゴザイマスルガ、刑法ニ付テハ幾ラモ規定ヲ明カニシテ居リマセヌ、ソレデ先ヅ刑法ノ根本問題トシテノ罪刑法定主義カラ始メマスガ、一體從來ノ十九世紀ニ於テ發達致シマシタ、罪刑法定主義ハ、政府原案ノ二十八條ト三十六條トガ之ヲ規定シテ居リマス、何人も、法律ノ定める手續によらなければ、その生命若しくは自由を奪はれ、又はその他の刑罰を科せられない、トアルノデス、又第三十六條ニハ「何人も、實行の時に適法であつた」行爲については刑事上の責任を問はれない」トアルノ

デス、當リ前ノコトデアリマス、併シナガラス様ナ十九世紀ノ罪刑法定主義カラ二十世紀ノ文化國家ハ更ニ新シイ罪刑法定主義ニ考ヲ進メテ居ルノデアリマス、丁度自由權ニ付テ十九世紀ニハ個人ノ自由ナル行動ニ干渉シナイト云フコトヲ原則ト致シマシタノニ對シ、二十世紀ノ憲法ハ、個人ノ自由ナル活動ヲ實質的ニ充實セシメテヤルト云フコトヲ考ヘルヤウニナリマシタト同ジク、罪刑法定主義亦獨リ法律ニ對シテ人ヲ保護スルコト云フバカリデハナク、人ト云フノハ結局罪人デアリマシテ、惡イコトヲシテモ法律ニ規定ガナケレバ罰シナイノデアリマスカラ、法律ニ對シテ罪人ヲ保護スルコト云フノガ從來ノ罪刑法定主義デアリマスルガ、今度ハ新タニ法律ニ依ツテ犯罪人ヲ保護シナケレバナラヌト云フ考ヘ方ニ變ツテ來タノデアリマス、言ヒ換ヘテ見マスレバ、法律ニ違反シタル者ヲ捉ヘテ來テ、ソレヲ再び社會ノ一員トシテ役立ツヤウニ拵ヘ直ス、陶冶練成スルコト云フコトガ刑罰ノ要點デアルト云フコトニナツテ來タノデアリマス、改善主義ノ刑法論ト申シマスル、ソレヲ稍々皮肉ナ言葉ヲ用ヒテ我々ハ教育刑ト云フコトニ致シテ居リマス、刑罰ハ一種ノ強イ固イ嚴格ナ教育デアルト云フコトニナルノデアリマス、サウシテ犯罪人ヲシテ、犯罪ヲヤツタト云フヤウナ社會ノ層、最後ノ一人ヲモ、社會ニ皆ト一緒ニ進ンデ行ケルヤウナ

人的資源ノ一人ニ作り直シテヤラウト云フノデアリマス、從來ノ考ヘ方ニ於テハ、犯罪人ヲ捉ヘテ來テ之ニ刑ヲ言ヒ渡シタ時ニ、國家ハ仕事ヲ終ツタモノトシテ居ツタノデアリマス、罰シテヤツタ、是デ宜イ、併シナガラ今日ノ考デハ犯罪人ニ對シテ刑ヲ宣告シタ時ニ本當ニ國家ノ仕事ガ始ル、斯ウ云フ風ニ考ヘルコトニナツタノデアリマス、即チ刑罰ハ犯罪人ニ對シテ國家ノ權威ヲ明カニスル所ニ使命ヲ終ルモノデハナクシテ、其ノ犯罪人ヲ再び社會ニ取戻シ、之ヲ善良ナル社會人トシテ、善良ナル市民トシテ、我々ノ國家ニ、我々ノ社會ニ受ケ入レルヤウニスルコトガ其ノ任務デアルト云フコトニナル譯デアリマス、此ノ點ニ關スル憲法改正案ノ規定ハ必ズシモ明白デアリマセヌ、二種ノモノガアリマス、其ノ一ツハ政府原案第三十三條ニ、殘虐ナ刑罰ハ之ヲ禁止スル、斯ウアリマス、是ハ直接ニ意味スル所ハ、刑罰ヲ緩和化シタト云フダケノモノデアリマス、ガ今度ハ其ノ二ト致シマシテ第十六條ニ「何人も」犯罪に因る處罰の場合を除いては、その意に反する苦役に服させられない。斯ウ云フ規定ガアリマス、是ハ刑罰ガ間接ニハ苦役デアルト云フコトヲ示シテ居リマス、刑罰ハ何處迄モ苦役デアリマス、併シナガラ其ノ刑罰ノ殘虐性ト云フモノハ許サレナイ、此ノ殘虐性ヲ禁ズルト云フコトガドウ云フコトニナルカ、此ノ言葉ハ甚ダ消

極的ナ意味ノモノデアリマシテ、形トシテハ十九世紀ノ法治國式ナモノデアリマス、併シ其ノ消極的ナ形ノモノヲ積極的ナモノニ展開スル、引伸スト云フコトガ我々ノ任務ナノデアリマス、ソレヲ引伸シタ時ニ果シテドウ云フ結論ニ到達スルコトデゾイマセウカ、先ヅ考ヘラレマスノハ、社會保全ノ必要ノ程度ニ刑罰ハ止ラネバナラズト云フコトデアリマス、社會必要トスル以上ノ刑罰ヲ加ヘルト云フコトハ、殘虐性ト云フコトニナルノデハゴザリマスマイカ、刑罰ハ固ヨリ我々ノ共同生活ノ規律ヲ正シ、社會ヲ保全スルモノデアリマスルガ、此ノ世ノ中行ハレテ居ル觀念の一種ノ議論、感情的の一種ノ議論ハ嚴罰ト云フコトヲ主張シテ居ルノデアリマス、サウシテ其ノ嚴罰ト云フコトガ一種ノ倫理的ナ意味ノモノデアアル、倫理的責任ノ理論上然ルベシト云フヤウナコトヲ言ツテ居ルノデアリマス、片方ニ於テハ斯様ニ倫理的ナ觀念論ガアルト同時ニ、片方デハ刑罰ハ被害者ニ代ツテ復讐ヲヤルノダ、復讐ヲ整頓シ、度ヲ越スコトノナイヤウニスルノガ刑罰デアアルカラ、其ノ積リデ刑罰ヲ科スベキデアルト云フ議論ガ現ニ行ハレテ居ルノデアリマス、サウ云フソレハ、ノ議論ガ刑罰ヲ社會保全ニ必要ナル程度ニ止メテ居ル中ハ、我々モ異論ハナイノデス、ケレドモ我々ノ裁判ニハ、裁判的「テロリズム」、裁判的「ファッショ」ト云フ

誠ニ不愉快ナ批評ガ或方面カラ與ヘラレテ居ルノデアリマス、サウシテ我々ハソレヲ必ズシモ事實トシテ本當デアルトハ考ヘマセヌケレドモ、此ノ際之ヲ考慮シナケレバナラヌ場合ニ立至ツテ居ル譯デアリマス、社會保全ノ必要ト云フ點カラ考ヘマスルト、尙御承知ノ通り一般豫防論ト云フモノガアリマス、碎イテ申シマスレバ見セシメ主義、見セシメノ爲ニ刑罰ヲ科スルト云フ主義デアリマス、今日デモ公判廷ニ於テ檢察ガ、此ノ被告ハ十分之ヲ後悔シ、悔悟ヲシテ居ルト認メルケレドモ、一般豫防ノ爲ニ云々ノ刑ヲ科セザルベカラズト云フコトヲ公言シテ居ル場合ガ相當ニ多イノデアリマス、又稍、暫ク前ノコトデアリマスルガ、當局ノ大臣ガ一罰百戒ト云フ言葉ヲ聲明サレタコトガアリマス、一罰百戒ト云フ言葉ニ依ツテ當局ノ大臣ガ何ヲ意味セラレタカハ實ハ私共ニハ分リマセス、ケレドモ、斯様ナ聲明ニ對シテハ世ノ中ハ震ヘ上ツタノデアリマス、即チ斯様ナ聲明ニ依ツテ其ノ邊ニ經濟統制違犯者ガ澤山アル、其ノ中ノ一ツヲ拔キ検査デ持ツテ來テ、ソレヲ嚴罰ニ處スルコトニ依ツテ他ノ者ヲ威壓シヨウト、斯ウ云フ風ニ世ノ中ノ人ハ、恐ラクハ誤解デセウ、併シナガラ理解ヲシタ譯デアリマス、斯様ナ一罰百戒ト云フヤウナコトハ、當局ガ檢察ヲ全ウシ、本當ニ罰スベキ者ヲ遺漏ナク罰スルト云フ點ニ於テノ自己ノ粗漏ヲ蔽ヒ隠シ

テ、見付カツタ者ヲ嚴罰ニ處スルコトニ依ツテ、事ヲ解決シヨウトシタモノトシテ世ノ中ガ考ヘタ、サウシテソレヲ司法「ファッショ」ト云フヤウナ名デ呼ブコトニナツタノデアリマス、檢察ト裁判トハ、尙富饒ノ如シ、富饒ハ當レバ宜イケレドモ、檢察ノ方ハ當ツタラ大變ダ、斯ウ云フヤウナコトニナツテ、一罰百戒ノ聲明ハ却テ不幸ナル逆效果ヲ齎シ、社會的不安ヲ招イタ譯デアツタノデアリマス、私共ハ此ノ一般豫防論ニ對シテ、特別豫防論ヲ考ヘテ居リマス、即チ先程ノ改善主義ノ刑罰デアリマシテ、眞ニ重カルベキ者ニハ重ク、サウシテ輕カルベキ者ニハ輕ク、斯ウ云フ方法デ裁判ガドウ云フモノデアアルカト云フコトヲ世ノ中ニ示セバ、自ラ其處ニ一般豫防ノ效果ヲ待テ設ケルコトガ出來ル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマスルノデ、特別豫防ト云フコトハ、一般豫防ト云フコトヲ無視シタ議論デアリマセス、能ク世ノ中ノ人ガ特別豫防論ハ、一般豫防ト云フコトヲ無視シテ居ルト云フコトヲ重要視シマスルガ、併シナガラ重キヲ重シトスルト同時ニ、輕キヲ輕シトスルコトニ依ツテ刑罰ノ殘虐性ト云フコトヲ避ケヨウ、斯ウ云フ趣旨ニナツテ居ルノデアリマス、是ハ何處迄モ犯人ト雖モ、苟モ人間デアアル以上ハ、其ノ個人ノ人格ヲ尊重スルト云フ倫理的ナ人格主義ノ考ヘ方デアリ、ソレガ又此ノ

憲法改正案ニ於ケル個人ノ尊重ト云フコトト併セテ考ヘラレテ然ルベキモノデアラウト思フノデアリマス、刑事政策ト云フコトハ要スルニ此ノ改善主義ノ刑法理論ヲ徹底セシムルコトニナルノデアリマス、サウシテ刑ノ執行豫豫ト云フヤウナ制度ガ段々ニ發達シナケレバナラヌコトニナリマスルシ、ソレニ連レテ今度ハ累犯ニ對スル加重制度ト云フモノガ、段々巧妙ニ然ルベク運用サレネバナラヌコトニナリマス、其ノ間ニ於テ假出獄ト云フモノガ微妙チ働キヨスルノデアリマス、過ツテ言ツテハ惡ウゴザイマスガ、兎ニ角一定ノ刑罰ヲ言ヒ渡シタ時ニ、ソレガ實際ニ上重過ギタ時ニハ假出獄ノ制度デ之ヲ調節スルト云フコトニナルノデアリマス、此ノ我が刑法ノ假出獄ノ制度ハ「ヨーロッパ」諸國ノ刑法ノ制度ニ較ベテ非常ニ寛大ニ出來テ居リマス、「ドイツ」ノ學者ガ我が國ノ刑法ノ其ノ點ニ付テ非難ヲ致シテ居リマスルノデ、私ハ論文ヲ書イテ、ソレヲ「ヨーロッパ」ヲ發表致シマシタ、我々ハ假出獄ノ制度ニ依ツテ、「ヨーロッパ」ヨリモ寛大ナ仕組ヲ持ツテ居ルト云フコトニ付テ後悔ヲシテ居ラス、統計ハ斯クノ如シト云フコトヲ發表シ、其ノ學者ニモソレヲ送ツタノデアリマシタ、サウシテ現ニ昭和六年ニ假釋放審査規程ト云フノガ出來マシタ、又昭和八年ニ行刑累進處遇令ト云フ司法省令ガ出來マシタ、前ノ司法省訓令デアリマス、後

ノハ司法省令、ソレニ伴ウテ今日デハ行刑ノ實際ガ段々ニ發達シテ居ル譯デアリマス、ソコデ此ノ假出獄ニ付テ一ツ申上ゲテ見タイコトガアリマス、昭和六年ノ右ノ規定ガ實施セラレルコトニナリマシテ以來假出獄ノ數ガ非常ニ多クナツタノデアリマス、而モ假出獄ヲシタ結果ガ善イト云フコトニナツタノデアリマス、誠ニ假出獄ハ善政デアリマスルノデ、私ハ之ヲ誇トシテ外國人ニ對シ論文ヲ書イテ見タコトデアリマシタ、併シナガラ驕ツテ考ヘテ見マスト云フト、假出獄ガ斯様ニ多ク、而モソレガ成功シテ居ルト云フコトハ、從來裁判所ノ言渡シタ刑ガ無用ニ所謂殘虐性ヲ持ツテ居ツタノデハナイカト云フコトヲ意味スルコトニナリマスルノデス、尙片方ニ於テハ、我が國デハ累犯統計ト云フモノガ誠ニ面白クナイノデス、累犯ガ非常ニ多イノデス、片方デハ累犯ガ多イト云フコトハ刑ガ本當ニ嚴格ニ出來テ居ラス、社會保全ノ必要ニ應ジテ出來テ居ラス、又其ノ點ニ於テ裁判所ガ少シ緩ンデ居ル、而モ假出獄ガ非常ニ多イト云フコトハ、裁判所ガ不當ニ重カツタト云フコトヲ示スモノデアリマス、ソレデ此ノ際、一ツ刑法ニ於テモ改善主義ノ刑法理論ト云フモノヲ、此ノ各個人ノ人格ヲ尊重スルト云フ刑法改正案ノ原則ニ基イテ何處カデ之ヲ明カニシタイ、刑罰ノ殘虐ナル刑罰ハ之ヲ禁ズト云フ位ノ外ニ何トカ是ハ方法ハナイノデセウカ、

例へば最近ノ例トシテハ「フランス」ノ第四共和國ノ憲法案ニハ教育刑ノ原則ヲ掲ゲテ居リマス、之ヲ何トカ憲法ノ上デ掲ゲルコトガ出来ナイモノデゴザイマセウカ、少クトモ斯様な精神ハ將來ノ刑法ノ改正ノ上ニハ明カニセラレナケレバナラヌ所デアリマス、是ハ斯様ニ申シマスルガ、容易ニ實際家ノ容レル所ニハナツテ居リマセヌ、學說ニ於テモ反對ガアリマス、現ニ立法上此ノ點ニ付テノ改正ヲ當局ニ促シマシタケレドモ、其ノ人々ハ、學說上上色義論ノアルモノハ今俄カニソレヲ立法ニ現スコトガ出来ヌト、斯ウ云フ譯デ今日ニ至ツテ居リマス、併シナガラ今日ハ、此ノ刑法改正案ノ下ニ其ノ學說上ノ爭ヲ國家自ラ直接ニ解決シナケレバナラスコトニナツテ居ルノデアリマスマイカ、我々ハ立法上直接ニソレヲ解決スルコトガ出来マセヌデシタカラ、昭和六年以來擲手ノ方ニ廻ツテ、假出獄ノ制度ヲ促進スルコトニ依ツテ改善刑ノ目的ヲ或程度迄今日全ウスルコトガ出来テ居ルノデアリマス、併シナガラ假出獄ト云フヤウナコトハ例外ノ方法デアリマスルノデ、矢張り裁判所ガ刑罰ヲ行フ時ニ、刑罰ヲ宣告スル時ニ、矢張り此ノ教育刑ノ原則ハ、犯罪人ノ末ニ至ル迄其ノ人格ヲ尊重スルト云フ原則ヲ設ケ仕事ヲシナケレバナラヌ、サウ云フコトガ此ノ際此ノ憲法改正案ニ關聯シテ考ヘテ戴イテ如何ナモノデゴザリマセウカ、私共ハ嚴罰

ガ社會生活ノ規律ヲ嚴格ニ正サネバナラヌモノデアルト云フコトヲ忘レテ居ルノデハゴザリマセヌ、ケレドモソレハ一罰百戒ニ依ツテ全ウセザレルモノデハナク、眞ニ重カクベキ者ニ重ク、輕カルベキ者ニ輕イト云フ人格的ノ刑罰制度ニ依ツテ出来ルモノト考ヘルノデアリマス、私ハ此ノ司法「テロリズム」ト云フヤウナ言葉ガ世ノ中ニ擴マツテ、我々ノ裁判ノ働キガ不幸ナル誤解ヲ招イタニ付テモ、此ノ際法律上事ヲ明カニスルコトガ望マシイコトトセネバナラヌノデアリマス、眞ニソコノコトハ民法上諸國ニ例ノアルコトヲ先程一言致シマシタガ、改善刑ノ原則ニ付テハ「アメリカ」ノ「プリズン・アソシエーション」ノ原則宣言即チ「デクラレイション・オブ・プリズナルス」ト云フモノガアルコトヲ、申上ゲテ置キタイと思ヒマス、是ハ「アメリカ」ノ「バ・ア・ス・ソ・シ・エ・イ・シ・ョ・ン」ト竝ンデ最も有力ナ法律家、社會事業家ノ團體デアリマス、此ノ原則宣言ハ三十七條カラ出来テ居ルモノデアリマスルガ、其ノ第一條ニハ刑罰ハ犯罪ノ故ヲ以テ犯罪人ニ科セラレル苦痛デハアレケレドモ、其ノ犯罪人ノ改善ヲ完ウスベキ特別ナ見地ニ於テ科セラレネバナラヌモノデアルトアリマス、第二條ニハ社會ニ依ル犯罪人ノ處置ハ社會ノ保全ノ爲ノモノデアアル、其ノ處置ハ犯罪ト云フ事實ニ對スルヨリモ犯罪人ニ對シテ向ケラレルモノデアアルカラ、其

ノ目的ハ犯罪人ノ道德的再生、「モラル・レヂエネレイション」デナケレバナラヌ、監獄規律ノ最高ノ目的ハ犯罪人ノ改善デアツテ、報復的苦痛ヲ科スルコトデハナイ、コンナ風ニ出テ居リマス、第四條ニハ、希望ハ恐怖ヨリモ效果ナモノデアアル、「ホープ」ハ「フィア」ヨリモ「モア・ボテン」デアルト書イテ居リマス、サウシテ第十三條ニ至ツテ社會ノ利益ト受刑者ノ利益トハ一致スルモノデアリ、現在ノ所デハ此ノ二ツノモノハ互ヒニ爭ツテ居ルヤウデアアルケレドモ、受刑者ヲ改善スルト云フ立場ニ立ツニ於テハ、兩者ハ利害共同ノ關係ニ立ツモノデアアル、斯ウ規定シテ居リマス、第十五條ニ至ツテ刑ハ道德的ノ力ヲ以テ執行セラレネバナラヌモノデ、有形ノ力ハ成ルベク避ケナケレバナラヌモノデアアル、權力ニ依ツテ、良キ受刑者「プリズナー」ヲ作ルコトハ出来ルガ、良キ市民「シテイズン」ハ道德的訓練ニ依ツテノミ之ヲ見ルコトガ出来ル、サウシテ監獄ノ吏員ニ向ツテ監獄ノ吏員ハ如何ナル犯罪人ト雖モ結局之ヲ改善スルコトガ出来ルモノデアルト云フコトノ「コンヴィクション」ヲ擲ツテハナラヌト、斯ウ規定シテ居ルノデアリマス、斯様ナモノヲ直チニ我々ノ法律ノ中ニ受入レルト云フ譯ニハ行キマセヌケレドモ、併シナガラ斯ウ云フモノガ、今世界ノ趨勢デアリマス、國際刑務協會ト云フモノガアリマシ

テ、諸國デ五年毎ニ入レ替リニ國際會議ヲ開イテ、我ガ國モ常ニ代表者ヲ出スノデアリマスルガ、其ノ會議ノ我々ニ齎シテ居ル決議ハ皆斯様な精神ニ依ツテ出来テ居ルモノデアリ、今更改正憲法ヲ俟ツテ初メテ是ガ明カニナル譯デハアリマセヌガ、此ノ際我々ハ我々ノ學說デ唱ヘテ居ル程度ノ古イ衣ヲ擲ツテ、新シク憲法ノ上ニ綺麗ナモノヲ一ツ拵ヘテ戴キタイト斯ウ思フ次第デアリマス、少クトモ近ク刑法ガ改正セラレマスルニ於テハ民法ノ劈頭ニ新規則ガ明カニセラレルト同ジク、刑法ノ劈頭ニ改善刑ノ原則ト云フモノガ明カニセラレネバナリマス、斯様ナ次第デ、問題ハ更ニ訴訟法ニ移ツテ參リマス、成ルベク是モ手短カニ申上ゲルコトニ致シマセウ（簡單々々）ト呼フ者アリ）誠ニ出来ルダケ簡單ニ申上ゲヨウト思ヒマスガ、事ガ民法、刑法ノ全面ニ互ルノデアリマシテ、是ハサウ簡單ニハ參リマセヌデス、而モ憲法ハ、民法刑法ニ於テ斯クノ如キ新ナナル變革ヲ齎スモノデアルト云フコトノ私ノ考ガ若シ間違ヒデナイト思召シ下サルナラバ、今暫ク御辛抱ヲ願ヒタイ、（拍手）訴訟法ハ今裁判所構成法ト共ニ、改正憲法ト共ニ非常ニ大キナ影響ヲ受ケネバナリマセヌ、今迄ノ訴訟法ト云フモノハ民事訴訟法ノ言葉ヲ以テ申シマスレバ、攻撃ト防禦トノ爭ヒトシテ組立ラレテ居リマス、攻撃ト防禦トニ依ツテ民事訴訟ガ出来テ居

ル、其ノ民事訴訟法ノ理論ト云フモノハ、非常ニ緻密ナモノデ煩瑣ナモノデアリマス、理論的ナ其ノ意味ト云フモノハ、我々ハ專門家トシテ十分ノ之ヲ認メマスケレドモ、今信義誠實ノ原則ト云フコトヲ訴訟法ニ及シマスルト云フト、其ノ適用ノ結果ハ餘程新ラシイモノニナラネバナリマス、マイト思フノデアリマス、サウ云フ所カラ先ヅ第一ニ問題トナリマスルノハ、裁判所構成法ノ問題トシテ、一方ニハ最高裁判所ト云フモノガ設ケラレルノデアリマスガ、他方ニハ恐ラク簡易裁判所ト云フモノガ設ケラレナケレバナリマス、最高裁判所ノコトハ姑ク之ヲ別ニ致シマス、今迄司法的「テロリズム」或ハ裁判的「ファシズム」ノ一ツノ現レハ違警罪即決ト云フコトニナツテ、サウシテ其ノ制度ガ濫用サレル、所謂蠲シト云フヤウナ現象ヲ見テ、如何ニソレガ殘虐性ヲ持ツテ居ルカト云フコトニ付テ今新ラシク問題トサレテ居リマスカラ、年來久シク問題トナツタ違警罪即決例ト云フモノハ今潔ク抛タレネバナリマセヌ、是ハ十分當局ニ於テモ承知サレテ居ルコトと思ヒマス、其ノ違警罪即決即チ警察ガ拘留料ノ裁判ヲ言ヒ渡スニ代ヘテ、今度ハ簡易裁判所ト云フモノガ出来ナケレバナリマセヌガ、此ノ簡易裁判所ト云フモノノ組織ハドウ云フ風ニナリマセウカ、是ハ法律家ダケデ宜イモノカ、殊ニ若イ法律家ダケデ宜イモノカ、或ハ民間カラ

常識ノ豊カナ紳士ヲ裁判官ニナツテ貰フト云フヤウナ途ヲ付ケルト云フ工夫ガドウカト云フヤウナコトガ問題ニナル譯デアリマス、簡易裁判所ハ攻撃ト防禦トノ錯綜ニ依ル所ノ刑事訴訟法、民事訴訟法デアル所デアリマセヌ、何處迄モ健全ナル常識ニ依ツテ裁判ガ進メラレネバナラヌ譯デアリマス、今迄ノ裁判所ハ謂ハバ封建主義ノモノデアリマシタ、之ニ對シテ本當ニ豊カナ潤ヒノアル簡易裁判所ト云フモノガ出來ネバナラヌ譯デアリマス、此ノ簡易裁判所ニ於テハドウ云フ趣旨デ裁判ヲスルカ、ドウ云フ手續、考デ裁判ヲスルカト云フコトガ劈頭第一ニ明カニセラレネバナリマスマイ、此ノ間或席上デ簡易裁判所ノ問題ガ起リマシテ、或司法部ノ係官ガ簡單迅速ニ裁判ヲスルノ趣旨トスルト云フコトヲ言明セラレマシタ時ニ、横ニ若イ辯護士ノ皮肉ナ人ガ居リマシテ、是カラハ手短カニ人ヲ罰スルト云フコトニナルノデスカト、斯ウ云フ風ニ批評シタ人ガアリマス、先程ノ義通罪ノ規定ヲ削除スルト云フヤウナ場合ト同ジコトデ、簡單明瞭ト云フ言葉ニハ無理ハナイノデアリマスガ、常識的ニ簡單明瞭ニト云フ、「常識的」ニト云フ言葉ヲ儉約サレタノガ誤解ノ因デアリマシタ、併シナガラ單純ナボンヤリシタ常識デアリマセヌ、何處迄モ健全ナル常識デアリマセヌ、其ノ健全ナル常識ニ依ツテ、法律ニ依ツテ裁判ヲスルノデアリマスル

ガ、法律ヲ超エテ、公平ニ法律ニ依ツテ刑ヲ言ヒ渡スノデアリマスルガ、何處迄モ犯人ノ改善ヲ目的トシテ、拘留科料ノヤウナ、百圓二百圓ノヤウナ事件デモ之ヲ懇ニ、併シナガラ手短カニ裁判スルト云フコトニナラネバナリマセヌ、斯様ナ原則ハ將來民事訴訟法一般、刑事訴訟法一般ニ及バネバナリマセヌ、併シナガラ法律ノ倫理化ハ家庭カラ始ルト同ジヤウニ、我々ノ裁判ノ何ト申シマスルカ、新ラシイ行キ方ハ簡易裁判所カラ手始めヲスル譯ニナリマス、此ノ簡易裁判所ノ劈頭ニ於テ、民事ニ於テハ公平ニ併シ常識的ニ、刑事ニ於テハ犯人ノ改善更生ヲ目的トシテ、是モ常識的ニ手短カニ罰スル、斯ウ云フヤウナ趣旨ノコトガ此ノ簡易裁判所ノ規定ノ劈頭ニ規定セラレテ欲シイモノト思ヒマスルガ、出來ルナラバサウ云フ趣旨ガ憲法ニ既ニ現レテ居ルト云フ風ニ願ヘタラ非常ニ有難イコトト思ヒマス、憲法改正案ニ於ケル各種ノ刑事訴訟法ノ規定ハ非常ニ煩瑣ナモノデアリマス、是ハ細目ニ付テ議論ヲ致シタイト思ヒマスルケレドモ、此ノ席上デハ適當デアリマスマイ、今司法部ハ法制調査會ニ於テ刑事訴訟法ノ改正ヲ進メテ居ラマスルケレドモ、改正憲法トノ關係上、非常ニ大キナ疑ガアルノデアツテ、現ニ委員會ニ於ケル或決議ノ如キハ、憲法ノ關係ハ之ヲ除外シテ決議ヲスルト云フヤウナ意味合ノコトニナツテ居ルノデアリマ

ス、細カイコトハ失禮ナガラ相當ニ専門ナルコトデアリマスルカラ、委員會ニ於テ然ルベク御審議ガアルベキデアリマセウ、衆議院ノ其ノ點ニ付テハ修正ハ周到デアリマセヌ、是ハドコ迄モ貴族院ニ於テ專門家ガ十分ニ審議ヲ盡サネバナラヌ所デアリマスルガ、其ノ點迄ハ此處デハ、此ノ席上デノ質疑デハ入リマセヌ、斯様ナ所カラ更ニ監獄法ニ迄事ガ及フ譯デアリマス、刑ノ殘虐性ハ之ヲ禁ズルコトニナツテ居ルコトガ、監獄法ノ改正ニドウ云フ影響ヲ及スカ、現在ノ監獄法ト云フモノハ監獄ノ事務規程デアリマス、監獄ノ役人ガドウ云フ風ニ事務ヲ扱フカト云フダケノモノニナツテ居リマスルガ、併シナガラ行刑法ノ中ニ此ノ刑罰執行ノ大理想ヲ盛ルト云フコトハ、既ニ「ヨーロッパ」ノ立法例ガ我々ニ範ヲ示シテ居ル所デアリマス、憲法改正案ノ審議ニ連レテ、是ハドウシテモ當局ニ於テ此ノ際更ニ御考ヲ願ハネバナラヌ所ト信ジマス、ソコデモウ一ツ御願ヒ致シマス、ソレハ裁判所ノ改革ト云フコトニ關聯ヲ致シマシテカラ裁判官ノ養成ト云フコトガ非常ニ大キナ問題ニナリマセウガ、ソレト同時ニ裁判ノ外ニ、今簡易裁判所デハ恐ラクハ法律家デナイ裁判官ガ出來ルヤウニ法制調査會ノ仕事デハ出來テ居リマスルガ、其ノ他ニ調停制度ト云フモノガ段々進マネバナリマスマイ、又陪審法ト云フモノガモウ一遍考ヘ直サレネバナラヌ運

命ニ差迫ツテ居ルノデアリマス、是等ノ素人裁判官ト云フヤウナ者ハ、一體ドウ云フ所カラ常識ノ豊ナサウ云フ人ヲ探シ出シテ來ルコトガ出來マセウカ、是ハ要スルニ左翼ニアラズ、右翼ニアラズト云フ言葉ヲ使ツテハ穩デナイカモ知レマセウガ、中流階級ト云フ所カラ人ヲ探シテ來ナケレバナラヌ譯デアリマス、此ノ中流階級ヲ保全スルト云フコトガ斯様ニシテ問題ニナル譯デアリマス、固ヨリ中流階級ノ保全ト云フコトハ裁判官デケノ問題デハゴザイマセヌ、健全ナル常識ガ此ノ世ノ中ヲ支配スル爲ニハ、中流階級ト云フモノガドウ迄モシツカリシナケレバナリマセヌノデアリマス、今日ノヤウナ社會組織ヲ此ノ儘ニシテ置キマスト云フト、中流階級ハ漸次減ビザルヲ得ナイヤウナコトニナツテ居ルコトハ、尙健全ナル家族制度ガ崩壊シツ、アルノト趣ヲ同ジクスルノデアリマス、斯クノ如クニシテ中流階級ノ保護保全ト云フコトガ憲法上ノ問題ニセラレネバナラヌ管ト思ヒ、既ニ他國ノ憲法ニハ其ノ例ヲ見ルノデアリマスガ此ノ憲法改正案ノ下ニ於テハ、中流階級ニ對スル配意、配慮關心ノ示サレテ居ル何物モナイヤウニ思ヒマスノデ、是ハ如何ナモノデゴザイマセウカ、今度ハ裁判所ニ關聯シテモウ一ツ問題ヲ出シテ置キタイ、ソレハ英米法ト考ヘラレテ居ルヤウナ人身保護律ノ問題デアリマス、非常時ノ數年ノ間、人身ノ自由ト云フモ

ノガ甚ダ危殆ニ差迫ツタコトガアツタノデアリマスルガ、此ノ問題ハ今後モ恐ラク續クコトデアラウト思ヒマス、ソコデ固ヨリ刑事訴訟法ニ於テ十分其ノ點ガ考慮セラル、ノデアリマスルケレドモ、別ニ最高裁判所ノ取扱フ問題トシテノ人身保護ノ問題、英米法ノ所謂「ハベヤス・コーパス・アクト」ノ問題ガ我が國ニ於テモ考ヘラレテ如何ナモノデゴザイマセウカ、英米ニ於テハ自由ノ保護ト云フコトニ付テハ、裁判ニ關係シ、司法ニ關係シテハ第一ニ陪審、第二ニ「ハベヤス・コーパス・アクト」ト、斯ウ云フコトニナツテ居リマスノデ、陪審ヲ英米レ範ヲ取ツテ規定ヲ設ケタ我が國トシテハ、ソレハ此ノ際多少ノ修正ヲ施サネバナラヌニシテモ、陪審ハ英米ノモノデアリマス、人身保護律ノ關係ニ於テモ官憲ノ濫用ノ場合ノ外、或ハ其ノ邊ニ誰ヤラガドウヤラデ軟禁サレテ居ルト云フヤウナ事柄ガ起ツタ時ニ、警察官ノ手デナク、檢事ノ手デナク、裁判所、「イギリス」ニ於テハ「ハイ・コート」ガ之ヲ取扱ツテ居ルガ、「ハイ・コート」、我が國デ言ヘバ是カラ設ケラレル最高裁判所ニ訴ヘルト云フ途ヲ開ク、固ヨリ英米ノ法制ヲ其ノ儘輸入スルト云フコトハ出來マセヌケレドモ、我が國ラシク之ヲ改メルトニ依ツテ、人身保護ノ制度ト云フモノヲ特ニ設ケルト云フコトガ、此ノ際問題ニセラレテ如何デゴザイマセウカ、人身保護ノ

コトハ「イギリス」ヲ言ヘバ、矢張り憲法ノ一條目ト云フコトニナリマセウ、兎ニ角之ガ出來ルナラバ、或形ニ於テ憲法上基礎ガ置カレルコトヲ希望スル次第デゴザイマスルケレドモ、併シ若シ憲法ニ於テソレガ設ケラレナイト云フコトニナリマスルナラバ、憲法ノ精神ヲ汲ンダ所ノ將來ノ法律ノ改革トシテ、其ノ問題モ一ツ當局ニ於テ十分考ヘテ裁キタイト思ヒマス、是ハ憲法草案ノ第三十條及第三十一條、特ニ第三十一條ニ關聯スル非常ニ重大ナ問題デアルト私ハ考ヘテ居リマス、不幸ニモ衆議院ハ此ノ點ニ付テ何等ノ考慮ヲモ拂ツテ居リマセヌ、是デ私ノ質疑ヲ終リマスガ、唯序ニ小サナコトデアリマスガ、此ノ改正案ヲ讀ミナガラ、此ノ用ヒラレタ言葉ト文體トニ付テ聊カ私ノ印象トスル所ヲ附加ヘルコトノ御許ヲ願ヒタイト思ヒマス、此ノ改正案ガ憲法トシテ成立スルノ日ニハ、此ノ憲法ハ國語トシテ標準ノモノニナラネバナラス管デゴザイマセウ、併シ政府ハ此ノ憲法ノ全文、即チ各條ノ規定ガ是デ我が國ノ國語ノ用ヒ方ノ模範的ナモノトシテ、使命ヲ果シ得ルモノト云フコトノ覺悟ガオアリニナルモノト云フテ、失禮ナガラ……御答ヲ蒙ムラナイコトヲ御願ヒ致シタイ、固ヨリ此ノ全文ヲ讀ミマシテ此ノ文章ノ心持トシテ之ヲ論ズルノデアリマスカラ、是デ結構デハナイカ、又衆議院ニ於テ或程度ノ修正ヲ經マシタ、サウ云

フ衆議院ノ或方ノ演說ニハ誠ニ此ノ前文ノ如キハ天下ノ名文デアルト云フヤウニ賞讃ヲシテ贊成サレタ方ガアリマスルガ、私トシテハ不幸ニシテ此ノ前文ヲ讀ミナガラ、少クトモ先ヅ政府草案ヲ讀ンダ時ニ餘リニ好イ心持ニハナラナカツタノデアリマス、内容ニ於テ成ル程好イ心持ニナリ得ナイ理由モアリマセウガ、其ノ文章ガ其ノ滑ラカサ、其ノ潤ヒ、果シテ是デ宜イモノデゴザイマセウカト思フノデアリマス、處ガ翻譯トシテ英文ノモノガ我々ニ配付セラレテ居ルノデアリマスガ、翻譯ノ方ヲ見マスルト云フト、チヨット様子ガ違フ、私ハ英語ヲソナニ巧ニハ致シマセヌケレドモ、一通リハ讀ンデ分ル積リデアリマスガ、英語ノ方デ讀ムト云フト割ニ穩ヤカニ理解ノ出來ル所ガ、失禮ナガラゴチナイヤウナ國語ノ用ヒ方ニナツテ居ルノデハナイカト思ハレルノデアリマス、言ヒ過ギデアリマスナラバ當局トシテドウゾ御宥恕ヲ御願ヒ致シタイノデアリマスガ、ドウゾ一ツモウ少シ國語ノコトニ達者ナ方ガ何トカ、之ヲ中學校ノ教科書ニシ、小學校ノ子供ニ讀マシテモ納得スルヤウニ模範トスルヤウニ、サウシテ我々ガ之ニ從ツテ是カラノ文章ヲ書クヤウナコトニナルヤウニシテ戴ク譯ニハ行キマスマイカ、ソレハ文章全體ノ滑ラカサ、潤ヒト云フヤウナ點ノ問題デアリマスガ、又言葉ノ微細ナ使ヒ方ニ付テモ、何トカ御考慮ヲ仰グコトガ

出來ナイカト思フモノガ相當ニ澤山アルノデアリマス、例ヘバ前文ヲ第一ニ開イテ見マスと云フト、「政府ノ行爲によつて再び戦争の慘禍が發生しないやうに」ト書イタル、發生シナイノハ政府ノ行爲ニ依ルノデセウカ、ドウモサウデナイヤウデスナ、サウスルト云フト是ハ「政府ノ行爲ニ依ツテ再び戦争ノ慘禍が發生スルコトガナイヤウニ」斯ウ云フ風ニ御書キヲ願フ方ガ宜イノデハナイカ、是デハ政府ノ行爲ニ依ツテト云フ、一ツノ「アドヴァーピアル・フレーズ」、是ガ慘禍ト云フ名詞ニ掛ツテ居ルノデ、ドウモ文法トシテハ體ヲナサヌ書キ方デアルト私ハ斯ウ考ヘマス、ソレハ英語ノ方デ見ルトスラリト讀メルヤウナ氣ガ致シマスノデ是ハ誤譯デアルノカ、ウマク譯シタノカ、又第二條ヲ見マス「皇位は、世襲のものであつて、國會の議決した皇室典範の定めるところにより、これを繼承する。」トアリマス、「これを繼承する」ト云フノデアリマスルカラ、

「サブジェクト」ガナケレバ、文章ニハナリマセヌ、「皇位は、世襲のものであつて、國會の議決した、其ノ「繼承」ハ「國會の議決した皇室典範の定めるところにより」ト書カ、サウデナケレバ「皇室典範ノ定メルトコロニヨリ承繼セラレル」、斯ウ云フ風ニ書カネバ文章ヲナサヌ管デアリマス、英語ノ方ヲ讀ムト云フト上手ニ出來テ居ルト云フヤウナコトニナリマス、是ハ

皇位ハ何人ガ之ヲ繼承スルカト云フコトモ、矢張り皇室典範デ定ルノデスカラ、此ノ書キ方デハ少クトモ私ハ文法上下ウデアラウカト考ヘルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ例ガ相當ニ拾ヒ出セバアリマス、オウルサイデセウガ、又是ハ本會議ノ質問デ議論ヲ願フコトデモゴザイマセヌ、委員會デソレノ専門家ガ適當ニオヤリニナルコトデゴザイマセウ、又先程ノ政府原案二十三條デ、「法律は」ト書イタノガ、英文デ見ルト云フト「法律ガ」デアアルデ、「ガ」ノ方ガ通りガ宜イノデアルト云フコトヲ申シマシタガ、英文デ讀ムト云フト、マア大變ナドラカニナツテ居リ、是ハ先程モ一言致シマシタガ、衆議院ノ修正案ガ然ルベク處置シテ居リマス、ソレカラ「國務大臣は、その在任中、内閣總理大臣の同意がなければ、訴追されない。但し、これがため、訴追の權利は、害されない。」トアリマス、「これがため」「されない」ノデヤナイ、「これがため」「サレルトコトガナイ」ノデアリマス、之モ之デハ書キヤウガドウカト思ヒマス、モウ一ツ重要な點ト致シマシテハ、先程財産權ニ關スル規定ノ所デ、「私有財産は、正當な補償の下に、これを公共のために用ひることが出来る。」トアリマス、「用ひる」ト云フ言葉デハ少シ狭イ、農地調整法ニ關聯シテ考ヘテモ、此ノ言葉デハ不十分デハナイカト申シマシタガ、之モ英語デ讀ミマスと云フト、

「用ひる」ト云フ所ガ「テイクン」ト云フ字ガ使ツテアリマス、サウスルト是ハ誤譯デスネ、「用ひる」ト云フノトハ大分違フノデハナイカ、之モドウモ英語ニ堪エナ方ノ御教ヘヲ受ケナケレバナリマセヌガ、英語ヲ讀ンデスラノト讀メルヤウニ思ヒマスル點ガ、案外本文ノ改正案ニ付テ見ルト云フト、却テ疑問ヲ生ズルト云フヤウナコトガアルノハ、或ハ私ノ不敏ノ致ス所デアルコトデアリマセウガ、餘リ斯ウ云フ席上デ申上ゲルト云フコトハ、誠ニ畏イコトデアリマスルケレドモ、尙一ツ御考ヲ願フコトガ出來レバ幸ニ存ジマス、又政府原案第十一條ノ權利ノ濫用ニ關スル規定デモサウデアリマス、「國民は、これを濫用してはならないであつて、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負ふ。」

洗練サレタル言葉ニ通ジマセヌノデド
ウ云フコトニナルカ知リマセヌガ、
「のであつて」、ト云フコトハ、斯ウ云
フ場合ニハ用ヒナイヤウニ心得マスル
ガ、如何ナモノデアリマセウカ、其ノ
他モウ一ツ、是ハ餘程遠慮シテ申上ゲネ
バナラスコトデアリマスルガ、「戦争
の抛棄」ト云フコトガ、是デ國語トシ
テ意味ヲ爲スデゴザイマセウカ、戦争
ト云フ言葉ニ依ツテ、普通我々ガ考ヘ
ルコトガ、「戦争の抛棄」ト云ツテソレ
デ意味ヲ爲スカ、英譯ノ方ヲ見マス
ト云フ、國民ノ主權的權利トシテノ
「ウオー」「ソヴェレント・ライト・オ
ブ・ザ・ネーション」ト、斯ウ書イテア
ルノデスカラ、ソコデ「ウオー」の抛棄
ト云フコトガ意味ヲ爲スヤウニ思ヒマ
スガ、日本語デ戦争トヤツタ時ニ、戦
争ヲ抛棄スル、分ラヌコトモナイヤウ
デスナ、皆サン御使ニナツテ居ルカ
ラ、私モ使ヒマス此ノ頃ハ……是デ宜
イデアラウト思ヒマスガドウカ、併シ
ナガラマア抛棄ト云フヤウナコトヲ離
レテ實體的ニ議論ヲスレバ、更ニ進
デ我々ハ、戦争ヲ否定スルト、斯ウ云
フ處迄行ツテ抛棄以上ノ力強イ言葉ヲ
用ヒルト云フコトガ出来ナイモノデゴ
ザイマセウカ、先程幣原國務大臣ガ文
明ガ戦争ヲナクスルカ、戦争ガ文明ヲ
ナクスルカ、斯ウ云フ關係ニ今立ツテ
居ルト仰セラレタ、其ノ御言葉ガ私ハ
非常ニ名言デアルト思ヒマス、サウシ
テ我々ハ其ノ一ツノ意氣込ノ下ニ戦争

ノ抛棄ヲスルナラ、我々ガ戦争ヲ抛棄ス
ルナドト云フ弱イ言葉デナクテ、戦争
ト云フモノノ自體ヲ否定スルト云フ
ヤウナ處迄行クト云フ勇氣ハナイモノ
デゴザイマセウカ、又先程此ノ刑罰ハ
苦役デアル、苦役ト云フヤウナ字、苦
役ト云フヤウナ字ハマア是ハ法律デ使
ツテ使ヘナイコトモナイデゴザイマセ
ウガ、英譯デハ「サービチュード」ト云
フ字ガ使ツテアリマス、「サービチュ
ード」、是デ分リマス、「イギリス」ノ
本ヲ少シバカリ讀ンデ居ル私達ハナダ
ラカニ讀ンデ行カレヤウニ思ヒマス
ガ、日本ノ憲法ニ苦役ト云フヤウナ言
葉ガ使ツテアルト、何ダカドウモ土足
デ座敷ハ上ツタヤウナ持ガセラレル
ヤウニ思ヒマスルシ、又政府原案ノ第
二十五條ノ第三項ニ兒童ノ酷使ト云フ
言葉ガ用ヒテアリマスルガ、英語ニ之ヲ
翻譯シタ人ハ「エキスパロイティシ
ョ」ト云フ文字ヲ使ツテ居リマス、
成ル程「エキスパロイティショ」ト云
フ文字ヲ使フ方ガ兒童問題ニ關スル本
當ノ意味ヲ現スモノデ、我々ノ國語ノ
酷使デハ足りマセヌト思ヒマス、陸海
軍、空軍ハ之ヲ保持シテハナラナイト
云フ文句、是ハ衆議院デ修正シマシ
タ、戦力ハ之ヲ保持シナイト云フノデ
アリマスカラ、是ハモウ私ガ申述ベル
コトハアリマセヌガ、英譯ノ方ニハ戰
力ノ保持ハ許サレナイ、斯ウ云フ風ニ
素直ニ出来テ居リマス、文章其ノモノ
ガ文化國家ノ憲法ニ相應シイ氣力ト滑

カサトヲ缺イテ居ルト云フコトガ此ノ
憲法ノ改正案ニ付テ言ヒ得ルコトデハ
ナイカ、甚ダ私ノ立場トシテハ自分ヲ
顧ミナイ言葉デアリマスルケレドモ、
御急ギノ間ノ立案デアツタトハ言ヘ、
憲法ハ尊重セラレ擁護セラレネバナラ
ヌモノデアツテ見ルト云フト、
此ノ憲法ノ用語、文體ト云フモノハモ
ウ少シ一ツ洗練サレテ然ルベキモノデ
ハアリマセヌカ、即チ汚レタル古い衣
ヲ抛ツタノデアリマス、新シイ衣ヲ我
我ガ身ニ纏ウタコトニナレバ、其ノ新
シイ衣ハ矢張り寒サ暑サヲ凌グバカリ
デナク、我々ノ體ニ相應シク上手ニ縫
針ガ出来テ居ルト云フコトヲ希望スベ
キデハアリマスマイカ、(拍手)私ハ此
ノ憲法ノ成立シタ曉ニ於テ國民ガ、サ
ウシテ學校ノ子供ガ快ク此ノ憲法ニ用
ヒラレテ居ル所ノ言葉ト文章ヲ受入レ
ラレルカドウカ、憲法ニ對スル反抗ガ
憲法ノ用語ト文體トニ先ツ始ルト云フ
ヤウナコトガアルナラバ憂フベキコト
デアラウト思フノデアリマス、政府ハ
之ヲ國語トシテ果シテ模範的ノモノト
考ヘテ居ラレルノデアルカ、マア是デ
模範的ノモノデアルト仰ツシヤレバ、
ソレ以上議論スルコトハアリマセヌケ
レドモ、憲法ハ、繰返シテ申シマス、
我々ノ國民ノ經典デアリ、國民ノ教科
書デアルト云フコトヲ考ヘネバナリマ
セヌ、失禮致シマシタ(拍手)

○議長(公爵德川家正君) 御諮リヲ致
シマス、帝國憲法改正案審議ニ要スル
定足數ヲ缺ク處レガゴザイマスカラ、
只今ノ牧野君ノ質疑ニ對スル政府ノ答
辯並ニ爾餘ノ通告者ニ依ル質疑ハ明日
ニ譲リマシテ、此ノ際議事日程ヲ變更
シ、日程第二以下ヲ議題ト致シタイ
存ジマス、御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(公爵德川家正君) 御異議ナ
イト認メマス
○議長(公爵德川家正君) 日程第二、
「電氣事業法の一部を改正する法律
案」、日程第六、「石炭及コークス配給
統制法の一部を改正する法律案」、政
府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、
是等ノ兩案ハ同一委員ニ付託セラレマ
シタノデアリマスカラ、日程ノ順序ヲ
變更シ、一括シテ議題トシ、委員長ノ
報告ヲ求メタイト存ジマス、御異議
ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(公爵德川家正君) 御異議ナ
イト認メマス、委員長八代男爵
電氣事業法の一部を改正する法律
案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依
テ及報告候也
昭和二十一年八月二十三日
委員長 男爵八代五郎造
貴族院議長公爵德川家正殿

石炭及コークス配給統制法の一部
を改正する法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依
テ及報告候也
昭和二十一年八月二十四日
委員長 男爵八代五郎造
貴族院議長公爵德川家正殿
〔男爵八代五郎君登壇〕
○男爵八代五郎君 大分時間モ經チ
マシタノデ、成ルベク簡單ニ御報告申
上ゲタイト存ジマス、只今議題ニ供サ
レマシタ「電氣事業法の一部を改正す
る法律案」外一件ニ付テ特別委員會ニ
於ケル審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告申
上ゲマス、本委員會ハ去ル八月十四日
ヨリ二十四日ニ至ル迄前後九回ニ互ツ
テ之ヲ開催シ、仔細ニ檢討ヲ加ヘ、慎
重審議ヲ行ヒマシタ結果、政府原案通
リ可決スベキモノナリト決定致シマシ
タ次第デゴザイマス、委員會ハ最初ニ
先ツ商工大臣ヨリ提案理由ノ説明、續
イテ政府委員ヨリ法律案ノ逐條的説明
ヲ聴取致シマシタガ、是等ノ内容ハ此
處デハ省略スルコトニ致シマシテ、質
疑應答ノ主ナルモノニ付キマシテ御報
告申上ゲマス、順序ト致シマシテ電氣
事業法ノ方ヲ先ニ申上ゲマス、先ツ第
一ニ今後ノ電氣事業ニ關シテ其ノ組織
並ニ運営ニ對スル政府ノ方針如何、又
東京都其ノ他公共團體ニ依ル電氣事業
經營ニ對スル政府ノ所見如何、又電力ノ
國營問題ニ關スル政府所見如何等、電
氣事業全般ノ企業形態ニ關スル質問ガ

ゴザイマシタ、之ニ對シマシテ商工大臣及ビ政府委員ヨリ我が國ノ地勢ノ特質ニ鑑ミ本州中央部ニ集中シテ居ル水力ヲ最も合理的ニ開發シ、運送シテ、發電用石炭ノ節減、之ヲ圖ルコトノ爲ニ發電及ビ送電ニ關シテハ日本發達電會社ノヤウナ單一ノ機關ニ依ツテ行フコトガ最も適當デアリ、又配電ニ付テモ配電事業ノ合理的運送ト云フ見地カラ配電會社ノ形態ハ配電統制令廢止後ト雖モ現在ノヤウナ形デ以テ存續シテ行ク必要ガアル、又公營問題ニ付テハ經營ノ規模、設備ノ復舊、資材ノ節約、電力配給ノ合理化、農村電化ノ促進等ノ見地カラ、之ガ實施ニハ多大ノ疑問ガアリ、今後ノ電氣事業全體ノ合理的運送ト云フ要請ニモ逆行スルヤウナ感ジガアル、又國營問題ニ付テハ今日ノ情勢ニ於テハ國營ニ進ズル現在ノ國家管理ノ方式ガ適當デアルト考ヘル、又電氣事業ハ肥料、石灰ニ比較シテ一層國營ニ適スルモノト考ヘラレルノデ、今後ハ十分ニ研究スルコトトシタイ、尙以上ノ如キ將來ノ電氣事業ノ組織運送ノ問題ニ付テハ、今回ノ改正案ノ中ニ織込マレテ居リマスル電氣委員會ガ設定サレ、此ノ委員會ニ於テ十分ニ調査審議シテ、具體的ナ結論ヲ得タイト考ヘテ居ルト云フ答辯ガゴザイマシタ、第二點ト致シマシテ、今後ノ料金政策及ビ補給金制度ヲ如何ヤウニスルカト云フ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテ商工大臣及

ビ政府委員ヨリ、公益事業タル性質ニ鑑ミ極力低廉ニシタイと思フガ他面企業トシテ成立セシムル必要モアルノデ、企業ノ利潤、國民ノ負擔ノ兩者ヲ比較考慮シテ合理的ニ決定シタイト云フ考デアル、併シ最近ノ物價騰貴ノ趨勢ニ鑑ミ、將來ニ於テ現行ノ料金ハ是正ヲ要スルカモ知レス、又補給金制度ヲ今後存續セシムルカドウカト云フコトニ付テハ、經濟安定本部ニ於テ研究スルコトトシタイト云フ答辯ガゴザイマシタ、第三點ト致シマシテハ、經濟ノ再建、失業對策トシテ電源開發ヲ積極的ニ行ツテハドウカ、政府ハ之ニ對シテドウ云フ計畫ガアルカト云フ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテ商工大臣カラ電源開發ノ隘路ハ「セメント」デアル、而モ其ノ「セメント」ハ石炭ト云フ隘路ガアツテ、從ツテ一方ニ於テ極力之ガ増產ヲ圖ルト同時ニ目下石炭ノ輸入ヲ其ノ筋ニ懇請シテ居ルガ、幸ニ是ガ受入ラレテ多少ノ餘裕ガ出來ルバ極力「セメント」ニ廻シテ、速カニ電源ノ開發ニ著手シタイト云フ答辯ガアリマシタ、續イテ政府委員ヨリハ開發計畫ニ付キマシテ相當詳細ナ説明ガアリマシタガ、大分數字のノコトガアリマスノデ、此處デハ省略致シマシテ、速記録ニ讓ルコトニ致シマス、第四點ト致シマシテハ、周波數統一ノ問題デアリマスガ、周波數統一ト云フノハ長イ間ノ懸案デアリ、今ガ最も絶好ノ機會デアルカラ直チニ著手シテハドウカ

ト云フサウ云フ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテ政府委員カラハ周波數統一準備調査委員會ト云フ委員會ガアリマシテ、之ニ諮問シマシタ結果答申ヲ得マシテ、約十二億圓ノ經費トソレカラ五年ノ歲月ヲ費シテ、之ヲ實現シタイト云フ計畫デアアル、今年ガ其ノ準備ノ期間デアルト云フ答辯デアリマシタ、其ノ周波數ハ五十「サイクル」ト六十「サイクル」トアリマスガ、六十「サイクル」ニ統一スル方針デアアル、斯ウ云フコトデアリマシタ、第五點ト致シマシテハ、最近ニ於ケル停電其ノ他ノ電事事故ノ復舊ニ關シ、配電事業ノ「サーヴィス」ガ非常ニ低下シテ居ル、之ヲ政府ハドウ對策ヲ講ジテ行クノカト云フ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテ商工大臣及ビ政府委員カラ最近ノ配電事業ノ「サーヴィス」低下ハ頗ル遺憾デアリ、政府トシテハ機會アル毎ニ此ノ點ニ關シテ業者ニ警告ヲ發シテ居ルガ、根本ノ點ハ資材ノ不足、從業員ノ心構デアツテ、今後ハ變壓器其ノ他配電設備ノ増產ニ一層力ヲ拂ヒ、從業員ニ對シマシテハ公益事業デアルト云フコトヲ保持ヲ以テ其ノ職ニ當ルコト、又待遇ヲ相當ニ改善スルト云フヤウナコトヲ萬事相談ヅクデ以テ話ヲ進メテ、公益事業ノ本來ノ面目ヲ發揮スルヤウニ努力スルト云フ答辯ガゴザイマシタ、第六點ト致シマシテハ、電力ノ需給狀況及ビ電力制限ノ具體的方法ハドウデアアルカト云フ質問ガゴザイマ

シタ、之ニ對シマシテ政府委員カラ最近ノ電力需要ノ激増ニ關スル説明ガアリマシテ、今年ノ冬ニ於テハ渇水ノ程度、發電用石炭ノ入手狀況ニ依ツテ相當制限ヲシナケレバナラスト云フ説明ガゴザイマシタ、現ニ此ノ委員會ヲ將ニガ終ラムトスル日ニ、一部ノ電力消費制限ヲ發令サレタノデアリマス、其ノ發令サレタ翌日相當ノ降雨ガアリマシテ、其ノ發令ヲ延期スルト云フコトニナリマシテ、一安心スルト云フヤウナ形デアリマス、又此ノ制限ニ付キマシテ色々ト研究ノ結果特ニ重要ナ產業及ビ家庭用ノ電氣ハ出來ルダケ制限ノ外ニ置キタイ、斯ウ云フ風ノ考デアルト云フコトガゴザイマシタ、其ノ他戰災設備ノ復舊、農村電化、電氣委員會ノ運用、社債及ビ罰則等ニ關シテ頗ル熱心ナ質疑應答ガアリマシタノデアリマスガ、是等ハ總テ速記録ニ讓ルコトニ致シマス、斯様ニ致シマシテ討論ニ入り、一委員ヨリ本案ニ付テハ賛成デアアルガ、罰則ハ他ノ法規ト均衡ヲ將來考慮スルヤウニシタイト云フ希望ヲ添ヘテ賛成ガアリマシタ、續イテ一委員ヨリ配電事業ノ「サーヴィス」向上等ニ關シ、政府ノ善處ヲ要望シテ本案ニ賛成スル旨ノ發言ガアリマシタ、又一委員ヨリ今後ノ電氣事業ノ運送ニ付テハ統制ニ依ル缺陷ヲ除却シテ、眞ニ公益事業ノ模範タラシムルヤウニ努力ヲ希望スルト云フ意味ノコトヲ添ヘテ賛成セラレタノデアリマス、斯様ニ致シマシテ採

決ニ入りマシタ處、全會一致本案ハ政府原案通り可決スベキモノデアルト決定致シマシタ次第デアリマス、次ニ「石炭及コークス配給統制法の一部を改正する法律案」之ニ付テ申上ゲマス、是モ初メハ商工大臣ノ提案理由ノ説明、後ニ政府委員ノ逐條の説明ガ詳細ニ行ハレマシタ、其ノ要旨ハ戰後ノ產業再建ノ事態ニ即應スル爲ニ石炭及「コークス」ノ配給統制機關デアアル所ノ日本石炭株式會社ノ運送ヲ民主化スル目的ヲ以テ其ノ社長及ビ重役ヲ株主總會ノ選舉ニ俟ツコト一般ノ諸會社ト同様トシ、社長ノ原案執行權ヲ削リ、監理官制度ヲ廢止スル等戰爭中ノ軍國的色彩ヲ拂拭シ、又實際運送ニ當テハ下請會社ヲ指定スル權限ヲ會社ニ附與シテ、事業ノ圓滑ヲ圖ツタモノデアリマス、以下質疑應答ノ主ナルモノヲ申上ゲマス、第一ニ、石炭ノ生産配給及ビ輸送ノ實情竝ニ之ニ伴フ諸種弊害ノ防止、是等ニ對スル措置ハ如何デアアルカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ政府委員ヨリ、生産及ビ配給ニ關シテ執ツテ居ル從來ノ施策竝ニ將來ノ見透シニ付テ詳細説明ガアリマシテ、日本石炭株式會社ノ運送ニ關シテモソレハ善處スベキ旨ノ答辯ガアリマシタ、第二ニ、石炭ハ巨額ナ價格調整補給金ヲ使ツテ居ルノデアアルガ、増產ノ見地カラ政府ノ深甚ナ考慮ヲ希望スル、勞務者ニ對スル能率の賃金制ヲ採用スルト併セ、之ガ生産意欲ヲ刺戟

向上セシムベキ施策ニ關シテドウ云フ
風ナコトヲ考ヘテ居ルカト云フ質問ニ
對シマシテ、政府委員ヨリ、其ノ趣旨
ヲ了承シマシテ、目下其ノ對策ニ付テ
折角立案中デアルト云フコトデアリマ
ス、大體九月中一轉機トシテ石炭ノ
増産ヲ向上サセルト云フ答辯デゴザイ
マシタ、第三ニ石炭消費ノ合理化及ビ
各動力資源ノ綜合利用ニ付テ方策ガ立
ツテ居ルカドウカ、具體的ニ申シマス
ルト、石炭ヲ單ニ燃料トシテ燃シテ居
ルノハ如何ニモ惜シイデハナイカ、石
炭本來ノマダノ利用スベキ要素ガ澤
山ニアルデハナイカ、之ヲ單ニ燃シテ
シマフト云フコトハ、石炭不足ノ今日
甚ダ惜シイコトデアルカラ、之ニ對シ
テ何カ方策ヲ立テテ能率ヲ上ゲルト云
フヤウナ考ハナイカト云フコトデアリ
マシタ、之ニ對シマシテ商工大臣カ
ラ、關係各方面ノ智能ヲ動員シテ折角
研究ヲ進メテ居ル、マダ成果ハ學ラス
ケレドモ、サウ云フ方向ニ向イテ居ル
ト云フ答辯デアリマシタ、其ノ他炭礦
勞働爭議ノ模様、勞務者ノ補充ノ狀
況、亞炭及ビ「コークス」増産對策ニ付
テ色々質問ガゴザイマシテ、一々政
府委員カラ丁寧ナ説明ガゴザイマシ
タ、是等ハ總テ速記録ニ議ルコトニ致
シタイト思ヒマス、一般的ノ質問ヲ終
リマシテ、更ニ逐條的ノ質問ヲ行ヒ、
是亦一々政府委員カラ詳細ナ説明ヲ得
マシタ、質疑ヲ終リマシテ、討論ニ入
リマシタ處ガ、一委員カラ、石炭ハ實

ニ巨額ナル補給金ヲ與ヘテ居ル現状ニ
鑑ミ、本改正案ノ趣旨ヲ十二分ニ發揮
シ得ルヤウ善處セラレタキ旨希望ヲ附
シテ本案ニ賛成スル旨述べラレマシ
タ、又一委員ヨリハ、日本石炭株式會
社ノ機構ノ民主化ハ本案ダケハ物足
ラス感ジガスル、其ノ他尙不十分ト思
ハル、點モ多クアルカラ、是等ハ將來
ノ整備ヲ期シテ戴キタイ、サウ云フ希
望ヲ附シテ本案ニ賛成スルト云フ意見
ガゴザイマシタ、斯様ニシテ討論ヲ終
リ、採決ニ入りマシタ處、全員一致本
法律案ハ政府原案通り可決スベキモノ
ト決定致シマシタ、以上極メテ簡單デ
ゴザイマスガ、兩案ノ委員會ノ報告ヲ
申上ゲマシタ

○議長(公爵德川家正君) 別ニ御發言
モナケレバ兩案ノ採決ヲ致シマス、兩
案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザ
イマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家正君) 御異議ナ
シト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第
二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵德川家正君) 西大路子爵
ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家正君) 御異議ナ
シト認メマス

○議長(公爵德川家正君) 兩案ノ第二
讀會ヲ開キマス、御異議ナケレバ全部
ヲ問題ニ供シマス、兩案全部委員長ノ
報告通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家正君) 御異議ナ
シト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第
三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵德川家正君) 西大路子爵
ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家正君) 御異議ナ
シト認メマス

○議長(公爵德川家正君) 兩案ノ第三
讀會ヲ開キマス、兩案全部第二讀會ノ
議決通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家正君) 御異議ナ
シト認メマス

○議長(公爵德川家正君) 日程第三、
所得稅法の一部を改正する等の法律
案、日程第四、臨時租稅措置法を改正
する法律案、日程第五、地方稅法及び
地方分與稅法の一部を改正する法律
案、政府提出、衆議院送付、第一讀會
ノ續、委員長報告、是等ノ三案ヲ一括
シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイ
マセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家正君) 御異議ナ
シト認メマス、委員長周布男爵
所得稅法の一部を改正する等の法
律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依
テ及報告候也

昭和二十一年八月二十六日

委員長 男爵周布 兼道
貴族院議長公爵德川家正殿

臨時租稅措置法を改正する法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依
テ及報告候也

昭和二十一年八月二十六日

委員長 男爵周布 兼道
貴族院議長公爵德川家正殿

地方稅法及び地方分與稅法の一部
を改正する法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依
テ及報告候也

昭和二十一年八月二十六日

委員長 男爵周布 兼道
貴族院議長公爵德川家正殿

八月二十六日ノ午後採決ヲ致シマシタ
ル結果、全會一致ヲ以テマシテ原案通
リ可決ニ相成ツタノデゴザイマス、提
案ノ目的及ビ内容ニ付キマシテハ、過
日本會議場ニ於テ大臣ヨリ御説明ガソ
レゾレゴザイマシタガ、其ノ重要ナル
點ニ付キマシテ私ハ申上ゲタイト思ッ
タノデゴザイマスルガ、時間ノ關係上、
遺憾ナガラ之ヲ省略致シマシテ、唯左
ノ二點ニ付テダケ申上ゲテ置キマス、
政府提出案ニアリマシテハ、平年度ニ
於テ二十九億七百餘萬圓、初年度ノ昭
和二十一年度ニ於テハ、二十四億五千
百餘萬圓ノ増収見込デアリマシタノ
ヲ、衆議院ニ於ケル遊興飲食稅ノ免稅
點引上ゲノ修正ニ依リマシテ、平年度
ニ於テ一億三千百餘萬圓、初年度ノ昭
和二十一年度ニ於テハ六千五百餘
萬圓ノ減收ナル譯デアリマス、此ノ
修正ニ對シマシテ、政府ハ之ヲ尊重ス
ルトノ言明ガゴザイマシタ、尙遊興飲
食稅ガ修正ニナリマシタ結果ト致シマ
シテ、配付稅ノ減收額ヲ入場稅及ビ遊
興飲食稅ニ對スル配付稅ノ繰入レ割合
及ビ分與割合ノ變更ニ依ツテ補填セム
トスルトノコトデアリマシタ、次ニ質
問ニ移リマシテ、其ノ主ナルモノヲ御
報告申上ゲマス、先ツ一委員ヨリ本
案ヲ立案スルニ際シ、財産稅ノ徵收、
金融機關經理應急措置案及ビ會社經理
應急措置案、是等ヲ考慮ノ中ニ入レタ
カ、所定稅金徵收ノ見込ハドウデア
ルカト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ト

シテハ、財産税ハ考慮ニ入レタガ、金融措置、會社經理措置ハ考ニ入レテハ居ラナカッタガ、假令此ノ二案ガ實施サレテモ、歳入ニ大キナ狂ヒヲ生ズルトハ思ハレナイ、直接此ノ影響ヲ受ケルモノトシテハ、法人税ガアルガ、ソレトモ昭和二十一年度分ハ十數億圓ヨリ見込シテ居ラヌシ、多クハ一二年度前ノ事業年度ノモノデ、未ダ決定ヲ見ナイ法人モアルカラ、十分徴收ハ擧ゲラレル見込デアルトノ答辯デアリマシタ、次イデ一委員ヨリ、立案ニ當リ經濟界ノ狀況、物價ノ騰貴、負擔ノ權衡、國民ノ負擔能力、國民所得ノ目標ヲ立テ、ソレニ基イタモノデアルカドウカ、近キ將來ニ於テ根本的ニ稅制改革ヲ行フト云フコトデアルガ、財政ノ基礎ヲ鞏固ニスル爲ニ、増稅ノ必要ヲ認メ、稅制ニ根本的ニ改正ヲ加ヘ、負擔ノ均衡ヲ圖ルト云フ趣旨ナリヤトノ質問ニ對シマシテハ、立案當時ハ、財産稅徵收後ノ國民ノ負擔力ノ正確把握ハ出來ナカッタガ、此ノ際國民ニ出來ルダケノ負擔ヲシテ貰ハウト云フノデ研究ヲ進メ、稅制ノ根本的改正ハ次ノ機會ニ譲リ、財産稅トノ關係デ、今回ハ是非必要ト思ハレル範圍内ニ止メタトノコトデアリマシタ、今後ハ財産稅トノ關係カラモ高額資産者ハ減少スルト思フガ、小額資産者ニハ財産稅ハ餘リ掛ラヌノデ、其ノ方面ニ相當負擔能力ハ殘サレテ居ルト考ヘル、稅制ノ根本的改正ト云ツテモ、所得稅中心ノ稅制

ニ根本的的改革ヲ加ヘル餘地ハ少イ、戰時中ノ増稅ニ付テハ改正ヲ加ヘ、直接稅、間接稅ノ均衡ヲ圖リ、國民ノ負擔力ヲ見究メテ稅率ノ決定ヲシタイト考ヘルト云フ答デアリマシタ、又一委員ヨリハ、來年度ハ相當歳入不足ヲ生ズルト思ハレル、特ニ戰時中、國費ノ使用ガ放漫ニ流レ、歳出ノ節約ヲ餘リ考ヘヌ傾キガアルガ、此ノ際行政各部門ニ互リ、歳出ノ引キ緊メヲ徹底セシメル必要ガアルト思フ、來年度ノ豫算中ニハ、本年度ニ比シテ經費ノ増額ニナル科目ハナナカ、本年度ノ赤字ニ對シテハ、財産稅ノ徵收ニ依ツテ賄ヒ得ルモ、來年度ニ於テハドウシテモ租稅收入ニ頼ラネバナラヌコトト考ヘルガ、政府ハ來年度豫算編成ニハ如何ナル方針ヲ以テ臨マレルヤトノ質問ニ對シマシテ其ノ答ハ、本年度ノ豫算中約半分ハ本年度限りノ經費デ、其ノ主ナルモノトシテハ、在外同胞ノ引揚ノ費用、進駐軍將兵ノ兵舍、家族ノ宿舍ノ建設費等デ、來年度ハ相當ニ歳出ノ減少スル見込デアアル、明年度ノ豫算ノ收支ガ償フカドウカニ付テハ言明出來ヌガ、今日ノ情勢ニ於テハ多少ノ赤字ハ已ムヲ得ヌト考ヘテ居ル、明年度豫算中増加スルモノアリトスレバ、進駐軍費ヲ別トスレバ、失業救濟事業費ト考ヘラレル、國內的經費トシテハ、ソレ以外ニ非常ニ増額スルモノアリトハ考ヘラレヌガ、問題ハ賠償物件ガ確定シタ時ニ、ソレノ解體輸

送ニ要スル經費ガドウ位ノ額ニ達スルカデアアル、非公式デアアルガ、商工省アタリノ計算ニ依レバ、百億圓ニ上ル見込デアアルガ、此ノ點ニ關シテハ司令部ノ方面デモ、餘リ日本ノ財政ノ負擔ニナラヌヤウ、其ノ爲ニ多クノ失業者ヲ出サヌヤウニ考慮サレテ居ルト聽イテ居ルガ、此ノ點ガ心配デアルトノコトデアリマシタ、又一委員ヨリ、政府ハ日本ノ稅率ハ外國ニ比シテモ高過ギルコトハナイトノコトデアアルガ、此ノ儘デ推移スレバ、日本ノ中産階級ハ是以上ノ増稅ニハ耐エ得ラヌノミナラズ、没落ノ外ハナイト思フ、財政ノ緊縮ヲ圖リ、行政費ノ節約ヲ行ヒ、國民ノ負擔ノ輕減ヲ圖ルコトガ是非必要デアアル、又國債ノ利拂ニ付テモ考慮ノ餘地ハナナカ、軍需補償ノ打切りノ關聯シテ、何モ三分半ヲ維持スル必要ハナイト思フ、例ヘバ「コンソル」公債ニスルトカ、一分カ二分半ノ利率デ五十年百年ノ長期公債ニ借り替ヘルコトモ、一ツノ解決策ナリト考ヘル、更ニ聯合軍ノ駐屯モ是ハ世界平和ノ爲デアリ、其ノ經費ヲ日本ダケガ負擔スルニモ及ブマイ、此ノ點ニ付テ聯合軍ニ交渉ヲ進メルコトハ、一面ニ於テ「インフレ」防止ノ意味ニモナルト考ヘルガ如何ト云フ問ニ對シテハ、行政整理ハ一ツ根本的ニ考ヘテ見タイ、國債利子ノ引下ハ公債ノ九割何分迄ガ金融機關ノ手持ニナリ、預金ノ見返リトシテ所有サレテ居ル現狀トシテハ、直チニ英國ノヤ

ウニ「コンソル」公債ト云フ譯ニモ行カヌ、利率ノ一分引下ハ郵便貯金ノ利拂、國債ノ價格低下、銀行資産ノ關係ヨリ困難デアリ、事實國債ノ打切、利子ノ引下ハ預金整理ノ問題ニ關聯シ、殊ニ補償打切ニ伴フ預金整理ノ見透シモツカヌ爲、事實上手ガ付ケ兼ねル、進駐軍ノ經費ハ前内閣時代ニ削減ヲシテ賁ツテ居ルガ、今後モ出來レバ更ニ削減シテ賁ヒタイト考ヘテ居ルトノ答デアリマシタ、又次ノ質問ハ、昭和二十一年度ノ所得稅ノ査定ニ當リ、所謂關所得者ニ對スル課稅ニハ寛ヤカニシテ、眞面目ナ所得者ニ對スル課稅ノ方ハ苛酷ニ失スルモノガアツタガ、今後ハ如何ニシテ公正ヲ期スル考カ、最近農漁村方面ニ新圓ガ滯留シテ居ルガ、之ニ對シテハ如何ニ課稅ヲ爲ス方針デアリヤ、第三國人ノ間ニ相當多額ニ上ル新圓ガ集中サレテ居ルガ、此ノ方面ニモ課稅スル意向ハナキヤトノ問ニ對シテハ、當局ハ昭和二十一年度ノ査定ハ、實際ノ所得ニ對シテ課稅シテ居ル、昨年度ハ米價ノ値上リ、野菜ノ自由販賣ニ依リ農村ニ於ケル所得ハ非常ニ増大シテ、二十年度ノ査定額十九億圓ニ比シテ二十一年度ハ九十三億圓ニ上ツテ居ル、之ニ依リ相當ニ農村ノ所得ヲ捕捉シ得タト考ヘテ居ル、唯例外的ニ苛酷ナモノモアツタノデ、之ニ對シテハ至急訂正ヲ加ヘタノデアアル、漁村モ二十年度一億七千萬圓、二十一年度七億二千萬圓ニテ、是亦相當ニ捕捉出

來タト思フガ、今日ノ狀態トシテハ、職員ノ手不足、賃金ノ低下ノ爲ニ、課稅ノ適正ヲ期シ得ナイ憾ミガアル、又第三國人ニ對スル課稅モ、今デハ課稅方針モ定リ、實施運ビニ至ツテ居ルトノ答デアリマシタ、次ハ今回ノ改正ニ依リ、年額三萬圓ノ所得者ニ對シテハ五割強、五萬圓ノ所得者ハ六割強、十萬圓ニ七割強ノ課稅ニナツテ、増稅ノ餘地ハナナカ、今後ハ如何ナルガ、將來更ニ増額スル積ナリヤト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、今次戰爭中ニ於ケル果次ノ増稅ノ爲、所得稅ノ負擔ハ過重ニナツテ居ルト思フガ、直接ニハマダ増稅ノ餘地アリト考ヘル、一萬圓ヨリ十萬圓程度迄ノ所得ニ對シテハ、外國ニ較ベテ尙高過ギルトハ思ハレナイ、敗戰後ノ日本トシテ、増稅ノ餘地ナシトハ言ヘナイトノ答辯デアリマシタ、次ニ、戰爭ニ基ク資材、資産ノ減損、生産設備、私有財産ノ減少、賠償ニ依リ生産減ト共ニ、地方復興費、物價高ニ依リ生活費ノ昂騰ヲ考ヘルト、國民ノ負擔力ハ頗ル貧弱ナリト思フ、納稅ニ當ツテハ、預貯金ヲ之ニ振當テル必要ガアルト思フガ、第二封鎖ノ預貯金ヲ充當セシメルコトハ出來ザルヤ、今日社會ノ不安定ハ、食糧事情ニ基因スルモノナリト考ヘルガ、幸ニ本年度ノ農作物ノ作柄ハ良好デアアルカラ、食糧ノ増配ヲ行ヒ、民生ノ安定、生産ノ増強ヲ圖ル意思ナキヤ、今日肥料行政ノ多元化ガ肥料増産ニ一大支障ヲ來シテ居

○議長（公爵徳川家正君） 御異議ナ ト認メマス ○議長（公爵徳川家正君） 明日ハ午前 十時ヨリ開會致シ、帝國憲法改正案ノ 審議ヲ繼續致シマス、議事日程ハ彙報 ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニ テ散會致シマス 午後五時十七分散會	貴族院議事速記録第十八號正誤	頁段行 誤 正 二三三二五六 御異議ガゴ 御異議ゴザ ザイマスカ イマセスカ
---	-----------------------	--

發行所
東京都牛込區市ヶ谷本村町
電話九段五三一〇〇
振替東京一九〇〇〇
圖書課
印刷局